
性の多様性等に係る県民意識調査 報告書

令和5年9月

新潟県 知事政策局 政策企画課

目次

1. 調査の概要	1
(1) 調査の設計	1
(2) 調査項目	1
(3) 回収結果	2
(4) 集計・分析方法	2
(5) その他の留意事項	3
(6) 地域区分	4
(7) 回答者の構成	5
2. 調査結果	11
(1) あなたのことについて	11
ア 自分自身で認識している性別	11
イ 恋愛の対象となる性別	13
(2) 用語への理解等について	15
ア 用語の認知度	15
イ 身近な性的マイノリティの方の有無	34
ウ 性的マイノリティの方との関係性	36
エ 性的マイノリティに対する考え方	38
オ 身近な人から性的マイノリティであることを打ち明けられた場合の対応	41
(3) これまでの経験や施策等の必要性について	44
ア 自身の経験や身近で見聞きしたこと	44
イ 自身の経験や身近で見聞きした場面	52
ウ 県内での性の多様性の理解度について	54
エ 県や市町村が取組を進めることの必要性について	57
オ 施策等の必要性	60
(4) パートナーシップ宣誓制度等について	91
ア パートナーシップ宣誓制度の認知度	91
イ パートナーシップ宣誓制度導入に対する考え方	93
ウ パートナーシップ宣誓制度における公的サービスの利用についての考え方	96
エ ファミリーシップ制度導入に対する考え方	98
オ 婚姻に関する制度についての考え方	101
3. 調査票様式	111

◇ 本報告書の利用にあたっての注意点

1. 本文及び図表中の回答者の割合は、規正標本数を基に算出した百分比（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入してある。そのため、総数と内訳の計が一致しない場合がある。
2. 図表中の「n（number of cases の略）」とは、回答者総数（該当者質問では該当者数）のことで、100％が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
3. 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。

1. 調査の概要

(1) 調査の設計

- ① 調査目的：性のあり方にかかわらず誰もが活躍できる社会を実現するため、性の多様性等に関する県民の意識や理解の状況を把握する目的で実施。
- ② 調査地域：新潟県全域
- ③ 調査対象：新潟県内に居住する18歳以上79歳以下の男女個人
- ④ 標本数：3,000(人)
- ⑤ 抽出方法：層化二段無作為抽出法(市町村の保有する選挙人名簿抄本より抽出)
なお、調査結果は推定母集団数と回収結果から算出した「集計ウェイト」により標本数を規正してある。
- ⑥ 調査方法：郵送配布、郵送及びWEB回答
- ⑦ 調査期間：令和5年6月26日(月)～7月14日(金)

(2) 調査項目

- ① あなたのことについて
 - ・ 戸籍上の性別
 - ・ 自分自身で認識している性別
 - ・ 恋愛の対象となる性別
- ② 用語への理解等について
 - ・ 用語の認知度
 - ・ 身近な性的マイノリティの方の有無
 - ・ 性的マイノリティの方との関係性
 - ・ 性的マイノリティに対する考え方
 - ・ 身近な人から性的マイノリティであることを打ち明けられた場合の対応
- ③ これまでの経験や施策等の必要性について
 - ・ 自身の経験や身近で見聞きしたこと
 - ・ 自身の経験や身近で見聞きした場面
 - ・ 県内での性の多様性の理解度について
 - ・ 県や市町村が取組を進めることの必要性について
 - ・ 県や市町村による取組や施策の必要性
- ④ パートナーシップ宣誓制度等について
 - ・ パートナーシップ宣誓制度の認知度
 - ・ パートナーシップ宣誓制度導入に対する考え方
 - ・ パートナーシップ宣誓制度における公的サービスの利用についての考え方
 - ・ ファミリーシップ制度導入に対する考え方
 - ・ 婚姻に関する制度に対する考え方
- ⑤ 性の多様性の理解促進に関するご意見
- ⑥ 回答者の属性(年代、職業、居住地)

(3) 回収結果

回収数 1,412 (回収率47.1%)

(うち地域・性別・年齢のいずれかが不明36)

有効回収数(集計対象数) 1,376 (有効回収率45.9%)

【回答方法の内訳】

	合計	郵送	WEB
全体	1,376	992 (72.1%)	384 (27.9%)
18~19歳	29	10 (34.5%)	19 (65.5%)
20~29歳	167	73 (43.7%)	94 (56.3%)
30~39歳	226	122 (54.0%)	104 (46.0%)
40~49歳	188	125 (66.5%)	63 (33.5%)
50~59歳	265	198 (74.7%)	67 (25.3%)
60~69歳	247	219 (88.7%)	28 (11.3%)
70~79歳	254	245 (96.5%)	9 (3.5%)

(4) 集計・分析方法

集計・分析にあたり、回答者の性別・年齢階層の偏りを補正し、回答者の構成が県全体の縮図となるよう、性・年齢別の集計ウェイトを乗じて標本数を規正した。

集計結果は、この規正標本数を基に回答者の割合(百分比%)等を算出している。

なお、規正標本数は、乗算結果の小数点以下第1位を四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しない場合がある。

性・年齢別の有効回収数と「性・年齢別ウェイト」(推定母集団構成比÷有効回収構成比)

【推定母集団】

	性別	合計	年齢						
			18~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳~79歳
実数 (人)	男性	811,083	19,463	90,273	113,640	151,012	140,210	154,749	141,736
	女性	812,164	18,164	83,427	108,078	145,348	138,375	158,577	160,195
構成比 (%)	男性	50.0	1.2	5.6	7.0	9.3	8.6	9.5	8.7
	女性	50.0	1.1	5.1	6.7	9.0	8.5	9.8	9.9

※推定母集団は令和2年国勢調査結果

【有効回収数】

	性別	合計	年齢						
			18~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳
実数 (人)	男性	598	13	69	93	76	119	104	124
	女性	778	16	98	133	112	146	143	130
構成比 (%)	男性	43.5	0.9	5.0	6.8	5.5	8.6	7.6	9.0
	女性	56.5	1.2	7.1	9.7	8.1	10.6	10.4	9.4

【性・年齢別ウェイト】

性別	年齢						
	18~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳~79歳
男性	1.269	1.109	1.036	1.684	0.999	1.261	0.969
女性	0.962	0.722	0.689	1.100	0.803	0.940	1.045

「規正標本数」（個々の回答者に「性・年齢別ウェイト」を乗じて規正した標本数）

上段：構成比（％）／下段：規正標本数

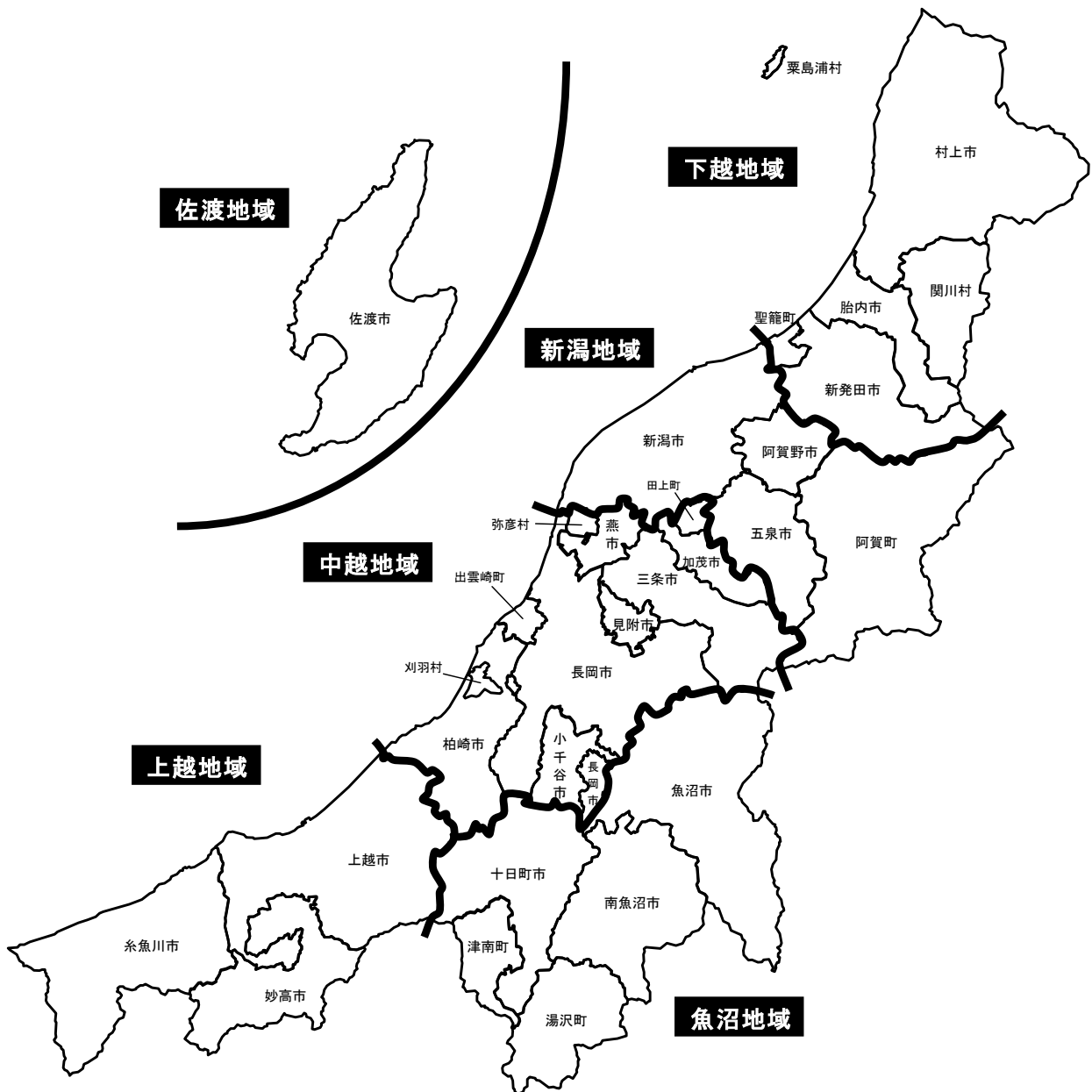
性別	合計	年 齢						
		18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～79歳
全体	100.0	2.3	10.7	13.7	18.2	17.2	19.3	18.6
	1,376	32	147	188	251	236	266	256
男性	50.0	1.2	5.6	7.0	9.3	8.6	9.5	8.7
	688	16	77	96	128	119	131	120
女性	50.0	1.1	5.2	6.7	8.9	8.5	9.7	9.9
	688	15	71	92	123	117	134	136

（５）その他の留意事項

本報告書における「認識している性別・性的指向に関する区分」については、以下のとおり定義しています。

- ・性的マイノリティ・・・「問1 戸籍上の性別」と、「問2 自分自身で認識している性別」が異なる人（問2で「3 男性・女性の間」「4 男性・女性の両方」「5 男性・女性のどちらでもない」「6 時により変化する」と回答した人を含む）
「問3 恋愛の対象」の間に 「2 同性が好き」「3 両方（男性・女性ともに）が好き」「4 好きになる性はない」「5 決めていない、決めたくない」と回答した人
- ・性的マイノリティ以外・・・上記以外の方

(6) 地域区分



下越地域
新発田市
村上
胎内市
聖籠町
関川村
粟島浦村

新潟地域
新潟市
五泉市
阿賀野市
阿賀町

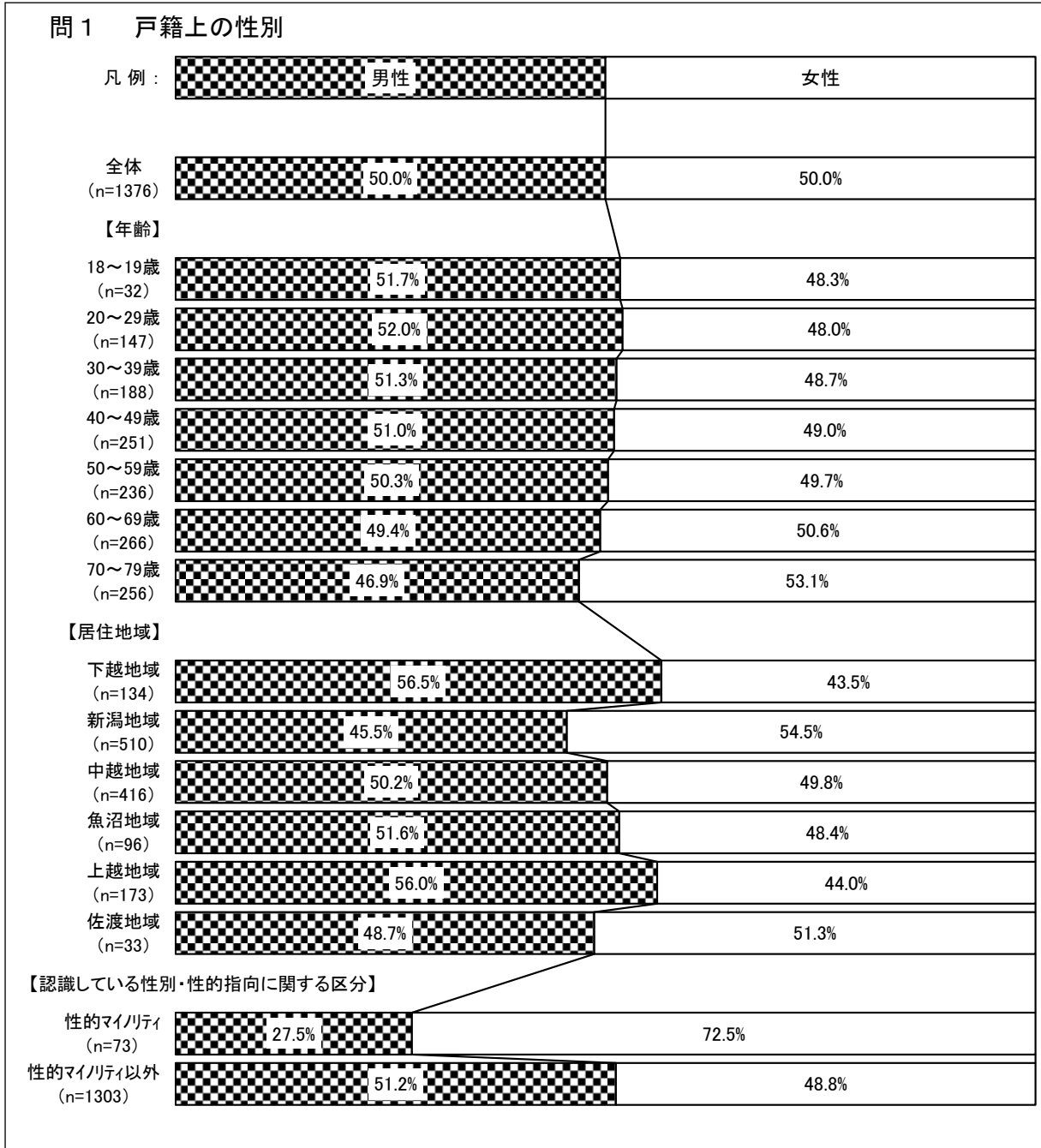
中越地域
長岡市
三条市
柏崎市
小千谷市
加茂市
見附市
燕市
弥彦村
田上町
出雲崎町
刈羽村

魚沼地域
十日町市
魚沼市
南魚沼市
湯沢町
津南町

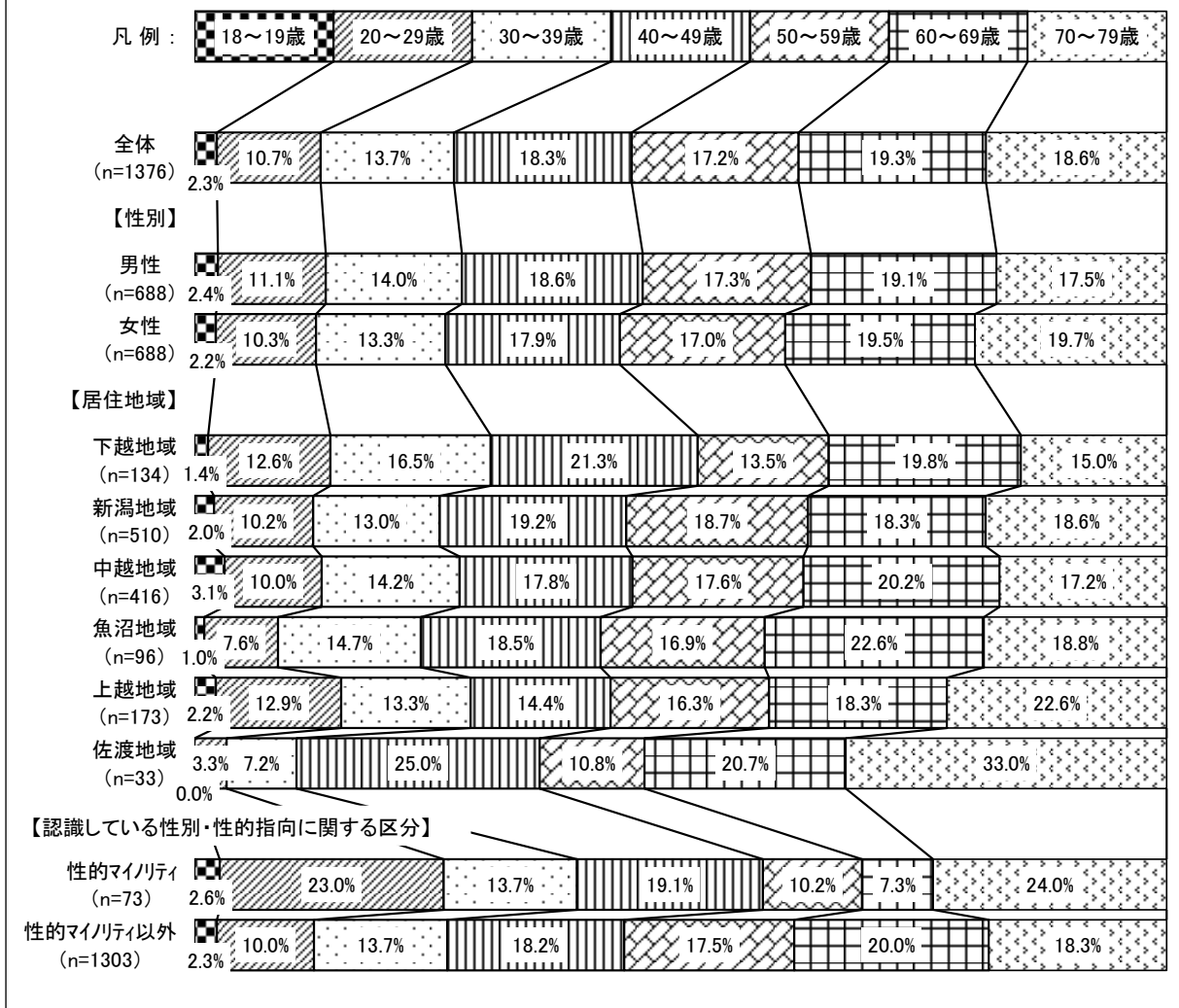
上越地域
糸魚川市
妙高市
上越市

佐渡地域
佐渡市

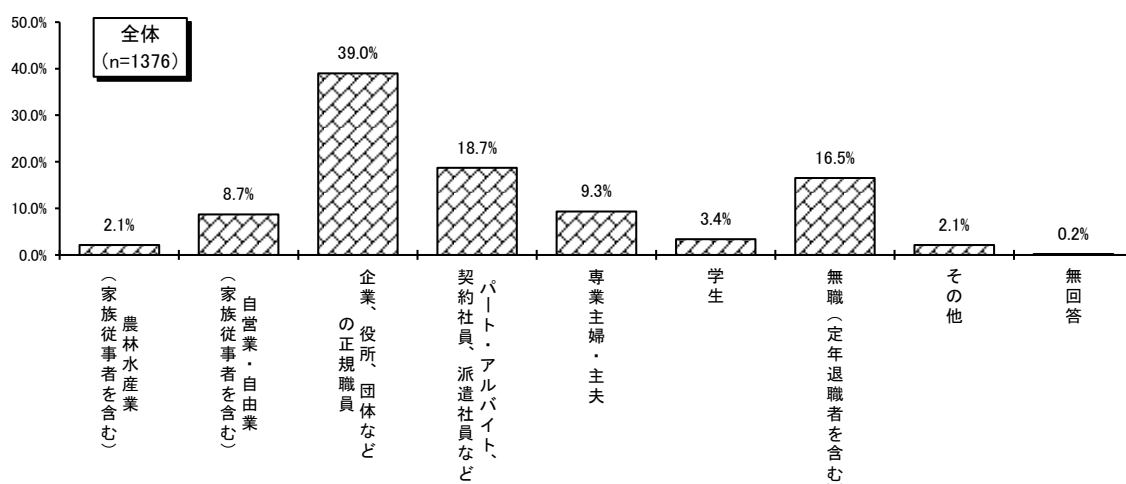
(7) 回答者の構成



問 14-1 年齢別

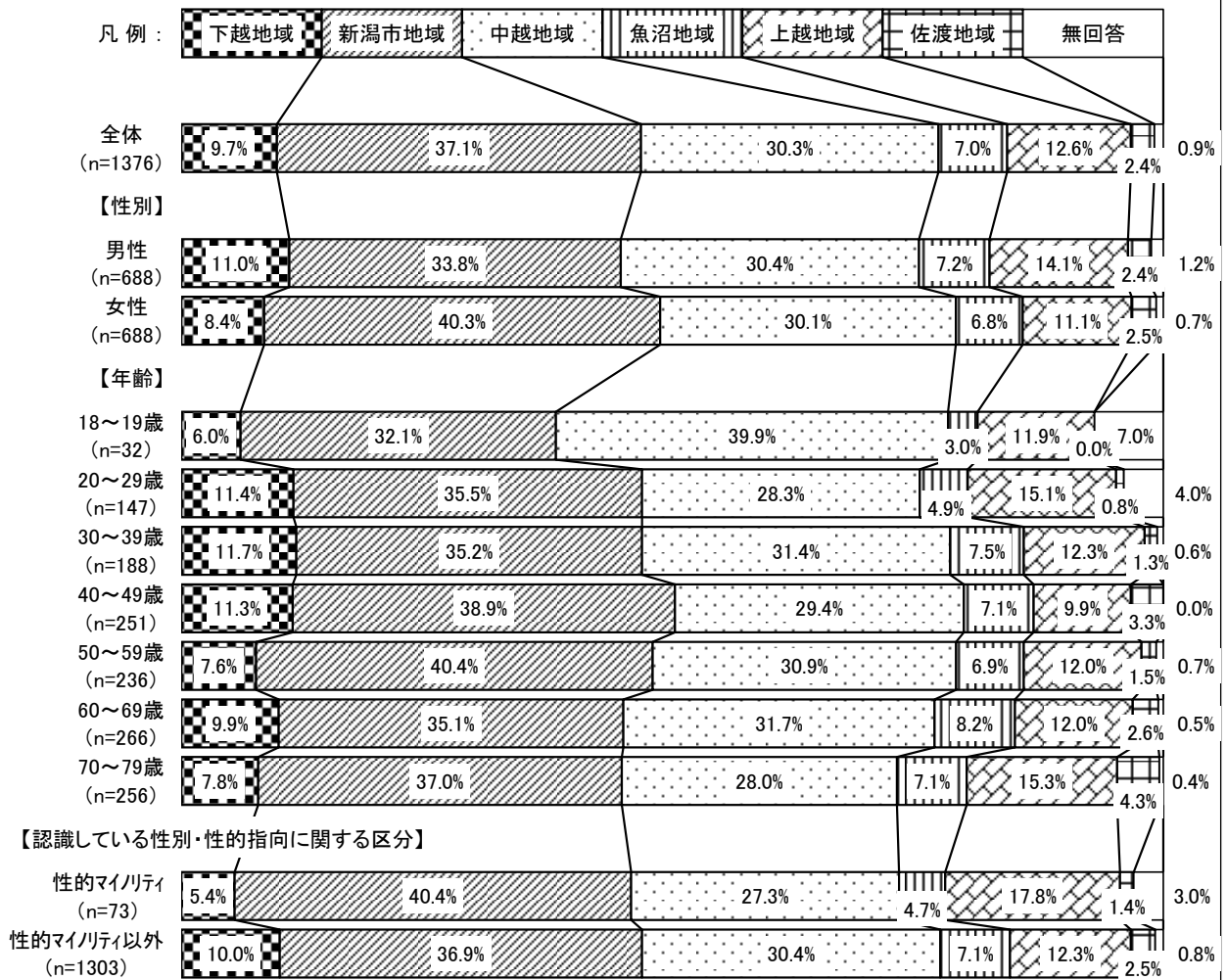


問 14-2 職業別

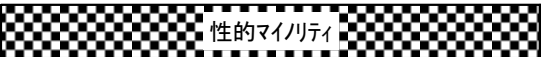


	農林水産業 (家族従事者を含む)	自営業・自由業 (家族従事者を含む)	企業、役所、団体などの正規職員	パート・アルバイト、契約社員、派遣社員など	専業主婦・主夫	学生	無職 (定年退職者を含む)	その他	無回答
全体 (n=1376)	2.1%	8.7%	39.0%	18.7%	9.3%	3.4%	16.5%	2.1%	0.2%
【性別】									
男性 (n=688)	3.2%	11.6%	49.1%	10.7%	0.1%	3.6%	18.9%	2.7%	0.1%
女性 (n=688)	1.1%	5.9%	28.9%	26.6%	18.5%	3.2%	14.0%	1.5%	0.3%
【年齢別】									
18～19歳 (n=32)	0.0%	0.0%	15.0%	3.0%	0.0%	74.1%	8.0%	0.0%	0.0%
20～29歳 (n=147)	0.5%	1.7%	56.1%	16.6%	0.0%	14.9%	6.2%	4.0%	0.0%
30～39歳 (n=188)	0.6%	3.7%	64.4%	18.1%	5.5%	0.6%	4.8%	2.4%	0.0%
40～49歳 (n=251)	2.7%	8.0%	54.6%	27.3%	3.1%	0.0%	2.2%	2.2%	0.0%
50～59歳 (n=236)	1.2%	12.5%	54.2%	18.6%	7.1%	0.0%	3.7%	2.3%	0.3%
60～69歳 (n=266)	3.4%	12.1%	20.5%	22.9%	14.9%	0.0%	24.5%	1.3%	0.4%
70～79歳 (n=256)	3.5%	11.3%	3.4%	9.4%	21.2%	0.0%	49.3%	1.6%	0.4%
【居住地域別】									
下越地域 (n=134)	7.6%	13.2%	40.3%	16.1%	7.2%	2.1%	9.6%	3.9%	0.0%
新潟地域 (n=510)	1.4%	7.8%	40.2%	19.1%	11.8%	3.5%	14.2%	1.7%	0.2%
中越地域 (n=416)	1.8%	8.9%	37.1%	19.9%	8.2%	4.0%	17.8%	2.1%	0.2%
魚沼地域 (n=96)	0.0%	11.8%	43.4%	19.9%	10.2%	1.0%	12.2%	1.6%	0.0%
上越地域 (n=173)	2.6%	7.1%	36.3%	17.7%	6.9%	0.7%	26.7%	2.0%	0.0%
佐渡地域 (n=33)	0.0%	5.7%	48.2%	13.2%	8.8%	0.0%	24.0%	0.0%	0.0%
【認識している性別・性的指向に関する区分】									
性的マイリティ (n=73)	2.3%	3.9%	31.3%	25.9%	8.1%	3.3%	23.7%	1.4%	0.0%
性的マイリティ以外 (n=1303)	2.1%	9.0%	39.4%	18.3%	9.4%	3.4%	16.1%	2.1%	0.2%

問 14-3 居住地域別



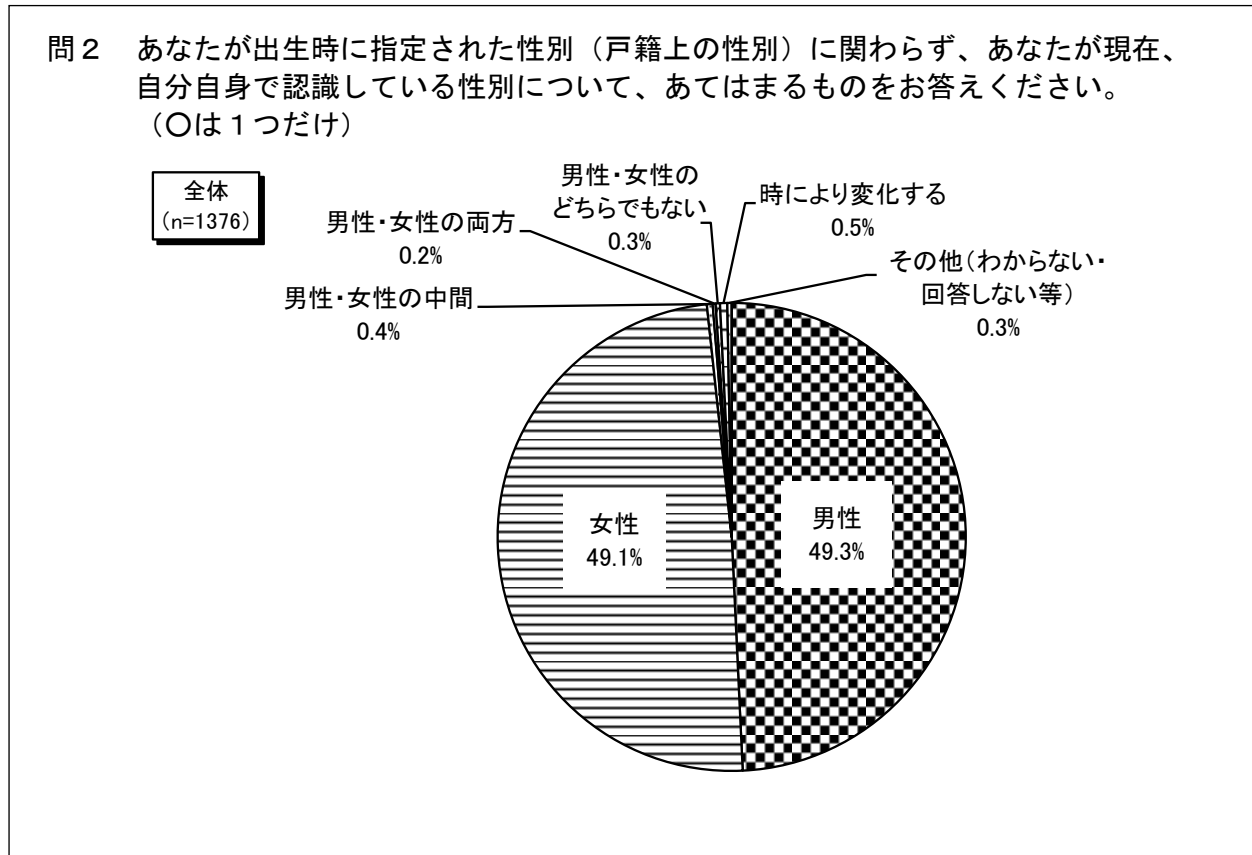
認識している性別・性的指向に関する区分別

凡例：	 性的マイノリティ	性的マイノリティ以外
全体 (n=1376)	5.3%	94.7%
【性別】		
男性 (n=688)	2.9%	97.1%
女性 (n=688)	7.7%	92.3%
【年齢】		
18～19歳 (n=32)	6.0%	94.0%
20～29歳 (n=147)	11.3%	88.7%
30～39歳 (n=188)	5.3%	94.7%
40～49歳 (n=251)	5.5%	94.5%
50～59歳 (n=236)	3.1%	96.9%
60～69歳 (n=266)	2.0%	98.0%
70～79歳 (n=256)	6.8%	93.2%
【居住地域】		
下越地域 (n=134)	2.9%	97.1%
新潟地域 (n=510)	5.8%	94.2%
中越地域 (n=416)	4.8%	95.2%
魚沼地域 (n=96)	3.6%	96.4%
上越地域 (n=173)	7.4%	92.6%
佐渡地域 (n=33)	3.1%	96.9%

2. 調査結果

(1) あなたのことについて

ア 自分自身で認識している性別



【全体結果】

自分自身で認識している性別について、「男性」が49.3%、「女性」が49.1%となっている。

【性別】

戸籍上が男性の方の98.5%は「男性」、戸籍上が女性の方の97.9%は「女性」と認識している。

【年齢別】

ほぼ回答者の構成通りであるが、20代と30代では、「時により変化する」と答えた方が2%前後存在する。

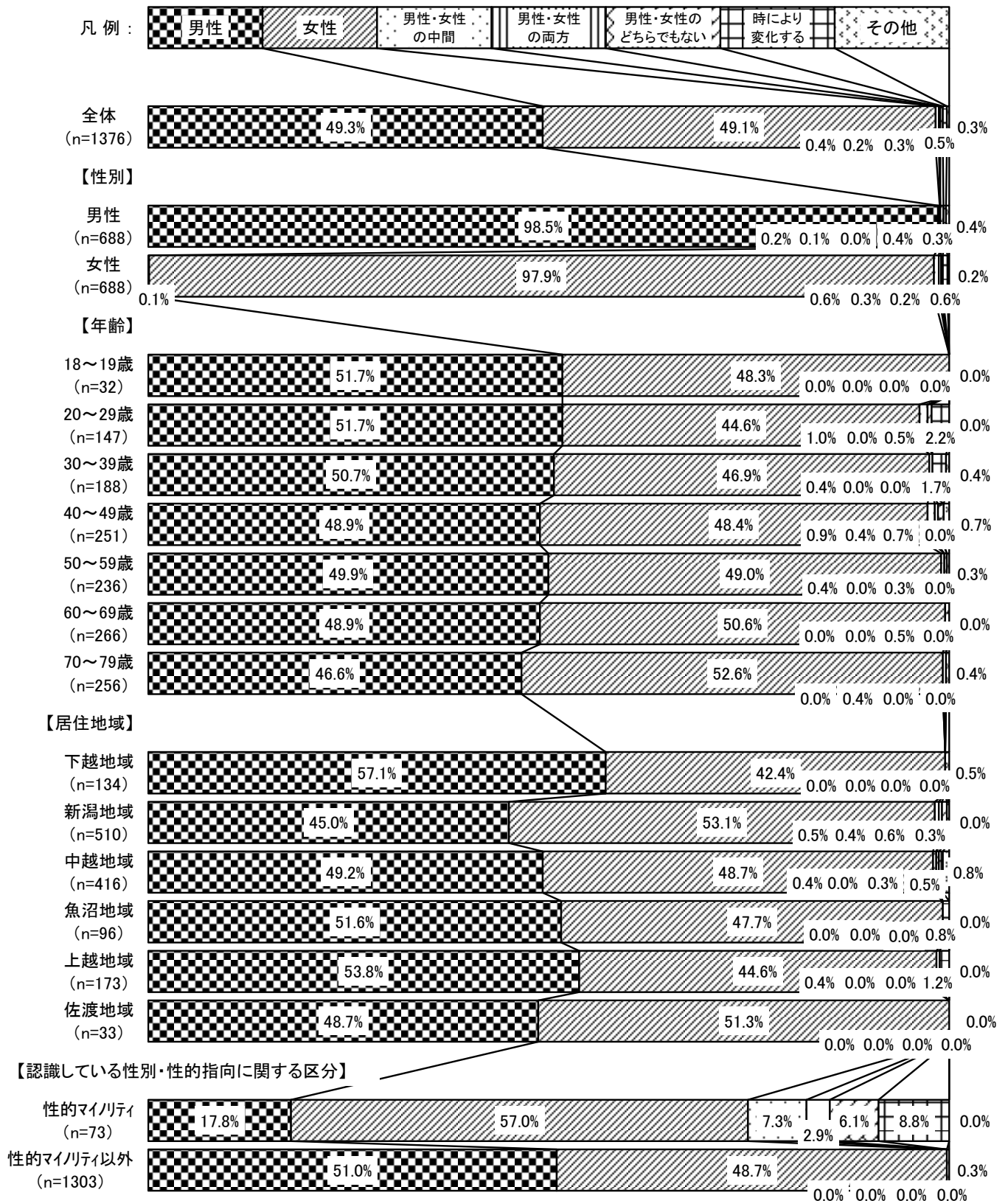
【居住地域別】

ほぼ回答者の構成通りである。

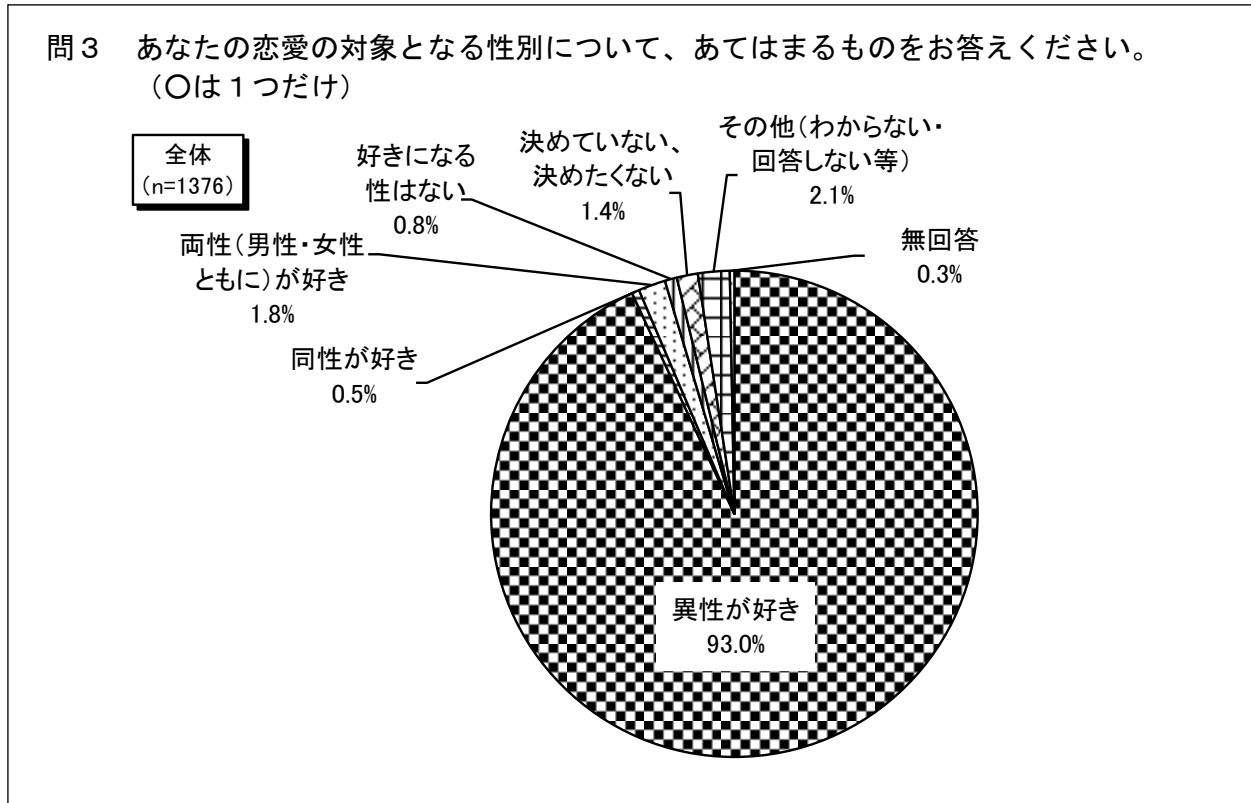
【認識している性別・性的指向に関する区分別】

性的マイノリティの方では、「男性・女性の間」、「時により変化する」と答えた方が、それぞれ1割弱となっている。

ア 自分自身で認識している性別（全体／属性別）



イ 恋愛の対象となる性別



【全体結果】

恋愛の対象となる性別について、「異性が好き」が93.0%と9割以上を占めている。

【性別】

「異性が好き」と答えた割合は、女性(89.3%)より男性(96.7%)で高くなっている。女性では「異性が好き」以外を回答した方が約1割となっている。

【年齢別】

20代では、他の年代よりも「異性が好き」と答えた割合が低く、「両性(男性・女性ともに)が好き」と答えた割合が5.9%と高くなっている。

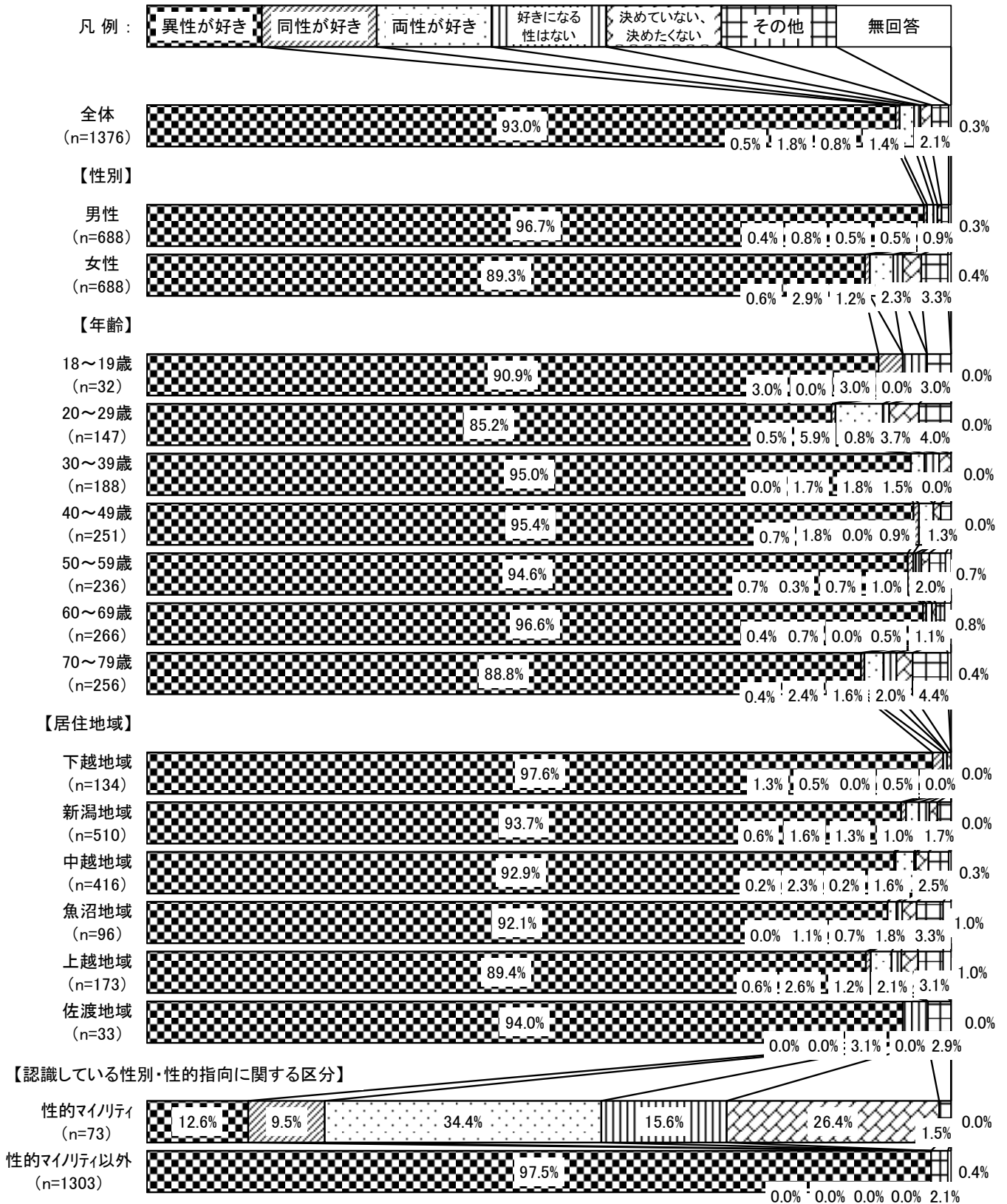
【居住地域別】

上越地域では、「異性が好き」と答えた割合が89.4%と他の地域と比べてやや低くなっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

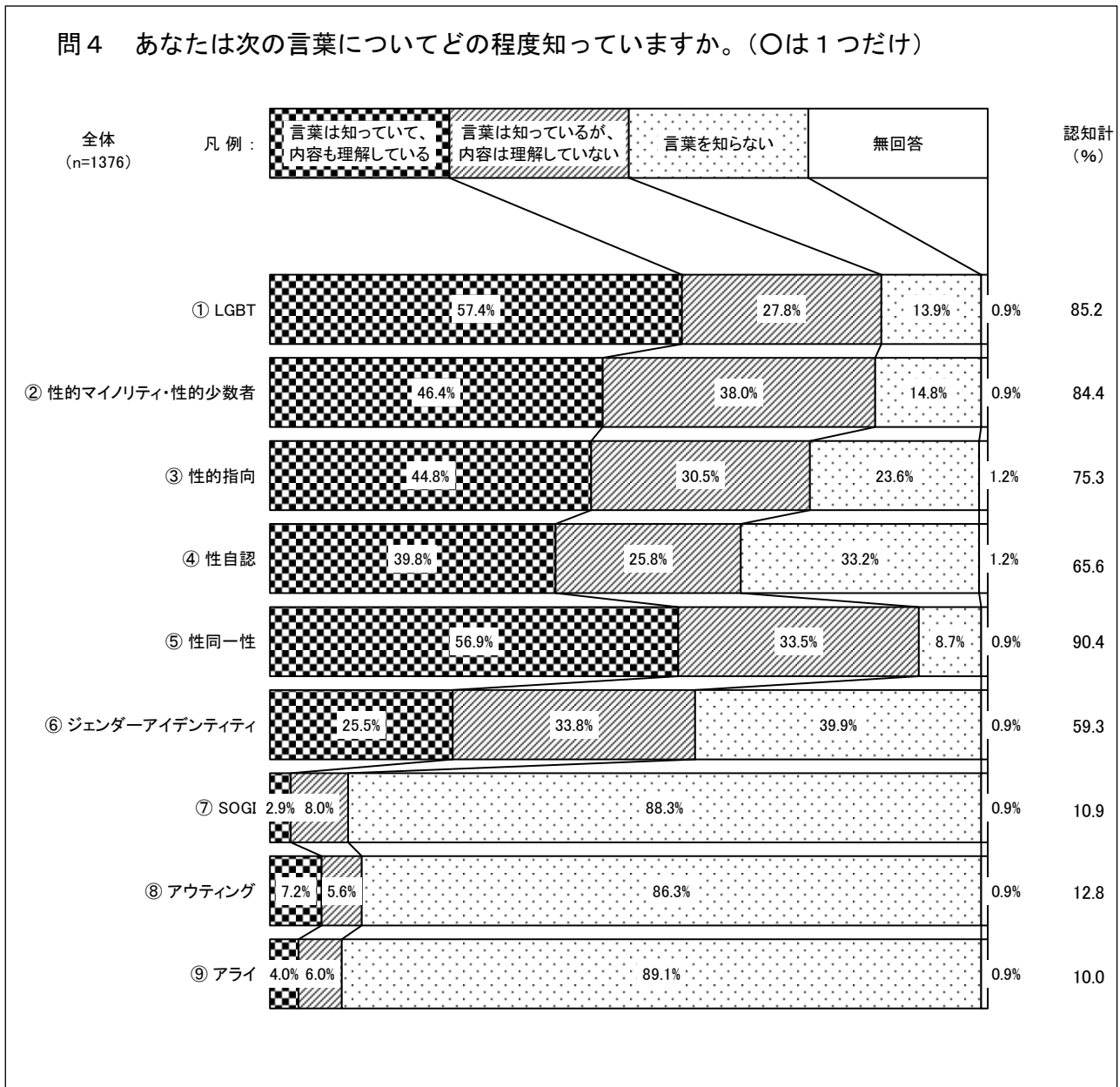
性的マイノリティの方では、「両性が好き」と答えた割合が34.4%と3割以上を占めている。

イ 恋愛の対象となる性別（全体／属性別）



(2) 用語への理解等について

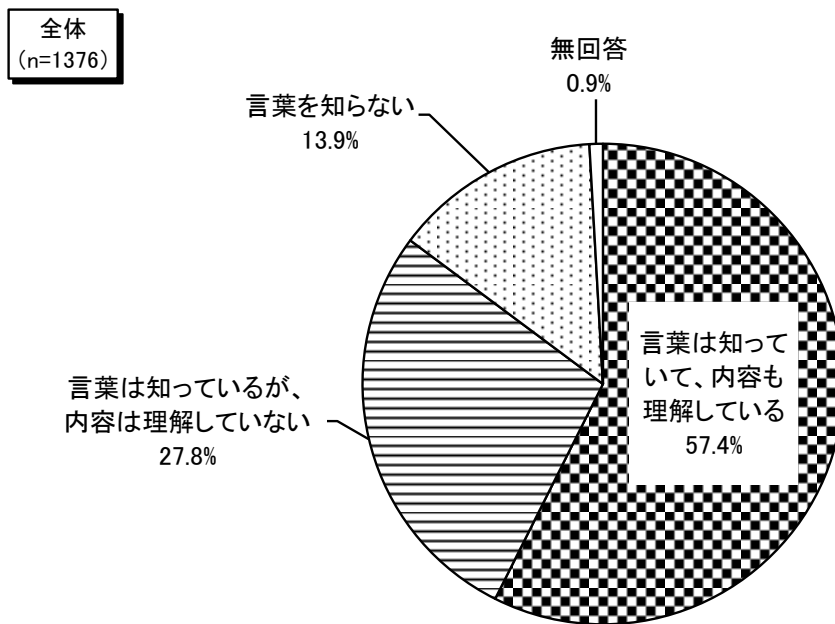
ア 用語の認知度



用語の認知度について、「⑤性同一性」の認知度（「言葉は知っていて、内容も理解している」と「言葉は知っているが、内容は理解していない」を合計した割合）が 90.4%と最も高く、約 9 割となっている。次いで、「①LGBT」（85.2%）、「②性的マイノリティ・性的少数者」（84.4%）が 8 割以上となっている。一方、「⑦SOGI」（10.9%）、「⑧アウティング」（12.8%）、「⑨アライ」（10.0%）の認知度は低く、約 1 割となっている。

問4 あなたは次の言葉についてどの程度知っていますか。(○は1つだけ)

① L G B T



【全体結果】

LGBTの認知度については、「言葉は知っていて、内容も理解している」が57.4%、「言葉は知っているが、内容は理解していない」が27.8%、「言葉を知らない」が13.9%となっている。

【性別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、男性（54.7%）より女性（60.1%）で高くなっている。

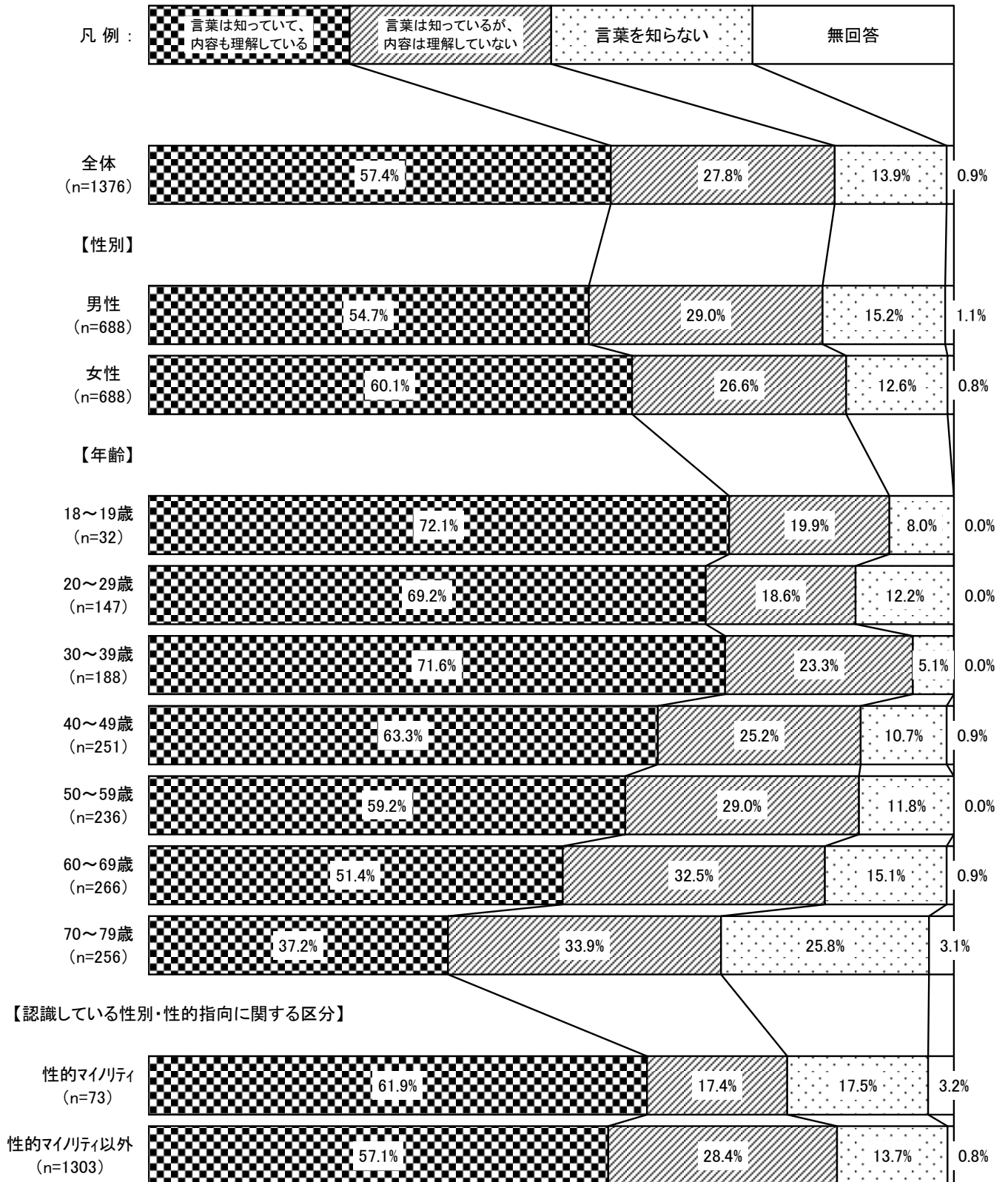
【年齢別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、40歳未満で約7割と高くなっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

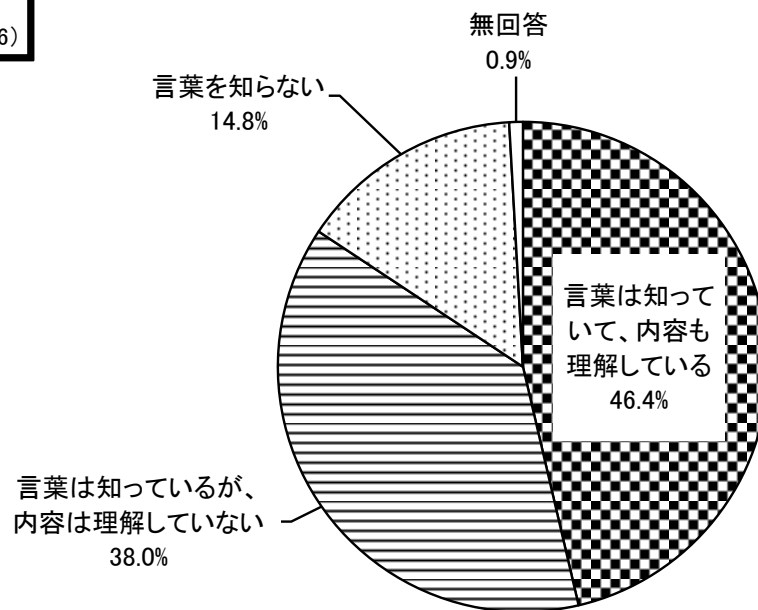
「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、性的マイノリティの方で高く、約6割となっている。

① L G B T の認知度（全体/属性別）



問4 あなたは次の言葉についてどの程度知っていますか。(○は1つだけ)
② 性的マイノリティ・性的少数者

全体
(n=1376)



【全体結果】

性的マイノリティ・性的少数者の認知度については、「言葉は知っていて、内容も理解している」が46.4%、「言葉は知っているが、内容は理解していない」が38.0%、「言葉を知らない」が14.8%となっている。

【性別】

性別による大きな差は見られない。

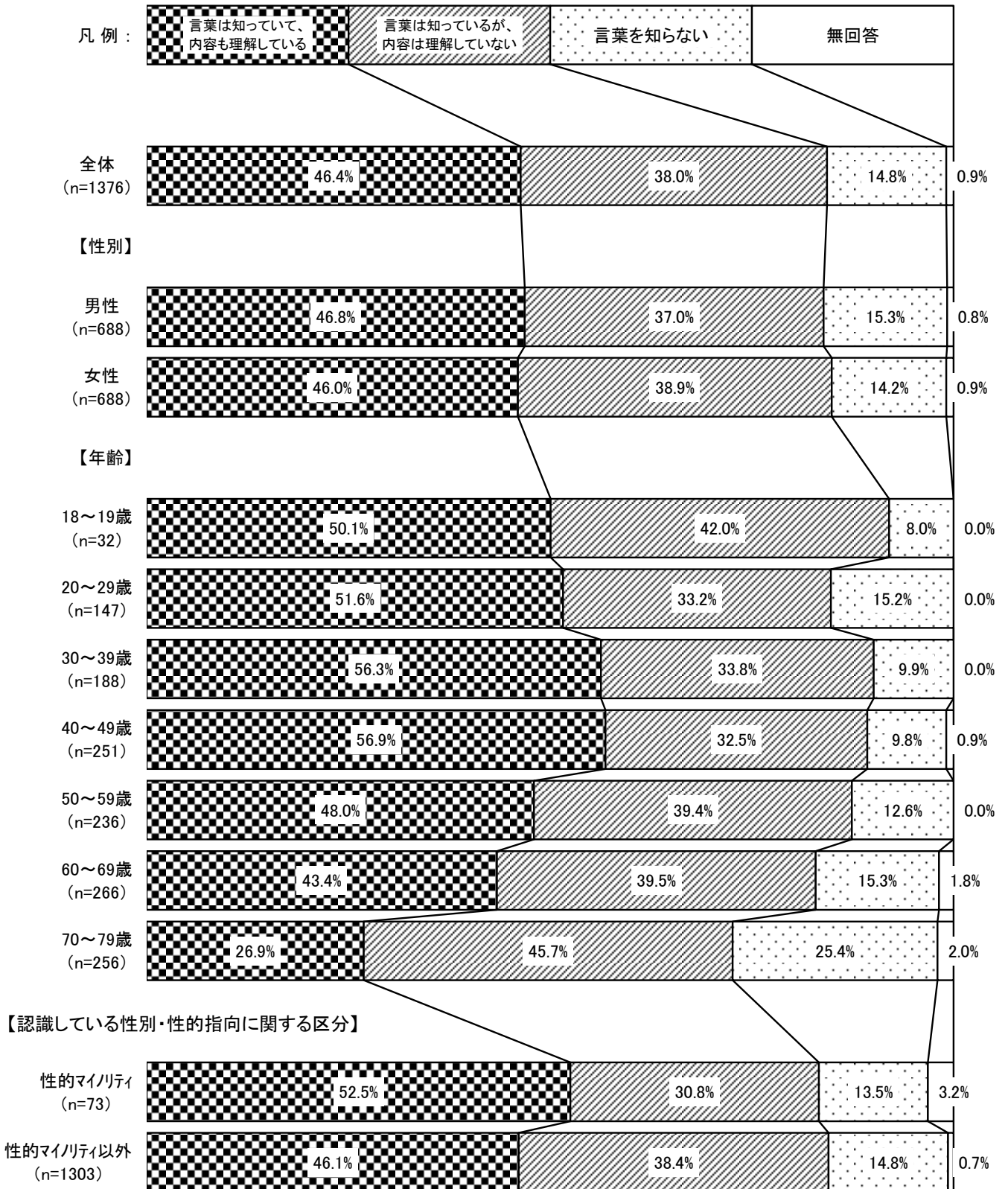
【年齢別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、50歳未満では半数以上を占めている一方、70代で26.9%と最も低くなっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、性的マイノリティの方で高く、5割以上となっている。

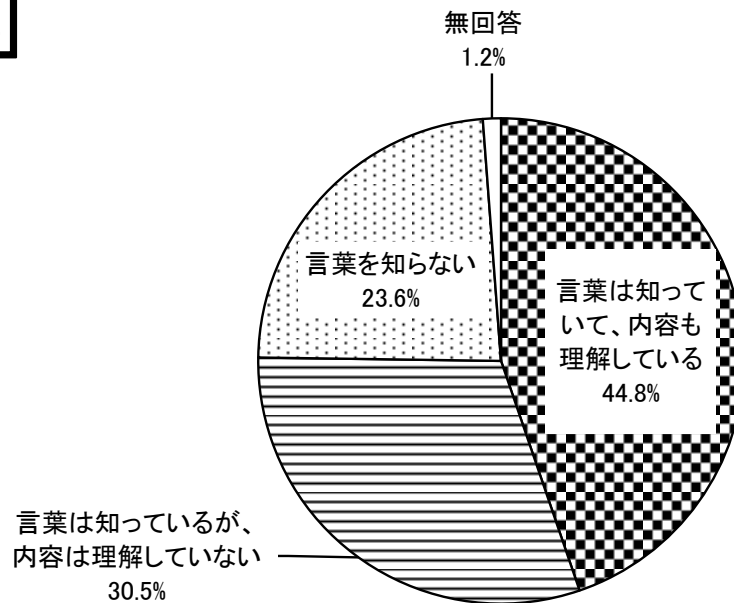
② 性的マイノリティ・性的少数者の認知度（全体/属性別）



問4 あなたは次の言葉についてどの程度知っていますか。(○は1つだけ)

③ 性的指向

全体
(n=1376)



【全体結果】

性的指向の認知度については、「言葉は知っていて、内容も理解している」が 44.8%、「言葉は知っているが、内容は理解していない」が 30.5%、「言葉を知らない」が 23.6%となっている。

【性別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、男性（43.8%）より女性（45.7%）でやや高くなっている。

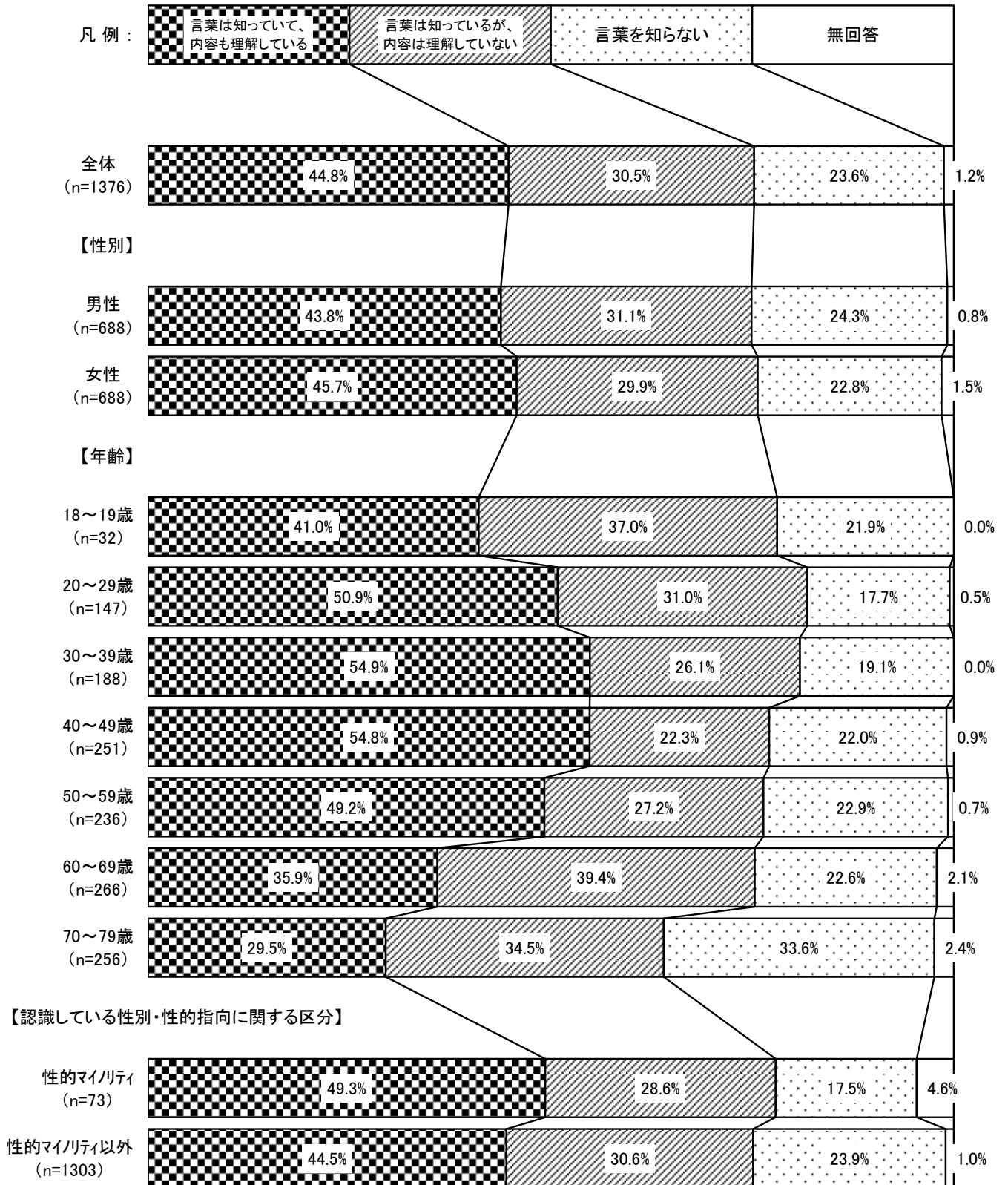
【年齢別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、60歳以上で低く、4割以下となっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、性的マイノリティの方で高く、約5割となっている。

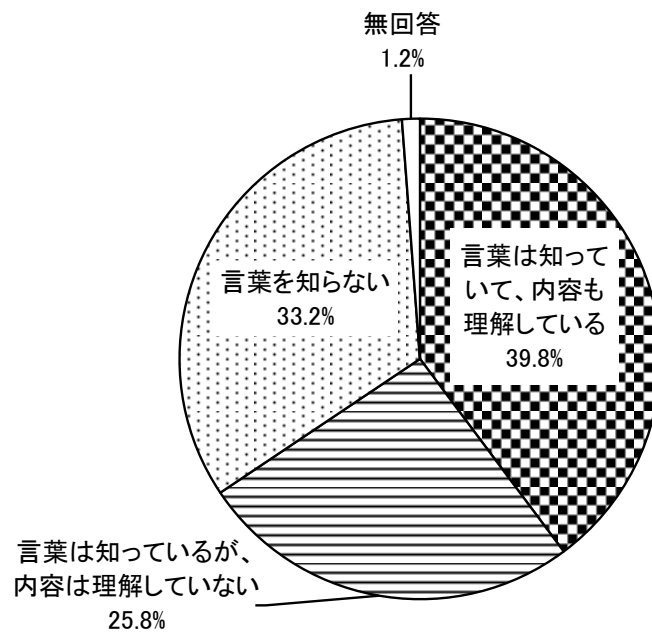
③ 性的指向の認知度（全体/属性別）



問4 あなたは次の言葉についてどの程度知っていますか。(○は1つだけ)

④ 性自認

全体
(n=1376)



【全体結果】

性自認の認知度については、「言葉は知っていて、内容も理解している」が 39.8%、「言葉は知っているが、内容は理解していない」が 25.8%、「言葉を知らない」が 33.2%となっている。

【性別】

性別による大きな差は見られない。

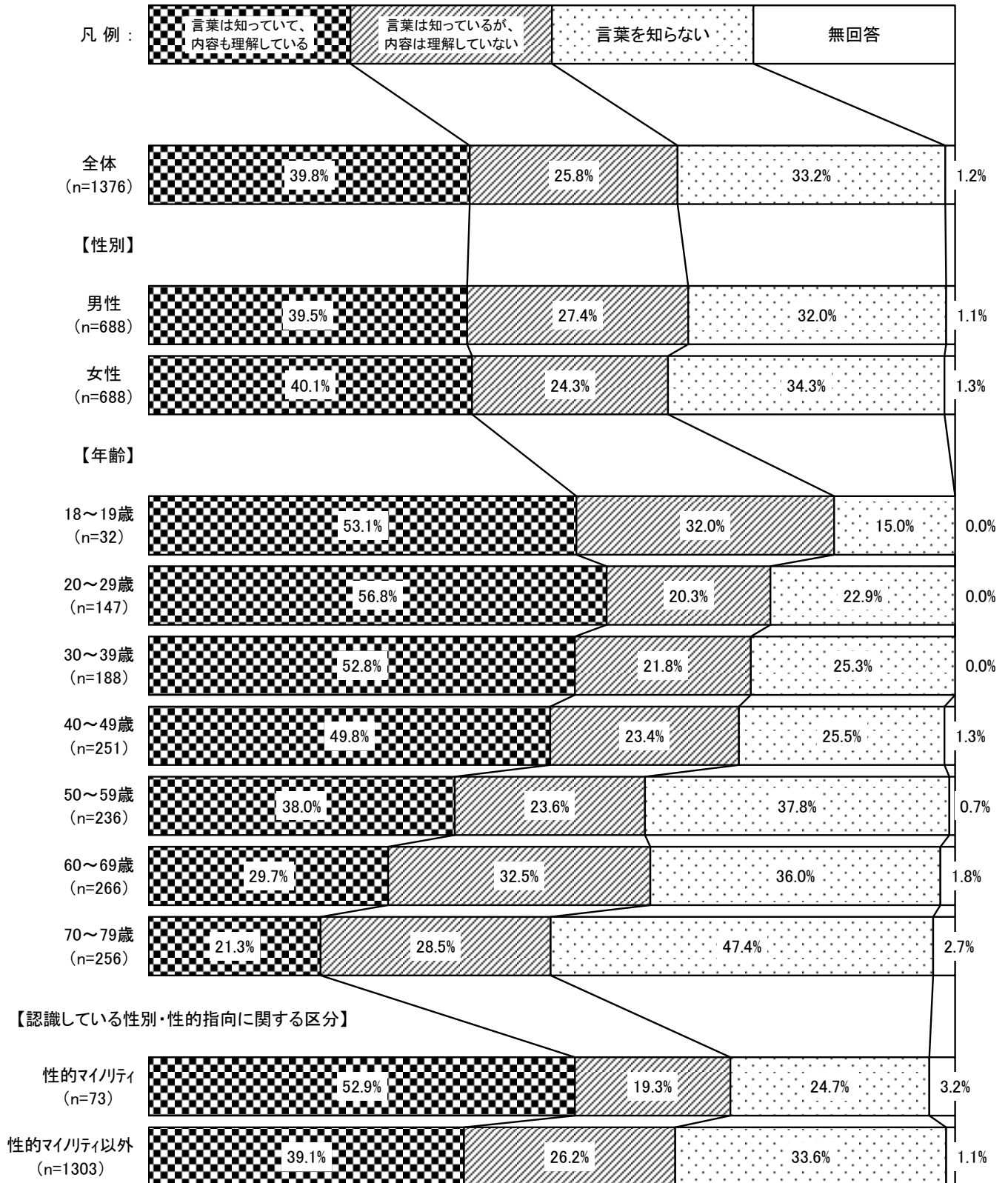
【年齢別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、50歳以上で低く、4割以下となっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、性的マイノリティの方で高く、5割以上となっている。

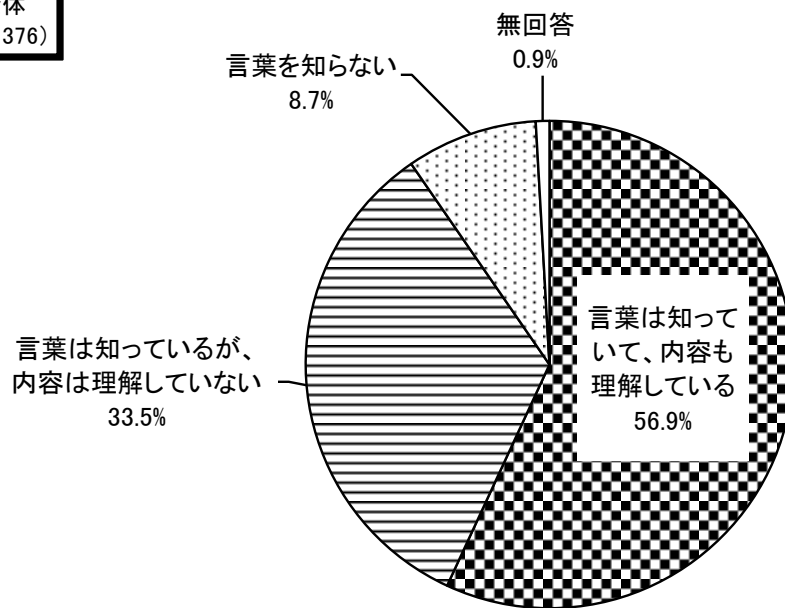
④ 性自認の認知度（全体/属性別）



問4 あなたは次の言葉についてどの程度知っていますか。(○は1つだけ)

⑤ 性同一性

全体
(n=1376)



【全体結果】

性同一性の認知度については、「言葉は知っていて、内容も理解している」が 56.9%、「言葉は知っているが、内容は理解していない」が 33.5%、「言葉を知らない」が 8.7%となっている。

【性別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、男性（52.6%）より女性（61.2%）で高くなっている。

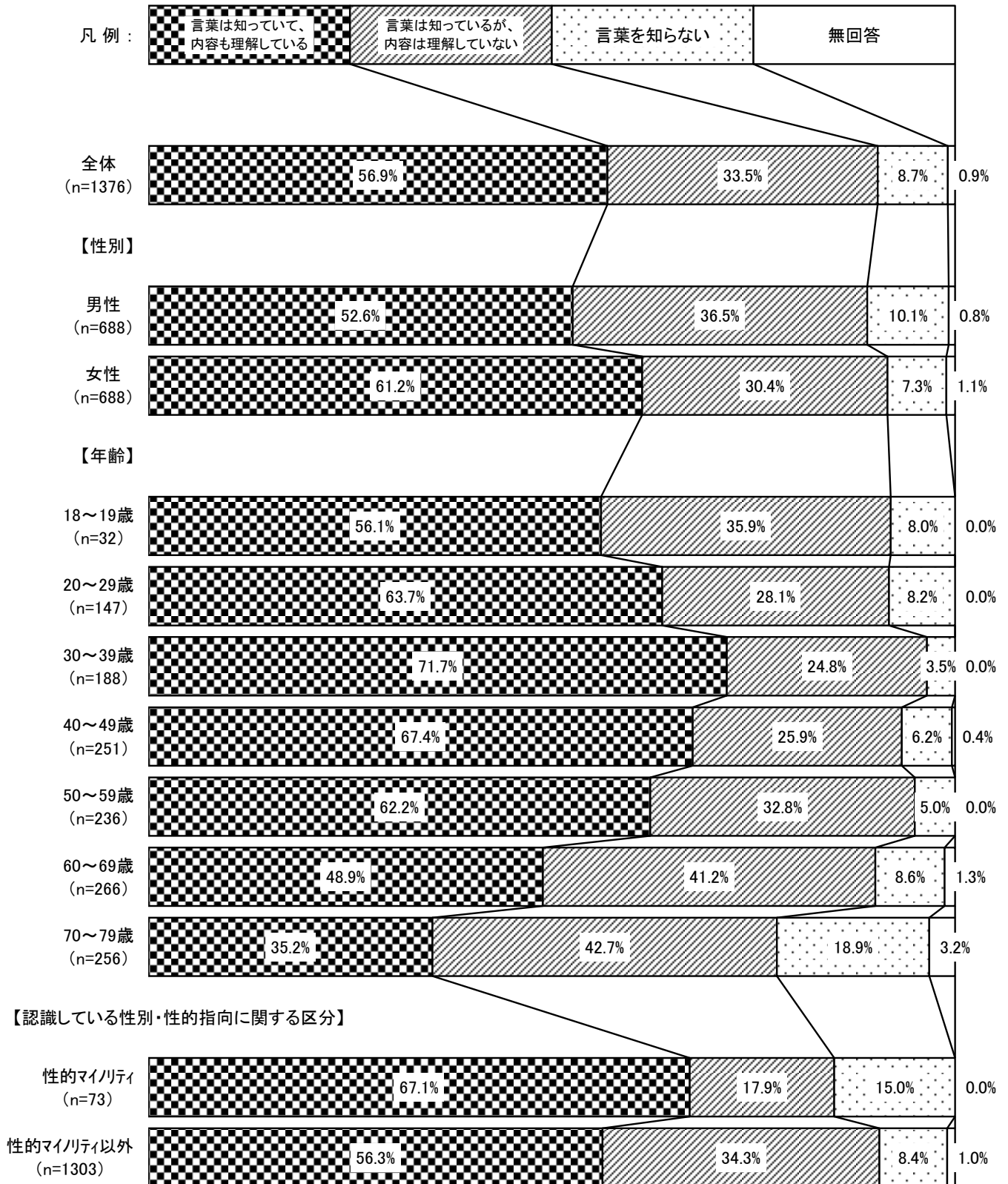
【年齢別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、30代（71.7%）で最も高く、60歳以上で低く、半数以下となっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、性的マイノリティの方で高く、7割弱となっている。性的マイノリティ以外の方でも半数以上を占めている。

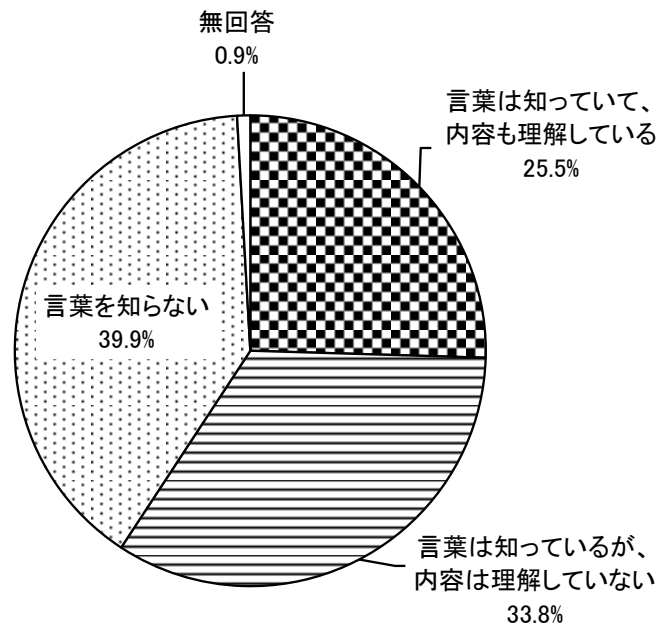
⑤ 性同一性の認知度（全体/属性別）



問4 あなたは次の言葉についてどの程度知っていますか。(○は1つだけ)

⑥ ジェンダーアイデンティティ

全体
(n=1376)



【全体結果】

ジェンダーアイデンティティの認知度については、「言葉は知っていて、内容も理解している」が25.5%、「言葉は知っているが、内容は理解していない」が33.8%、「言葉を知らない」が39.9%となっている。

【性別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と「言葉は知っているが、内容は理解していない」を合わせた言葉を知っている人の割合は、男性（55.7%）より女性（62.9%）で高くなっている。

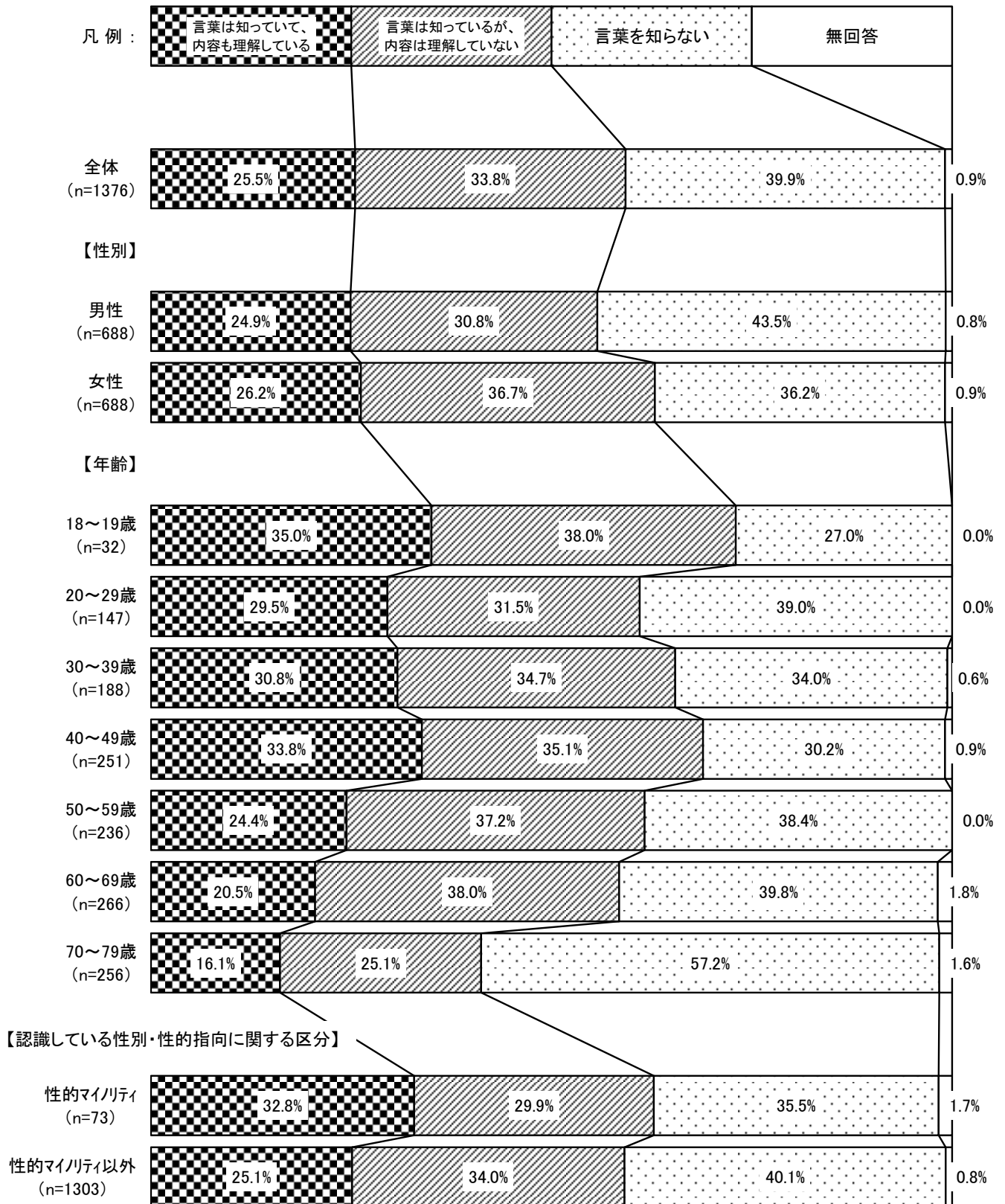
【年齢別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、50歳未満で3割前後となっている。70代では16.1%と低く、「言葉を知らない」と答えた割合が半数以上を占めている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、性的マイノリティの方で高く、32.8%となっている。

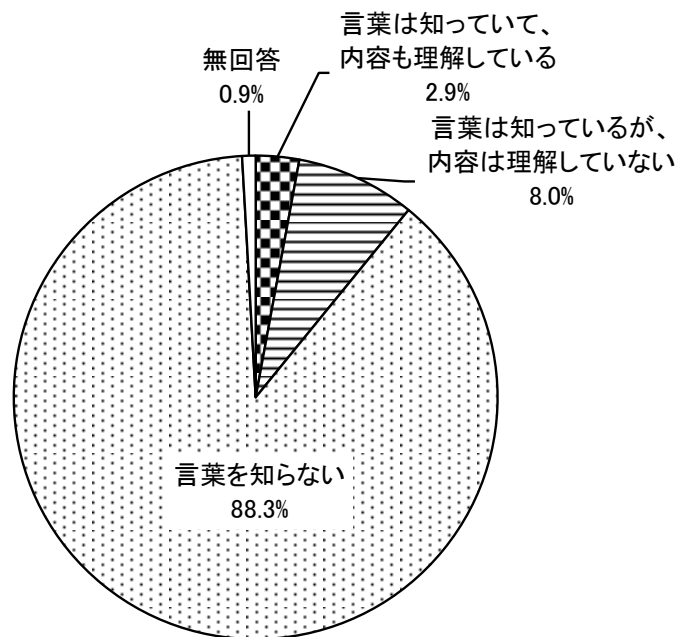
⑥ ジェンダーアイデンティティの認知度（全体/属性別）



問4 あなたは次の言葉についてどの程度知っていますか。(○は1つだけ)

⑦ SOG I

全体
(n=1376)



【全体結果】

SOG Iの認知度については、「言葉は知っていて、内容も理解している」が2.9%、「言葉は知っているが、内容は理解していない」が8.0%、「言葉を知らない」が88.3%となっており、認知度は低い。

【性別】

性別による大きな差は見られない。

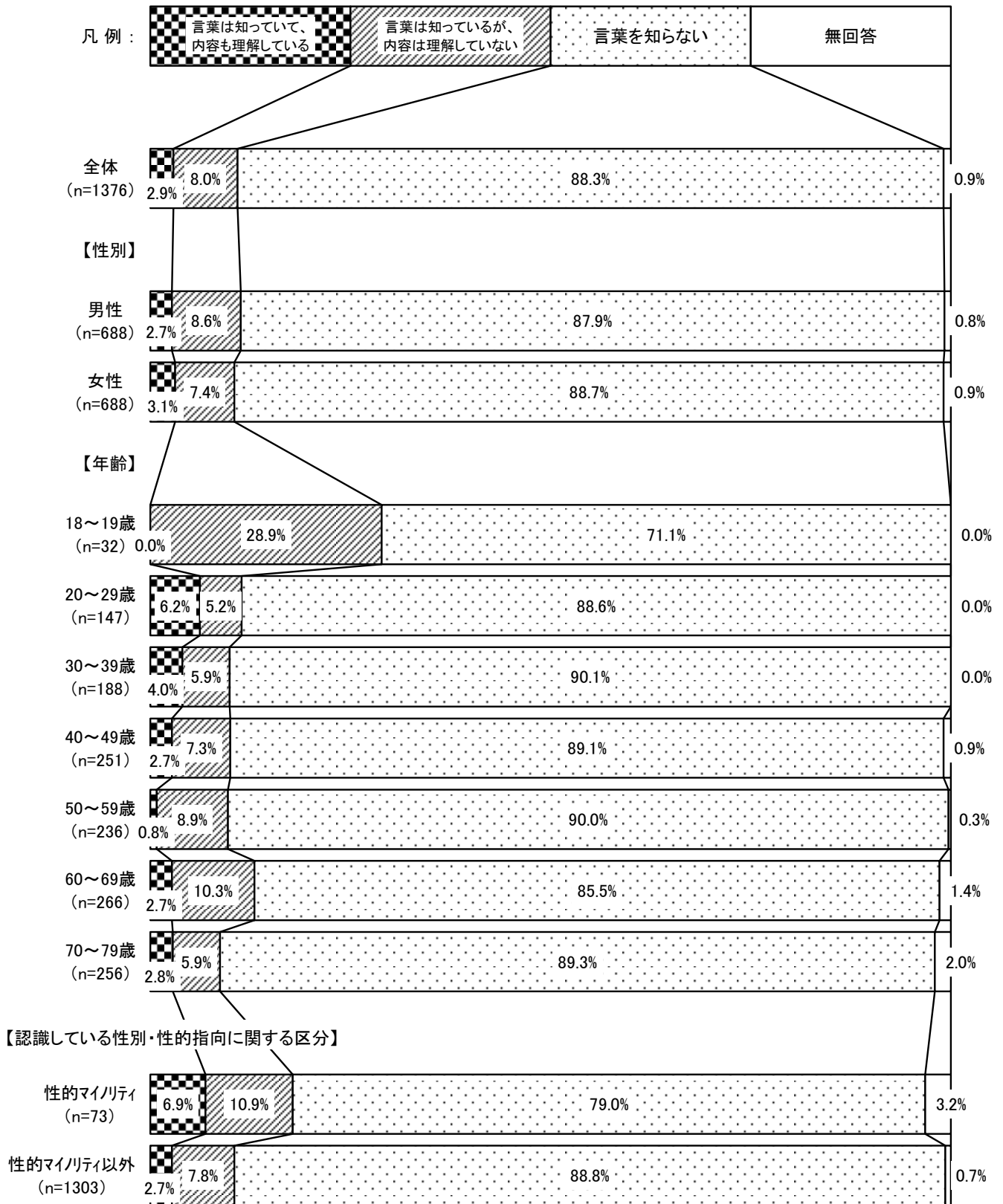
【年齢別】

他の年代と比べて10代では「言葉は知っているが、内容は理解していない」と答えた割合が約3割と高くなっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、性的マイノリティの方で高く、6.9%となっている。

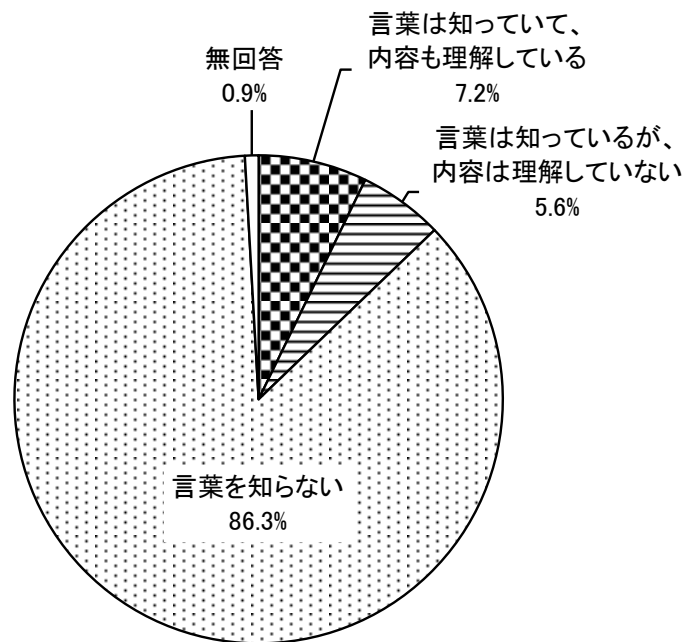
⑦ SOGIの認知度（全体/属性別）



問4 あなたは次の言葉についてどの程度知っていますか。(○は1つだけ)

⑧ アウティング

全体
(n=1376)



【全体結果】

アウティングの認知度については、「言葉は知っていて、内容も理解している」が7.2%、「言葉は知っているが、内容は理解していない」が5.6%、「言葉を知らない」が86.3%となっており、認知度は低い。

【性別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、男性（5.6%）より女性（8.7%）でやや高くなっている。

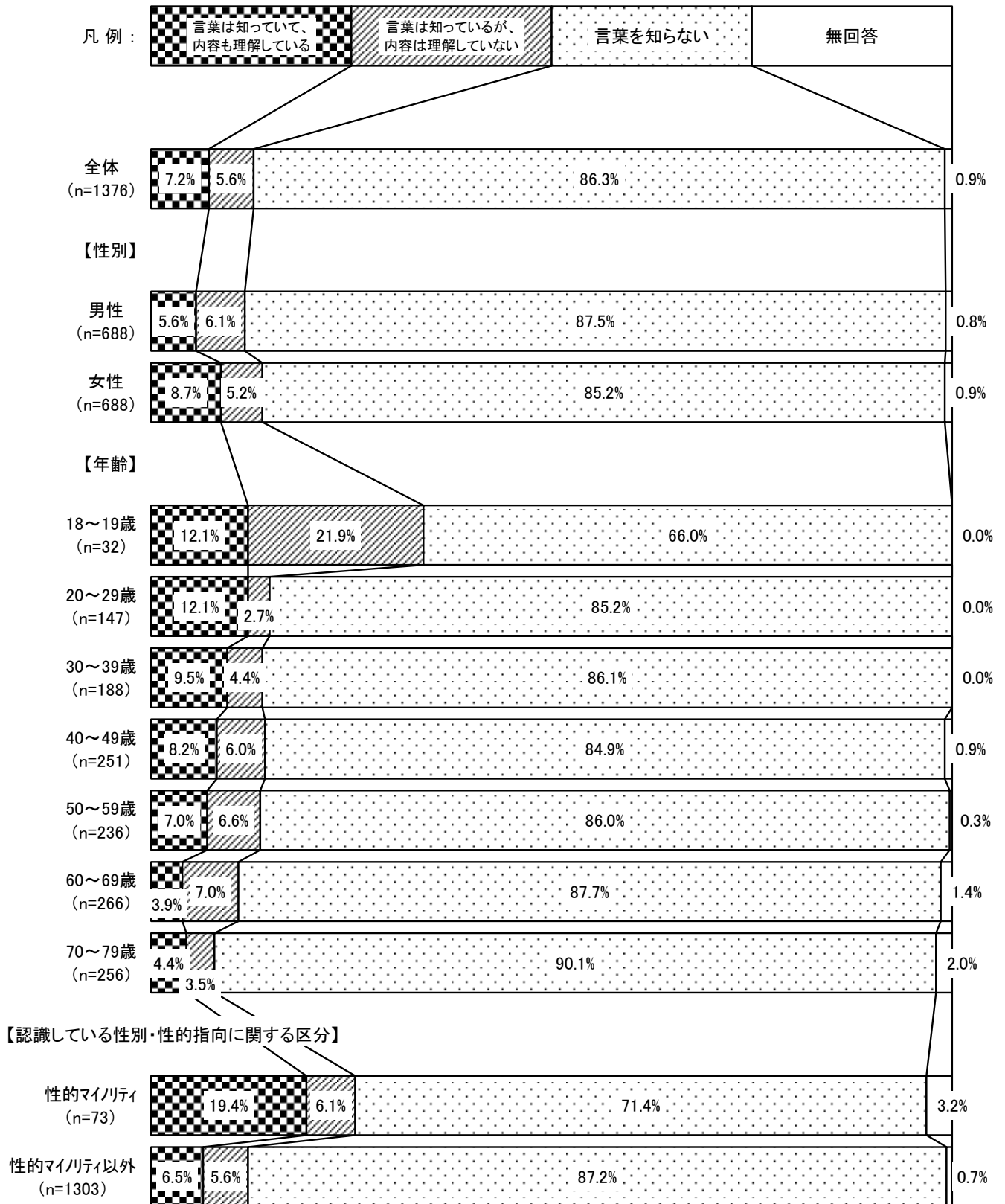
【年齢別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と「言葉は知っているが、内容は理解していない」を合わせた言葉を知っている人の割合は、10代で高く、3割以上となっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、性的マイノリティの方で高く、約2割となっている。

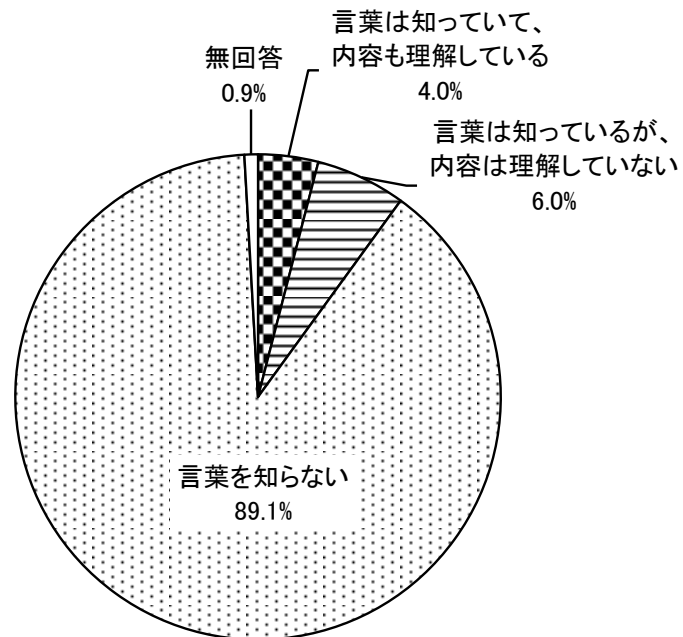
⑧ アウティングの認知度（全体/属性別）



問4 あなたは次の言葉についてどの程度知っていますか。(○は1つだけ)

⑨ アライ

全体
(n=1376)



【全体結果】

アライの認知度については、「言葉は知っていて、内容も理解している」が4.0%、「言葉は知っているが、内容は理解していない」が6.0%、「言葉を知らない」が89.1%となっており、認知度は低い。

【性別】

性別による大きな差は見られない。

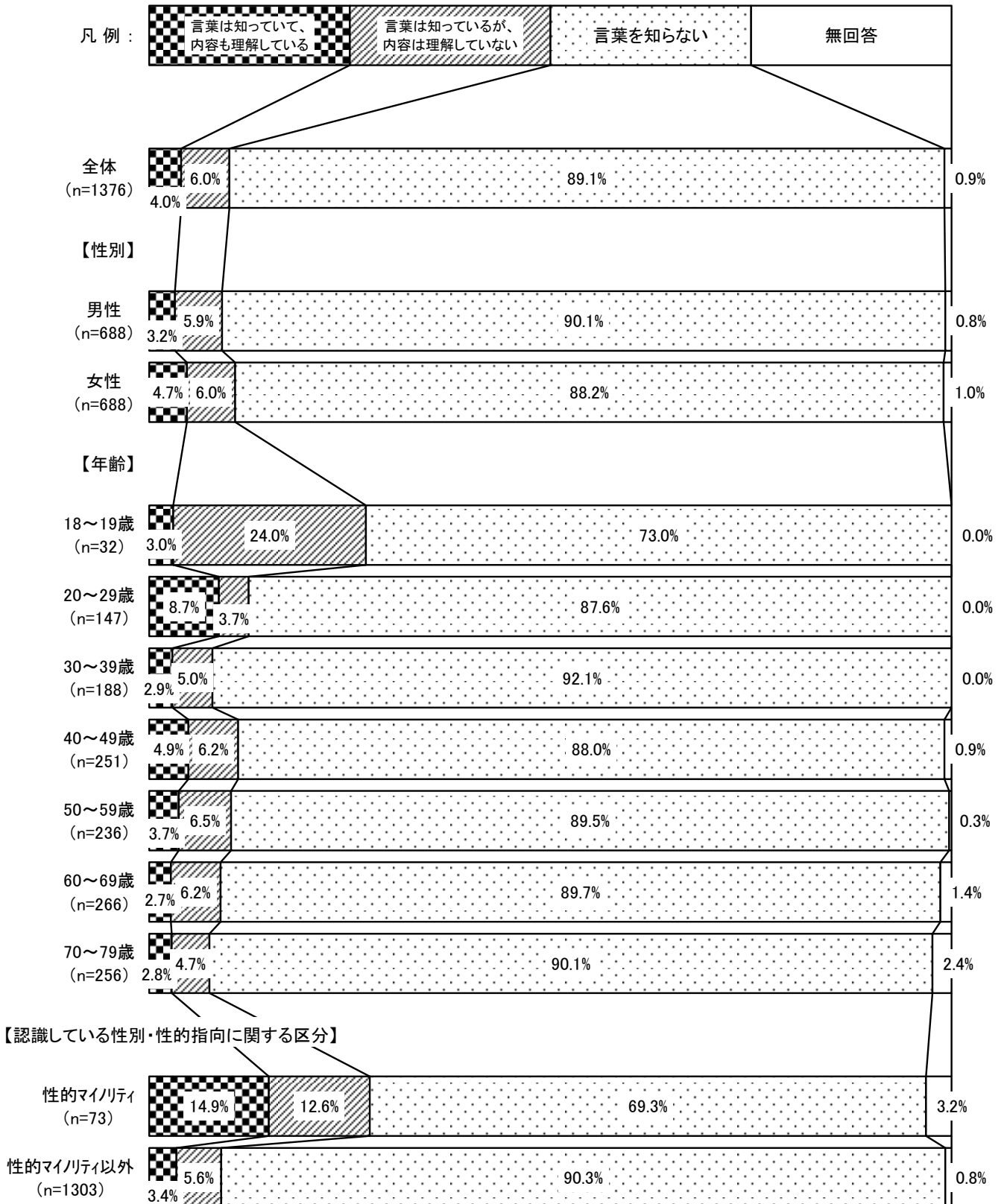
【年齢別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と「言葉は知っているが、内容は理解していない」を合わせた言葉を知っている人の割合は、10代で高く、3割弱となっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

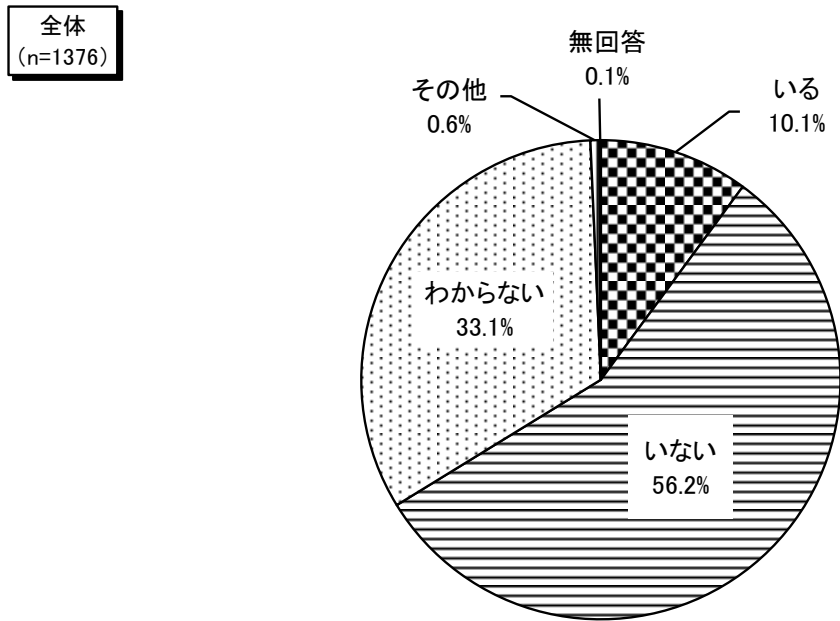
「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、性的マイノリティの方で高く、14.9%となっている。

⑨ アライの認知度（全体/属性別）



イ 身近な性的マイノリティの方の有無

問5-1 あなたの身近（回答者を除く）に性的マイノリティの方はいますか。
（○は1つだけ）



【全体結果】

身近な性的マイノリティの方の有無について、「いる」が 10.1%、「いない」が 56.2%、「わからない」が 33.1%となっている。

【性別】

身近に性的マイノリティの方が「いる」割合は、男性（8.9%）より女性（11.2%）でやや高くなっている。

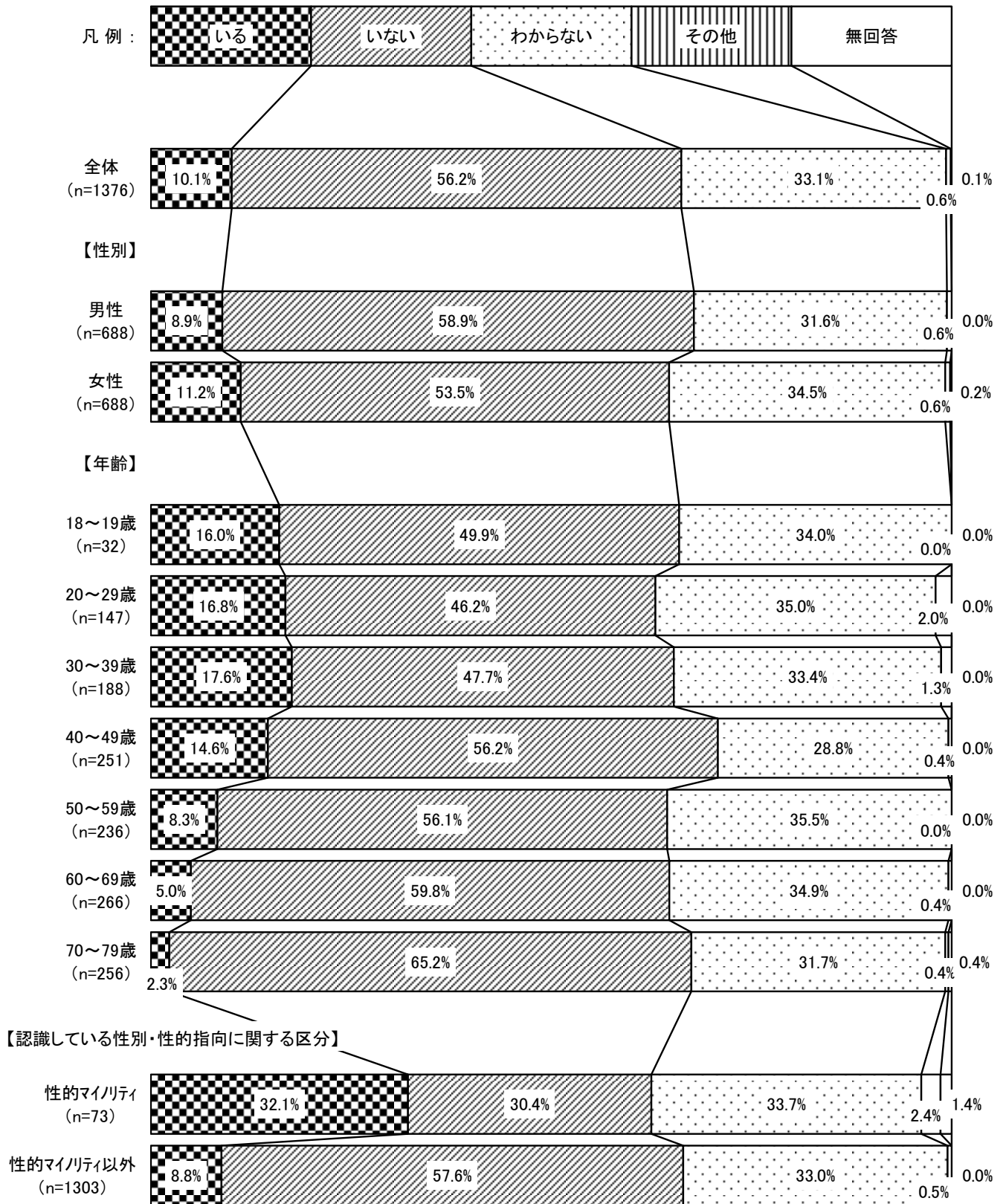
【年齢別】

身近に性的マイノリティの方が「いる」割合は、50歳未満では1割以上となっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

身近に性的マイノリティの方が「いる」割合は、性的マイノリティの方で高く、3割以上となっている。

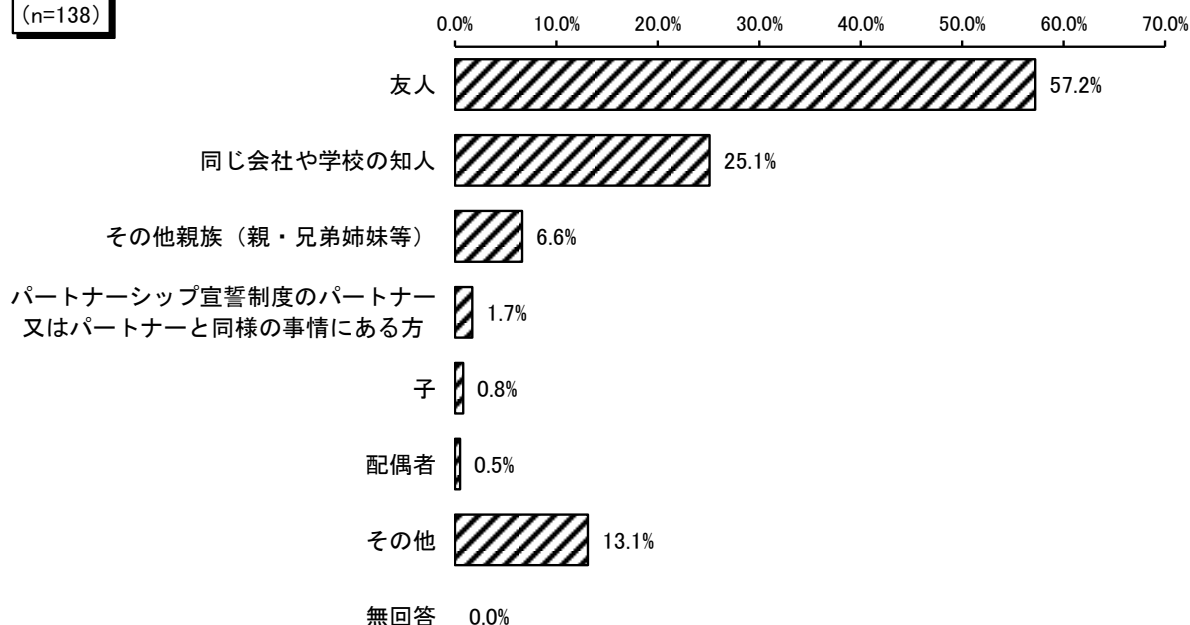
イ 身近な性的マイノリティの方の有無（全体/属性別）



ウ 性的マイノリティの方との関係性

問5-2 問5-1で「1 いる」に○をつけた方だけにお聞きします。
あなたと性的マイノリティの方の関係性は次のうちどれですか。
(○はいくつでも)

該当者
(n=138)



【全体結果】

性的マイノリティの方との関係性については、「友人」が 57.2%で最も高く、次いで「同じ会社や学校の知人」が 25.1%、「その他親族（親・兄弟姉妹等）」が 6.6%と続いている。

【性別】

「友人」の割合は、男性（51.1%）より女性（62.0%）で高くなっている。一方、「同じ会社や学校の知人」の割合は、女性（16.7%）より男性（35.9%）で高い。

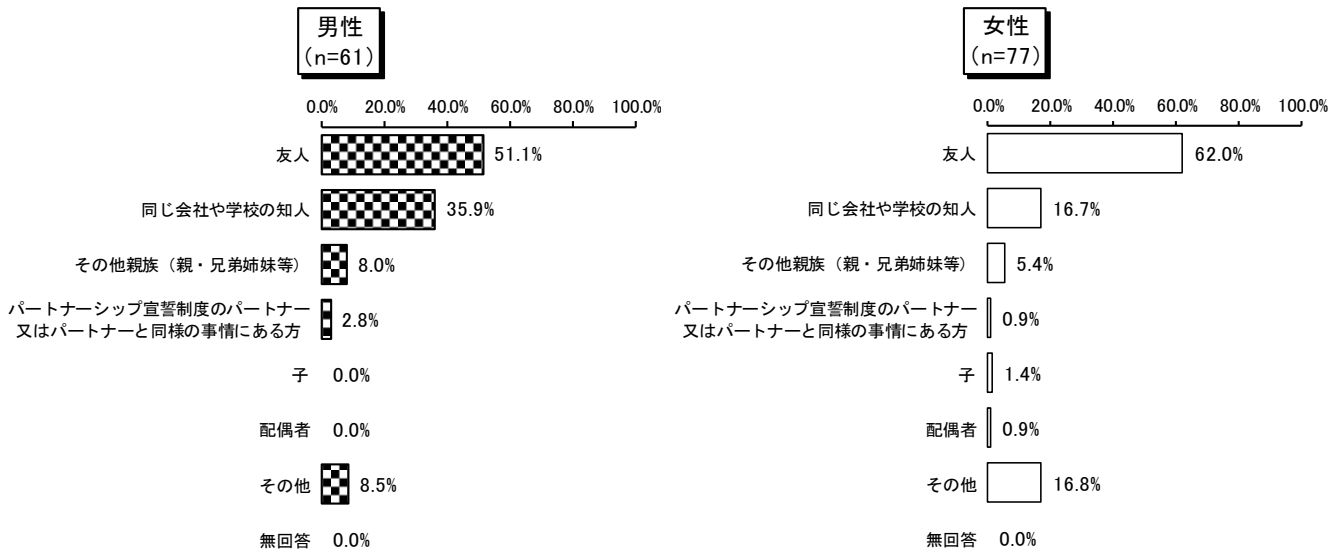
【年齢別】

該当者数が少ないため、分析結果は掲載していない。

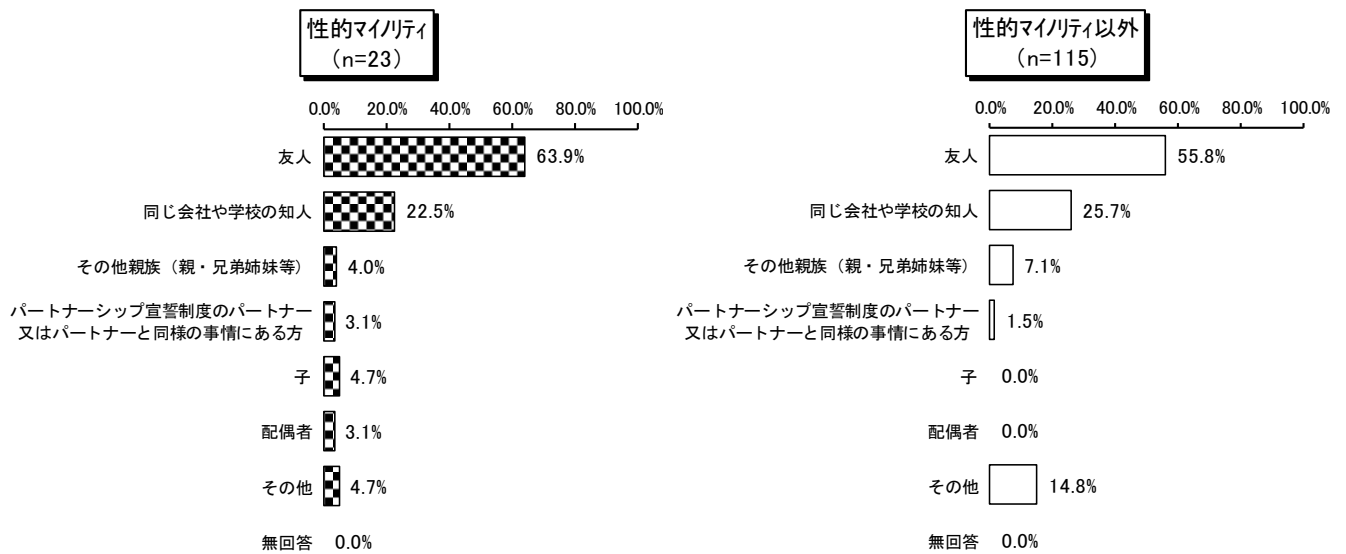
【認識している性別・性的指向に関する区分別】

いずれの区分でも、「友人」の割合が最も高くなっている。

ウ 性的マイノリティの方との関係性（性別）

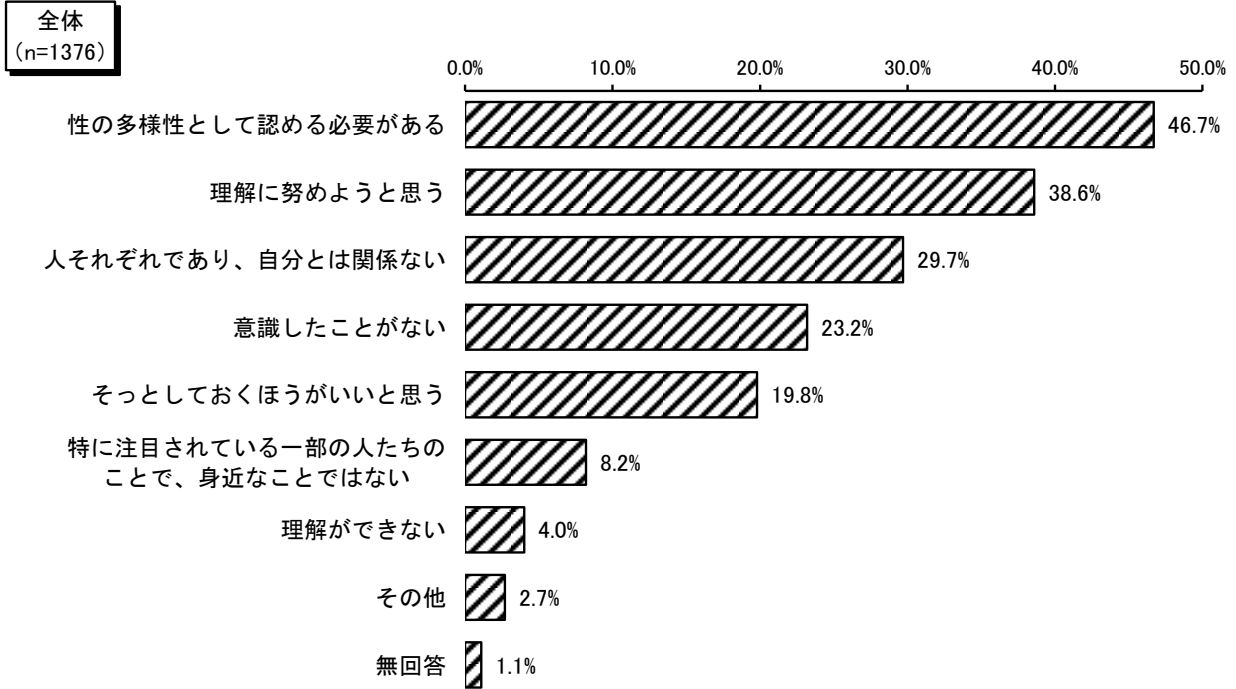


ウ 性的マイノリティの方との関係性（認識している性別・性的指向に関する区分別）



エ 性的マイノリティに対する考え方

問6 性的マイノリティについてどのような考えをお持ちですか。
(〇は3つまで)



【全体結果】

性的マイノリティの方との関係性については、「性の多様性として認める必要がある」が46.7%で最も高く、次いで「理解に努めようと思う」が38.6%、「人それぞれであり、自分とは関係ない」が29.7%、「意識したことがない」が23.2%と続いている。

【性別】

男性も女性も「性の多様性として認める必要がある」の割合が最も高く、女性では5割を超えており、次いで男性では「人それぞれであり、自分とは関係ない」、女性では「理解に努めようと思う」の割合が高い。

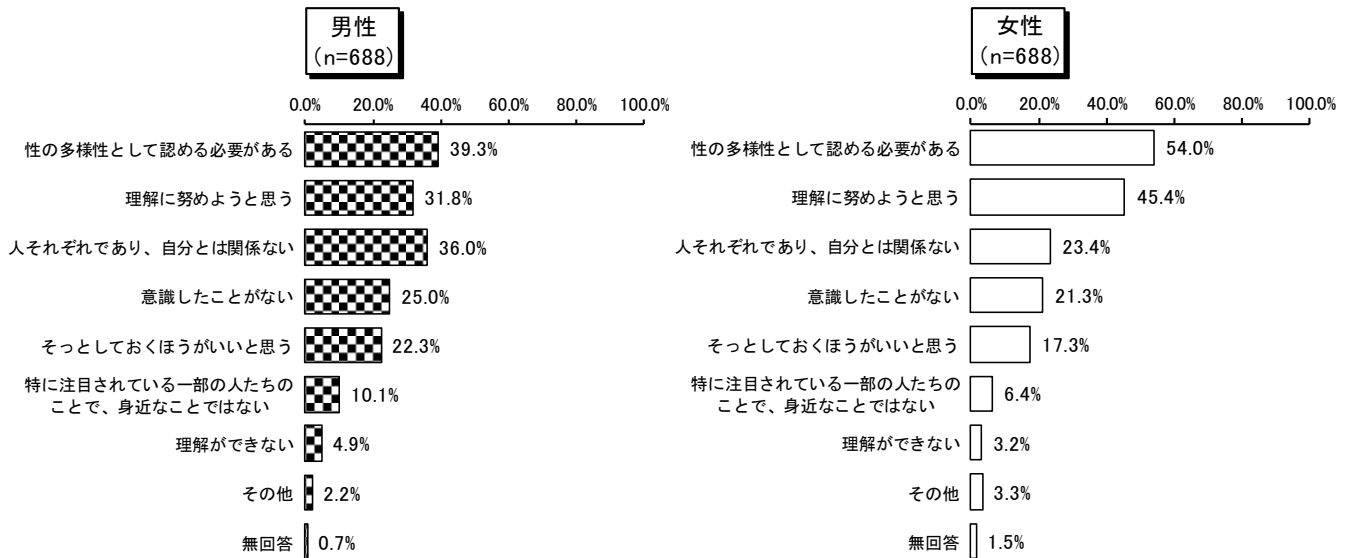
【年齢別】

70代を除く全ての年代で「性の多様性として認める必要がある」の割合が最も高くなっている。70代では「人それぞれであり、自分とは関係ない」の割合が最も高い。

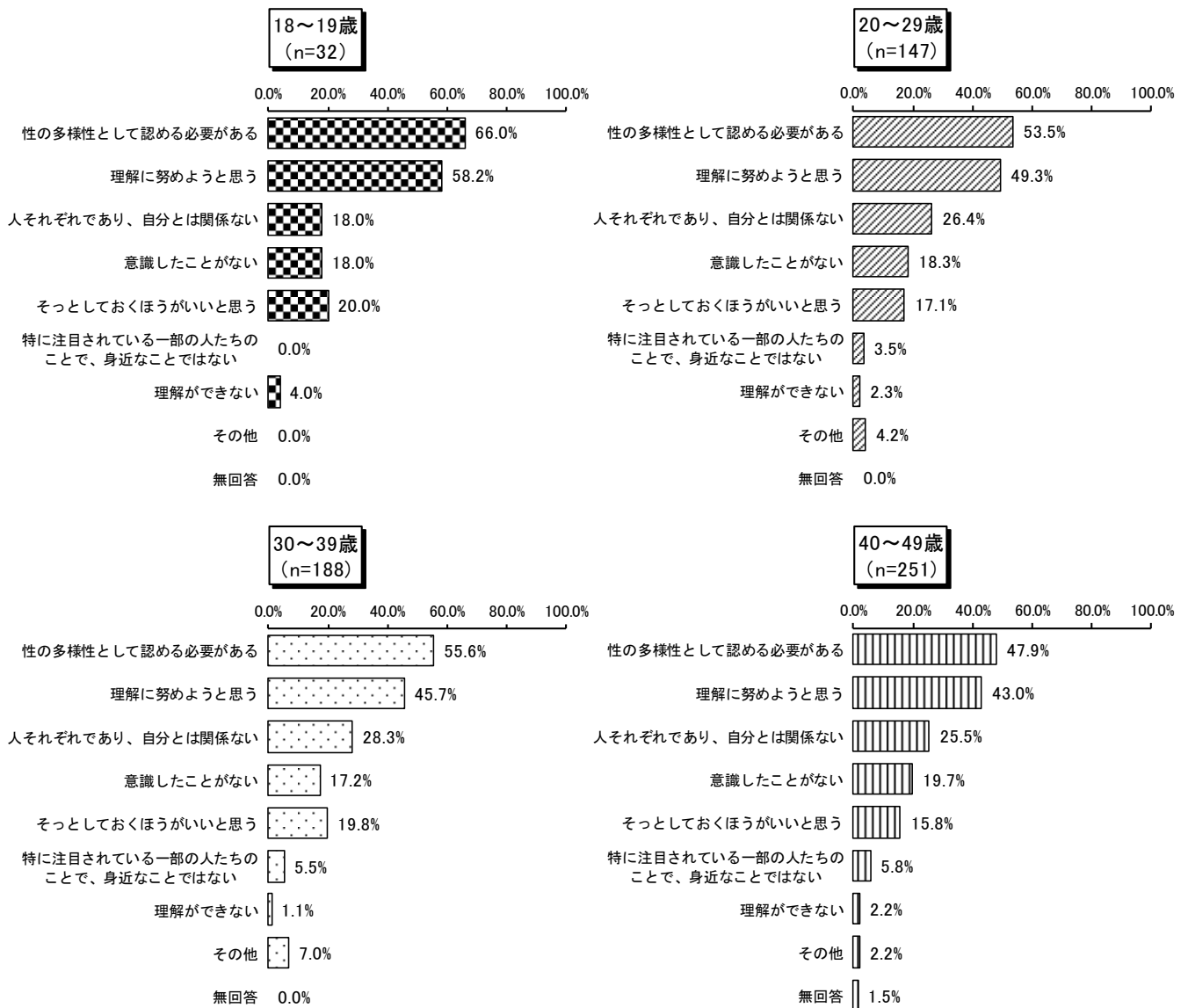
【認識している性別・性的指向に関する区分別】

いずれの区分でも、「性の多様性として認める必要がある」の割合が最も高くなっている。

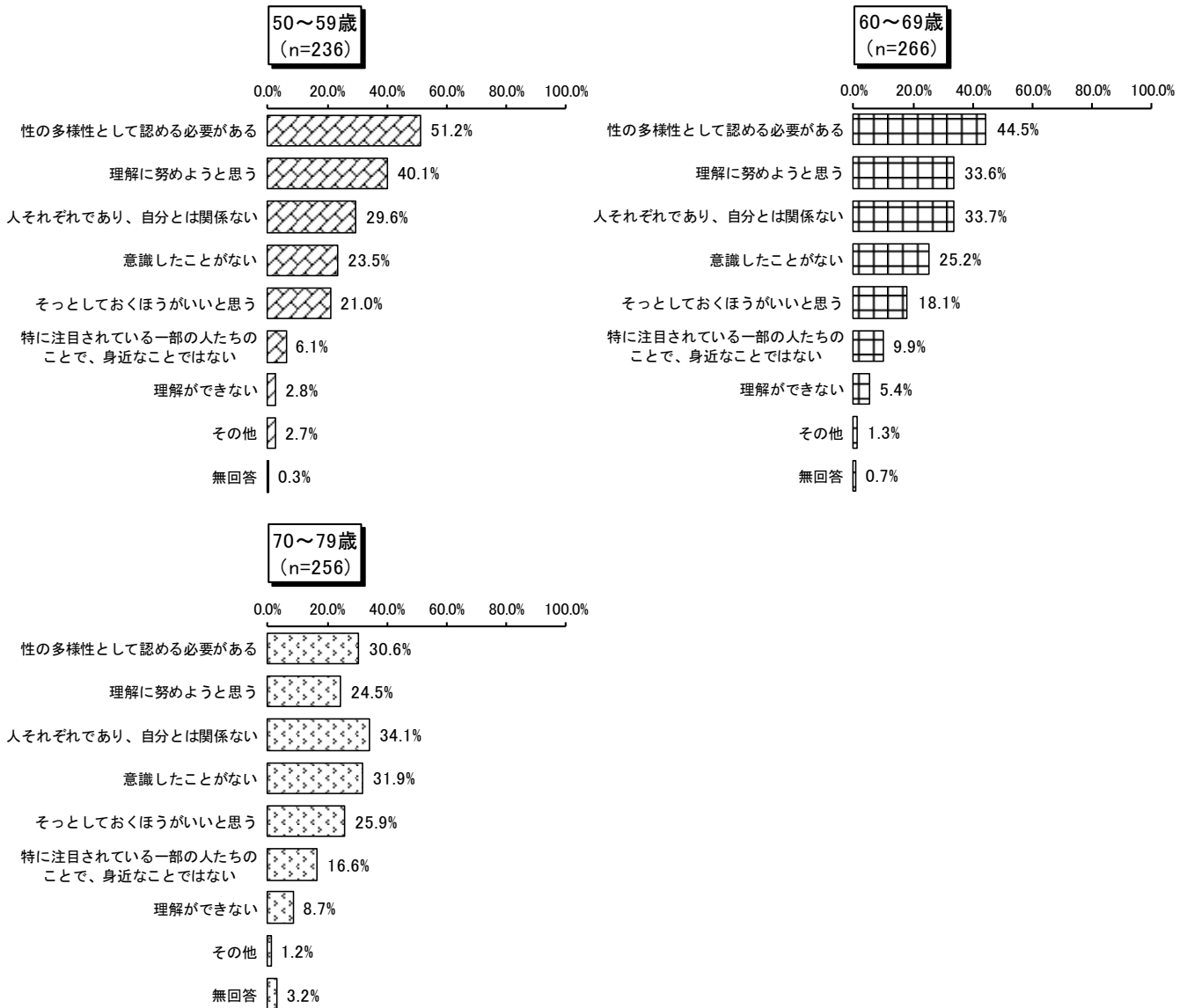
エ 性的マイノリティに対する考え方（性別）



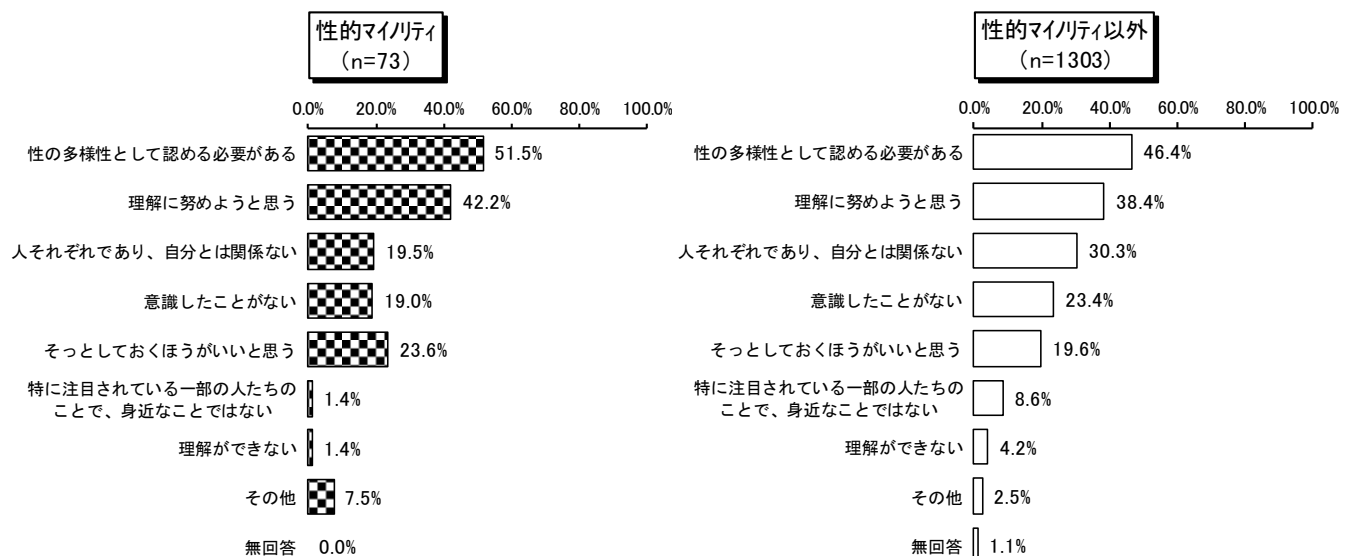
エ 性的マイノリティに対する考え方（年齢別） 1/2



エ 性的マイノリティに対する考え方（年齢別） 2/2

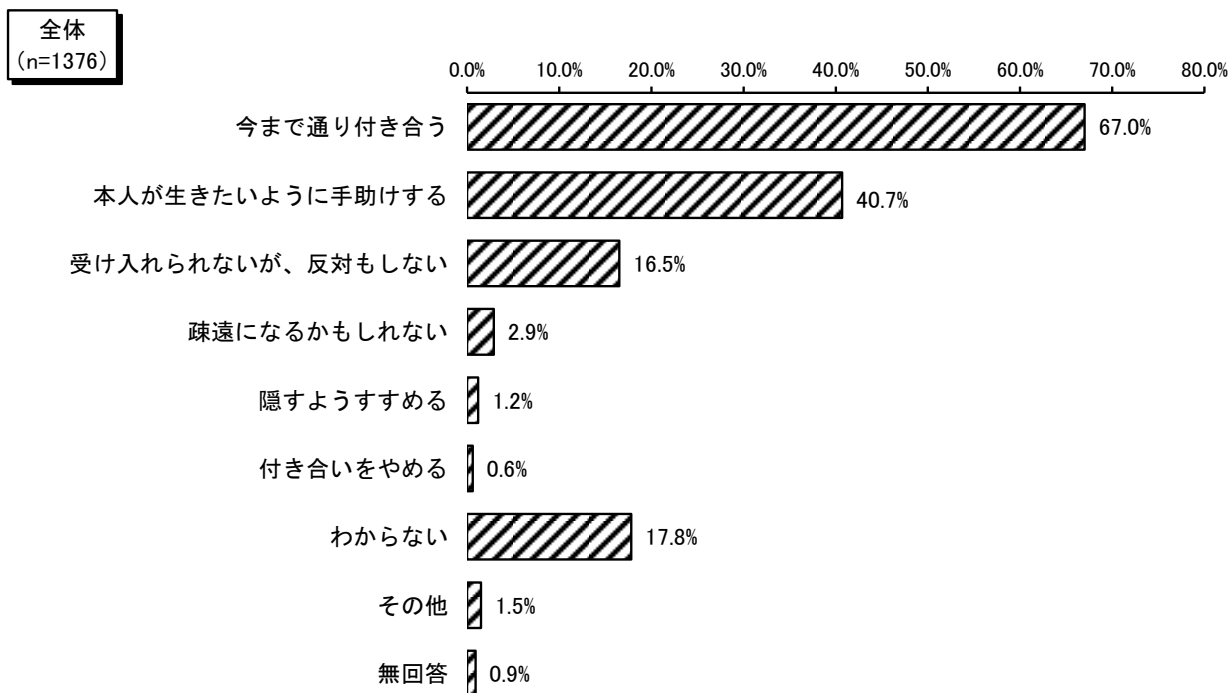


エ 性的マイノリティに対する考え方（認識している性別・性的指向に関する区分別）



オ 身近な人から性的マイノリティであることを打ち明けられた場合の対応

問7 身近な人（家族等）から性的マイノリティであることを打ち明けられたらどうしますか。（〇はいくつでも）



【全体結果】

身近な人から性的マイノリティであることを打ち明けられた場合の対応については、「今まで通り付き合う」が67.0%で最も高く、次いで「本人が生きたいように手助けする」が40.7%、「受け入れられないが、反対もしない」が16.5%と続いている。

【性別】

「今まで通り付き合う」「本人が生きたいように手助けする」の割合は、男性より女性で高く、一方、「受け入れられないが、反対もしない」の割合は、女性より男性で高い。

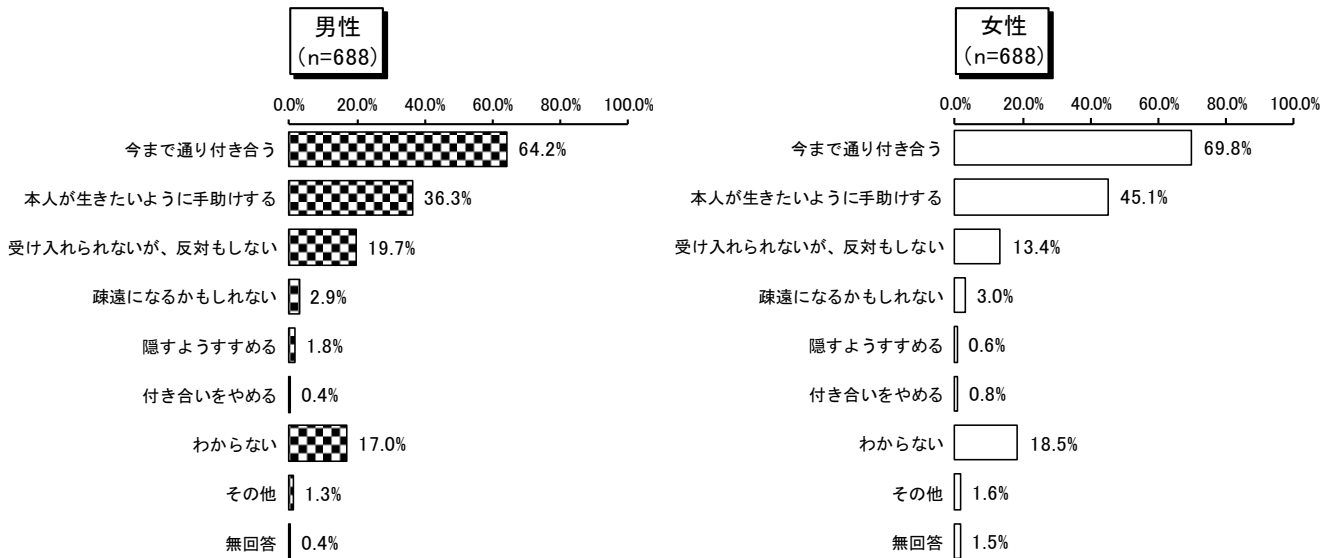
【年齢別】

全ての年代で「今まで通り付き合う」の割合が最も高くなっている。他の年代と比べて70代で「受け入れられないが、反対もしない」の割合が約3割と高く、高年齢ほど高い傾向にある。

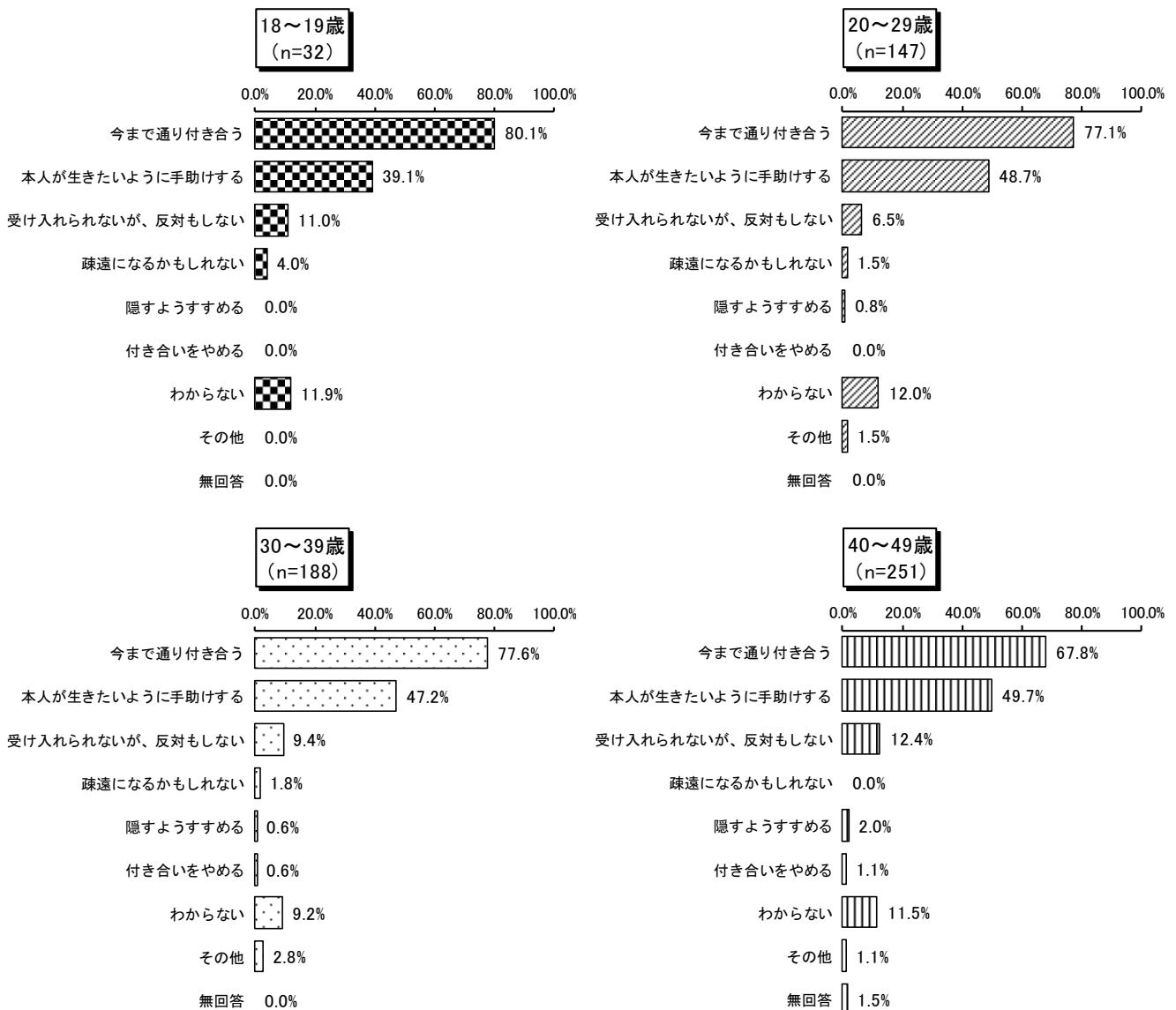
【認識している性別・性的指向に関する区分別】

いずれの区分でも、「今まで通り付き合う」の割合が最も高くなっている。特に性的マイノリティの方で割合が高く、7割以上となっている。

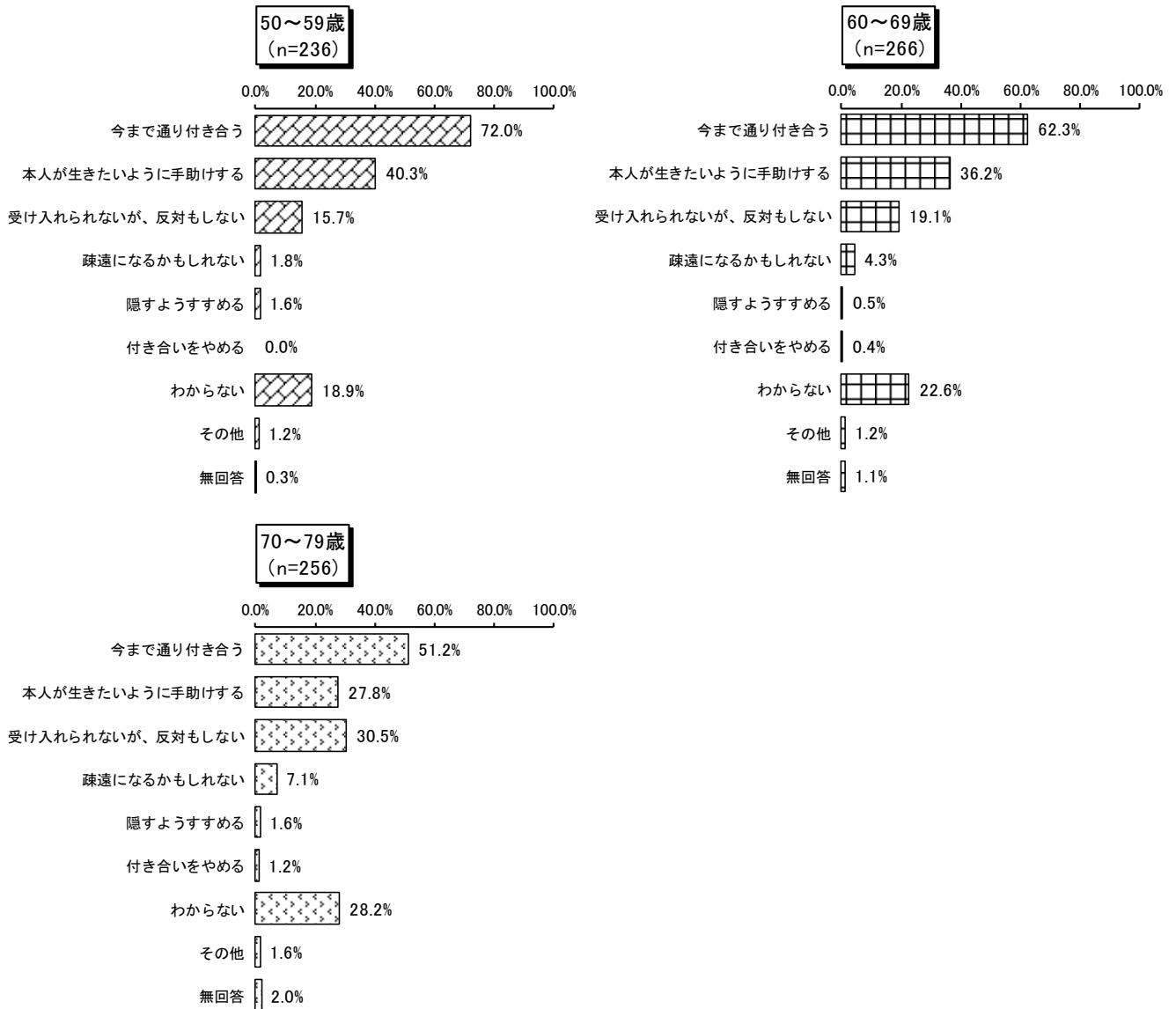
オ 身近な人から性的マイノリティであることを打ち明けられた場合の対応（性別）



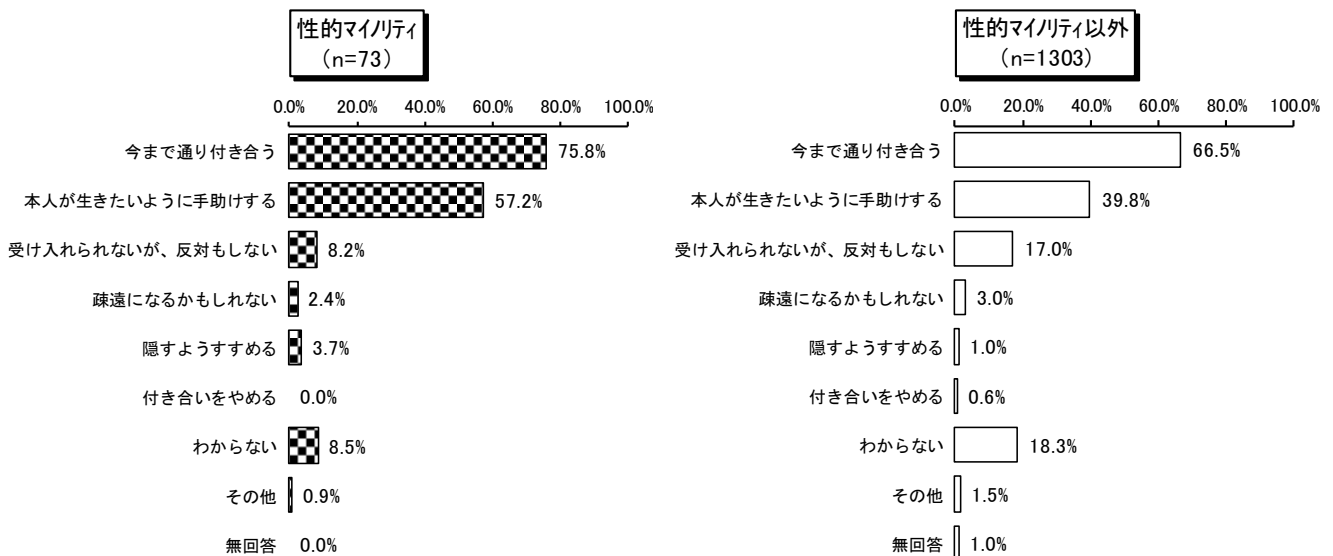
オ 身近な人から性的マイノリティであることを打ち明けられた場合の対応（年齢別） 1/2



オ 身近な人から性的マイノリティであることを打ち明けられた場合の対応（年齢別） 2/2



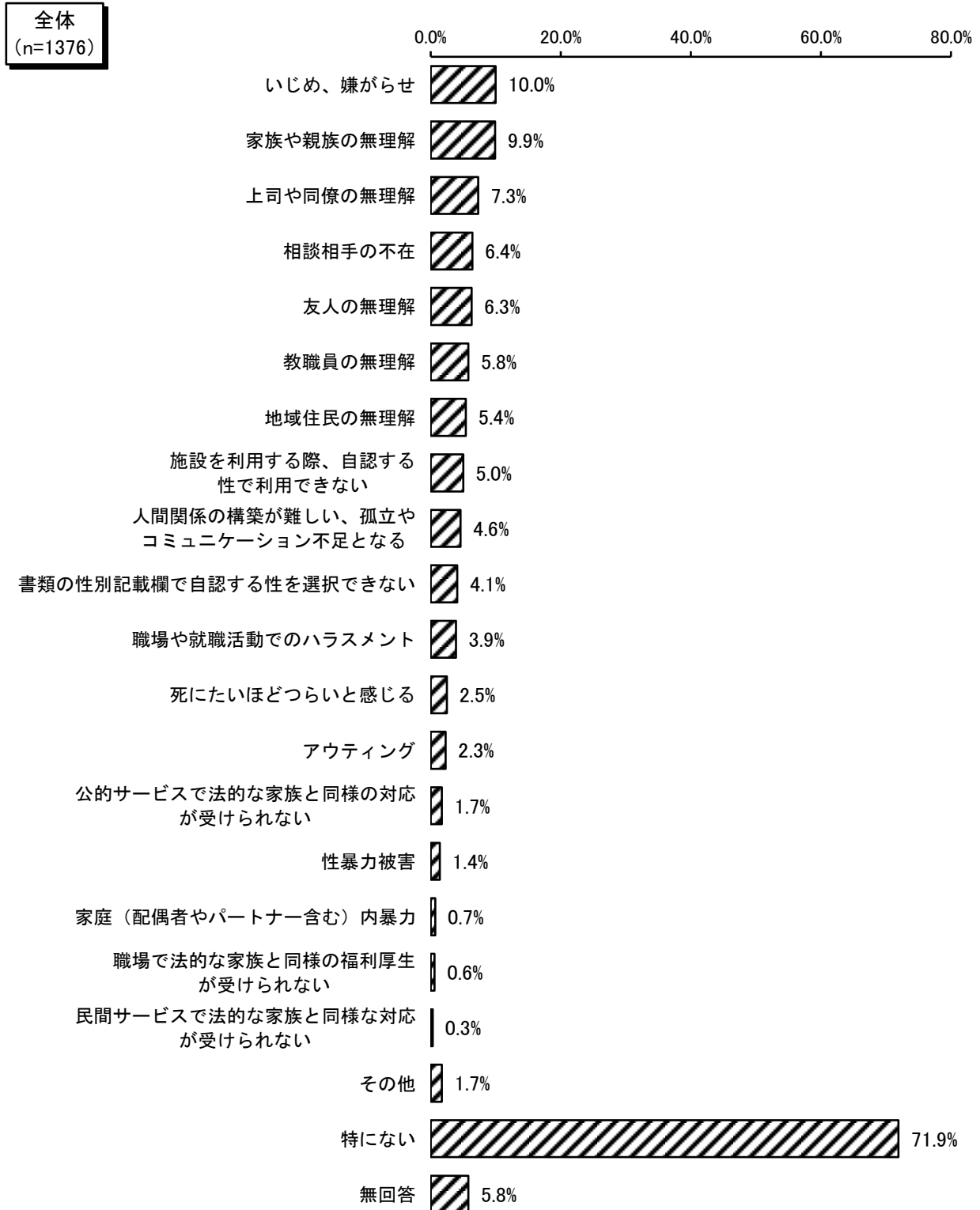
オ 身近な人から性的マイノリティであることを打ち明けられた場合の対応（認識している性別・性的指向に関する区分別）



(3) これまでの経験や施策等の必要性について

ア 自身の経験や身近で見聞きしたこと

問8-1 これまでに性的マイノリティを理由にした以下のことについて、
ご自身が経験したことや身近で見聞きしたことはありますか。
(〇はいくつでも)



【全体結果】

性的マイノリティを理由にした自身の経験や身近で見聞きしたことについては、「特にない」が約 7 割を占めている。実際の内容としては「いじめ、嫌がらせ」が 10.0%、「家族や親族の無理解」が 9.9%、「上司や同僚の無理解」が 7.3%、「相談相手の不在」が 6.4%と続いている。

【性別】

「特にない」の割合は、男性（76.0%）より女性（67.8%）で低く、実際の内容としては男性では「いじめ、嫌がらせ」（8.7%）、女性では「家族や親族の無理解」（13.0%）の割合が高くなっている。

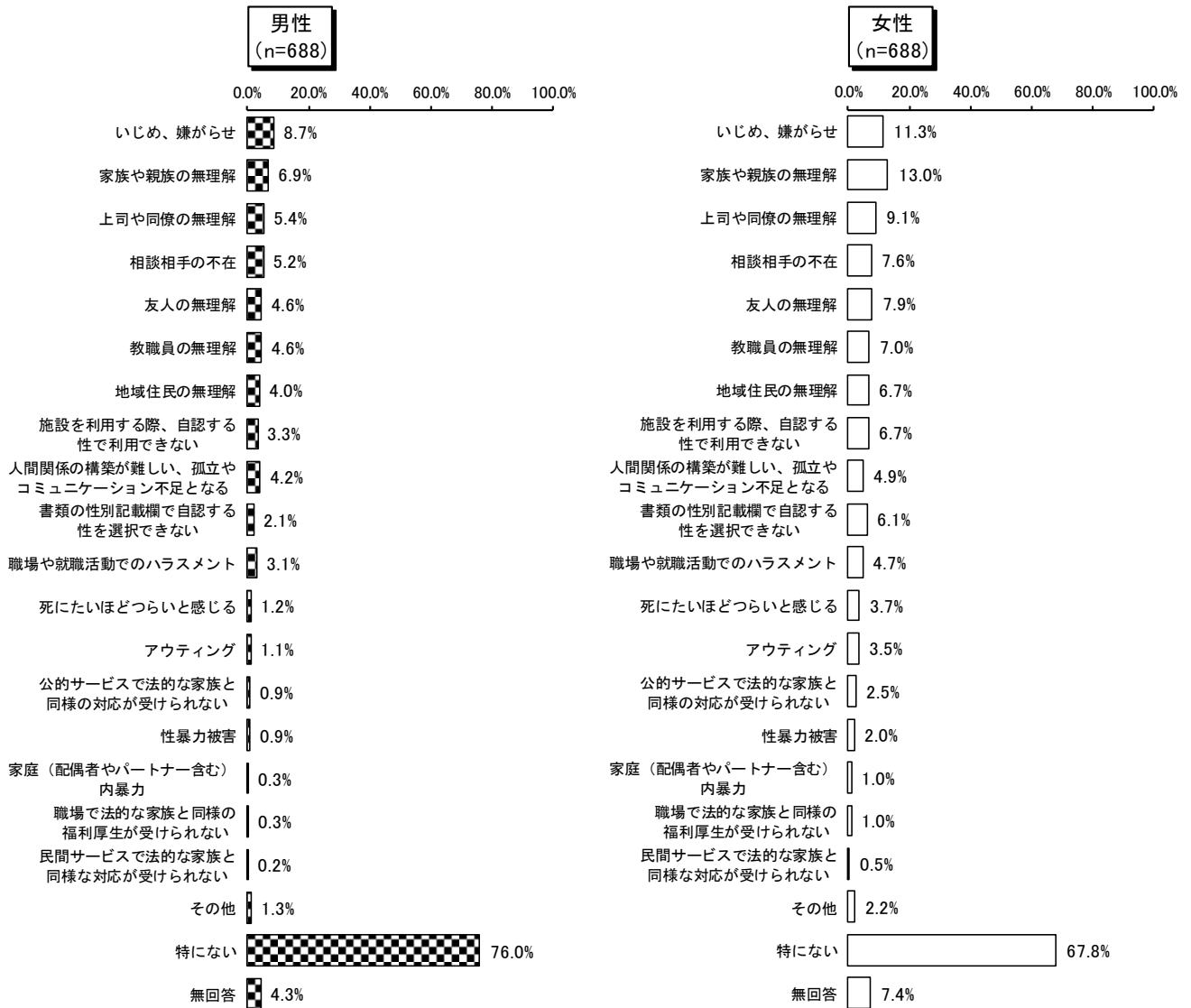
【年齢別】

他の年代と比べて 20 代では「いじめ、嫌がらせ」（15.8%）や「家族や親族の無理解」（17.0%）の割合がやや高くなっている。

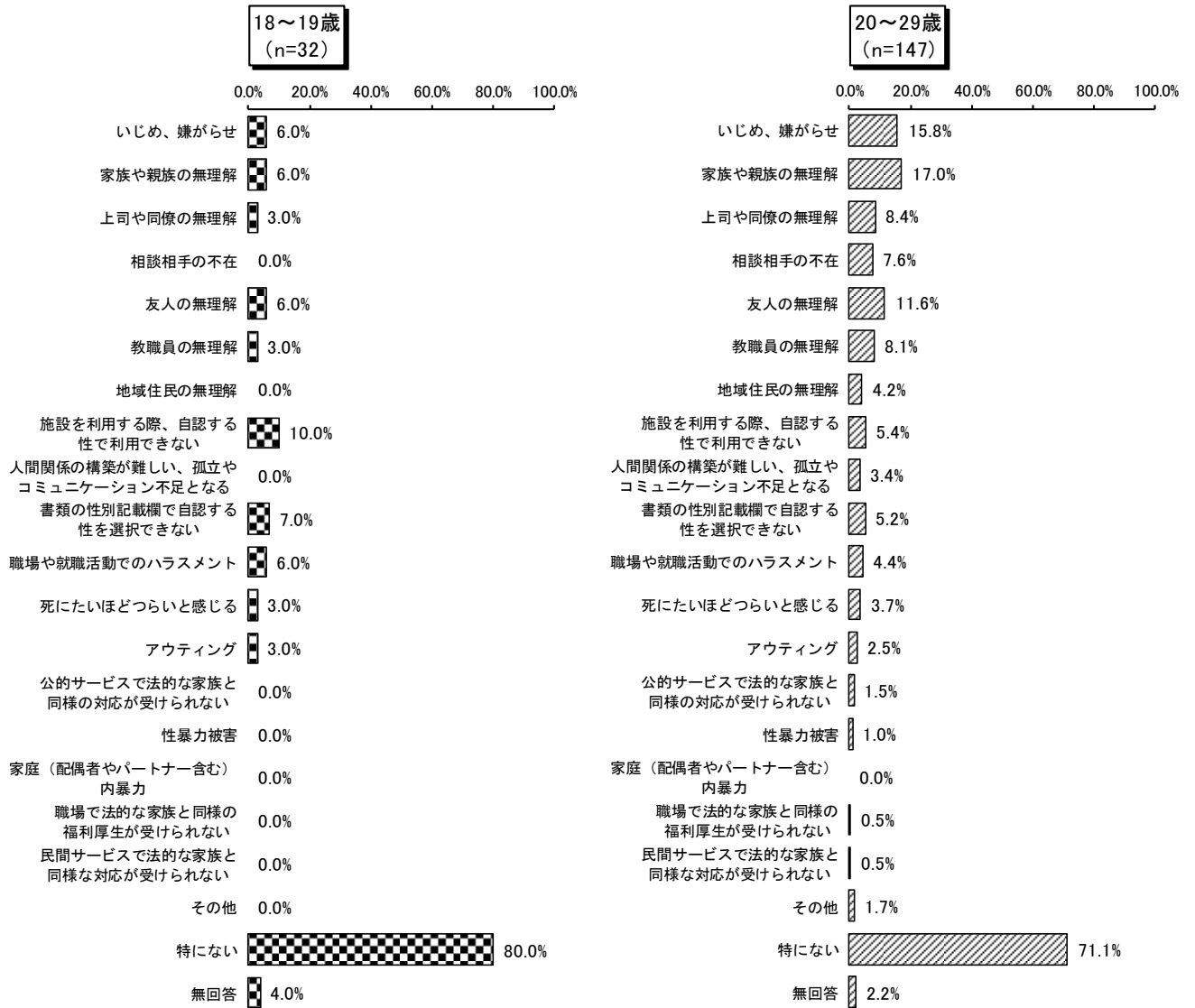
【認識している性別・性的指向に関する区分別】

性的マイノリティの方では、「特にない」と答えた割合（48.1%）が低く、実際の内容としては、「家族や親族の無理解」が 21.3%、「相談相手の不在」が 19.9%、「いじめ、嫌がらせ」が 18.7%と続いている。

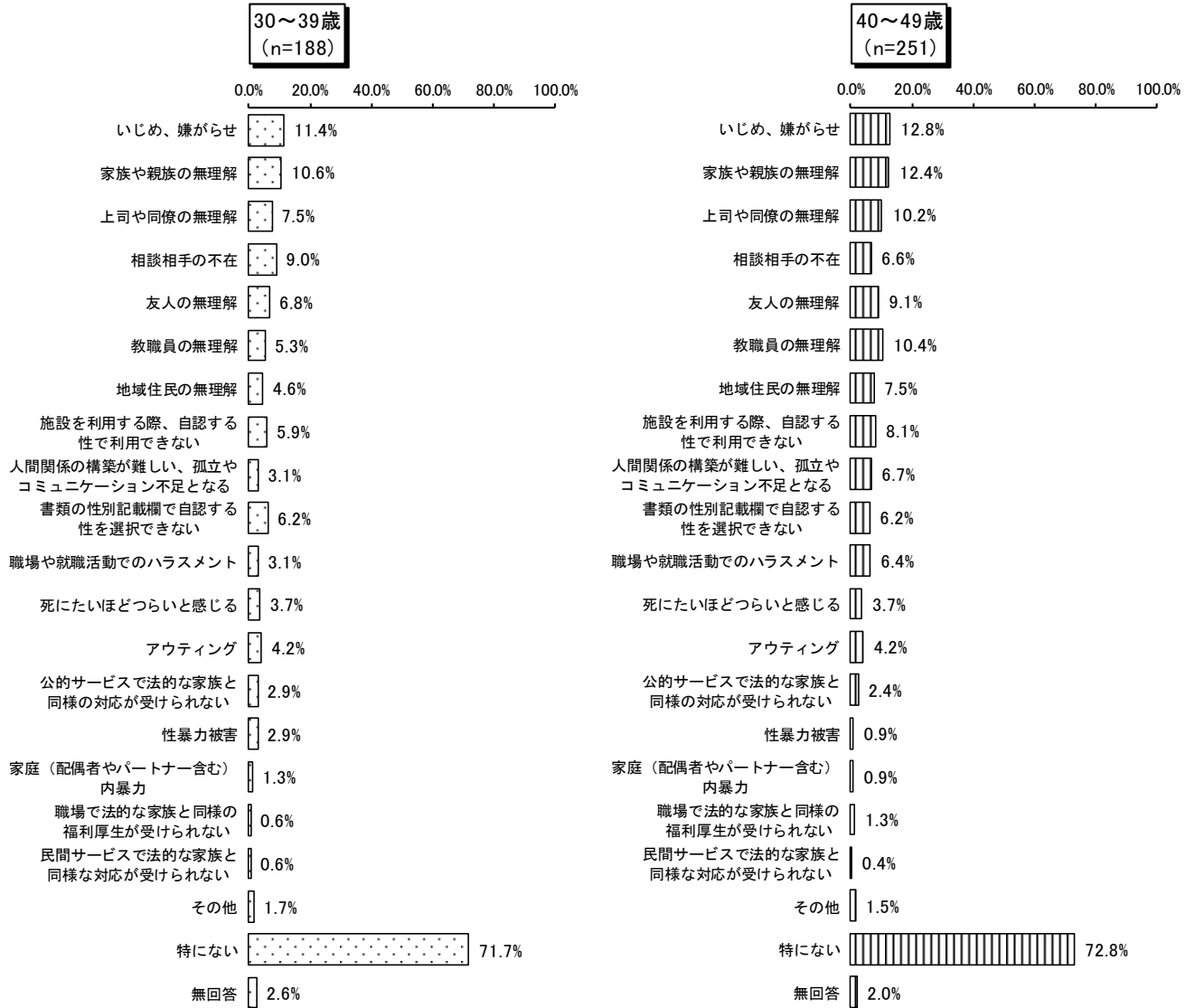
ア 自身の経験や身近で見聞きしたこと（性別）



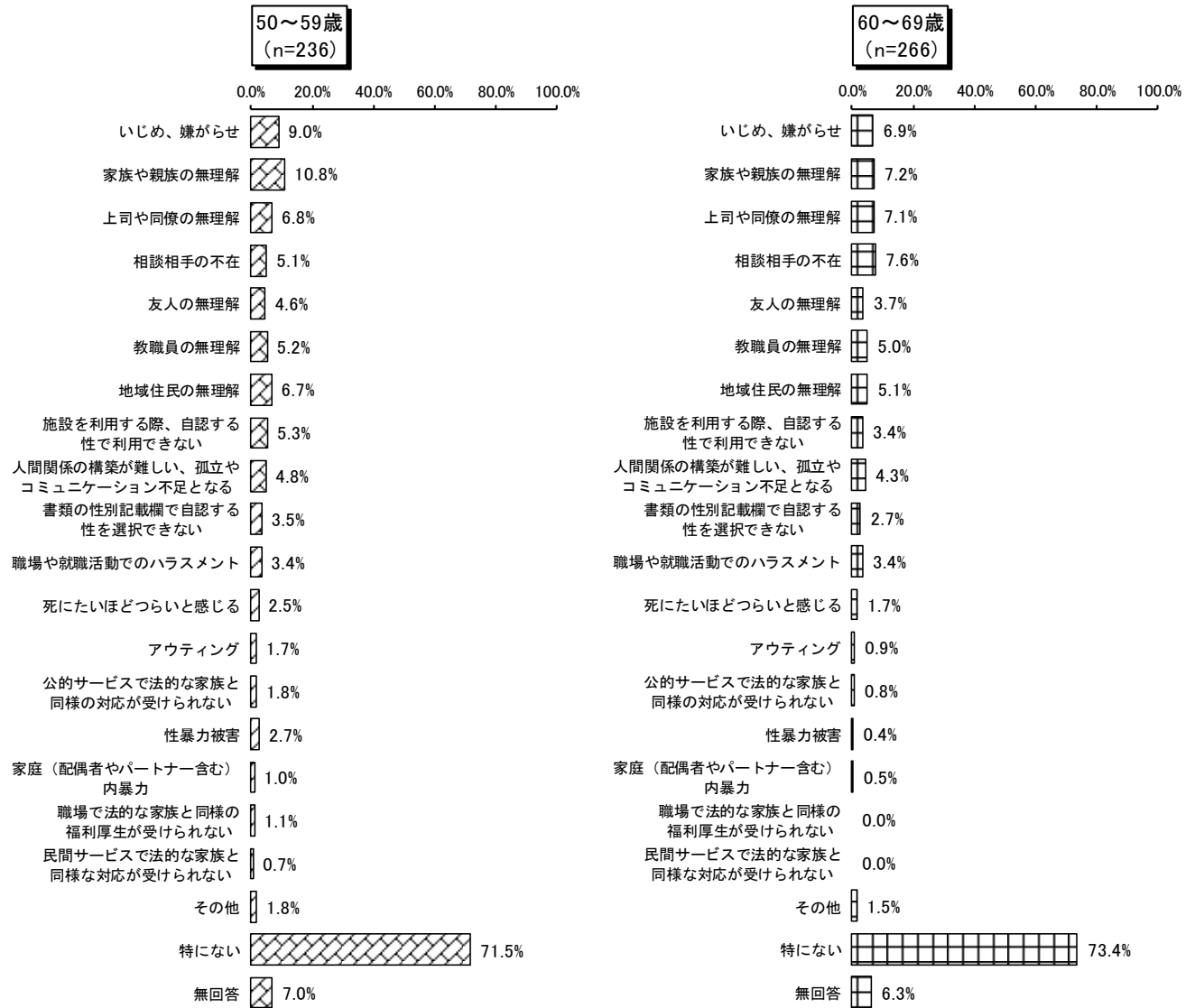
ア 自身の経験や身近で見聞きしたこと（年齢別） 1/4



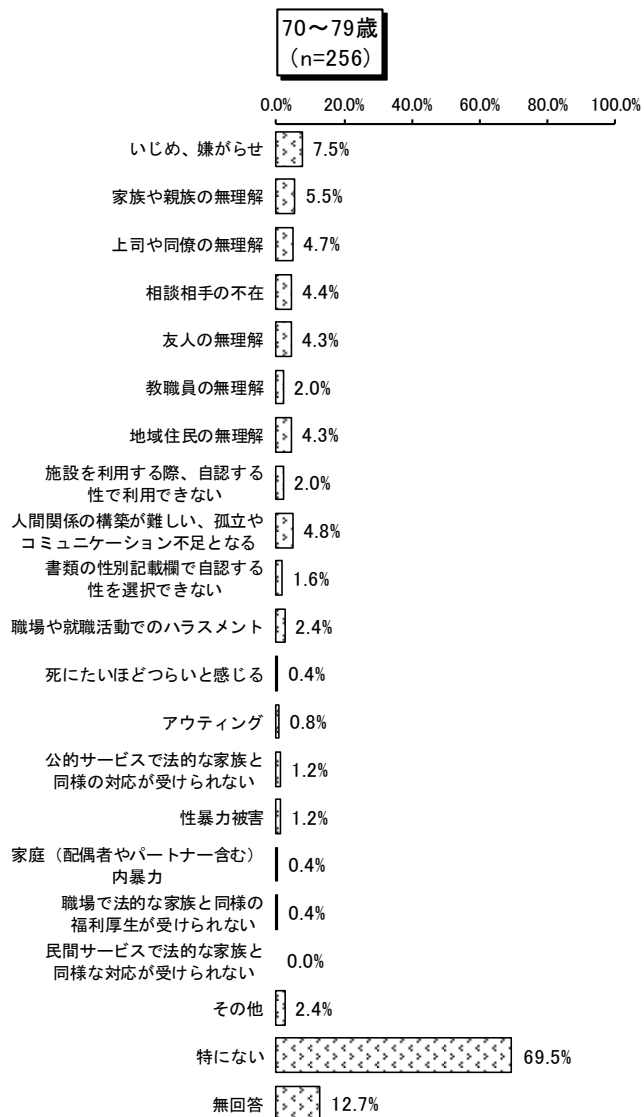
ア 自身の経験や身近で見聞きしたこと（年齢別） 2/4



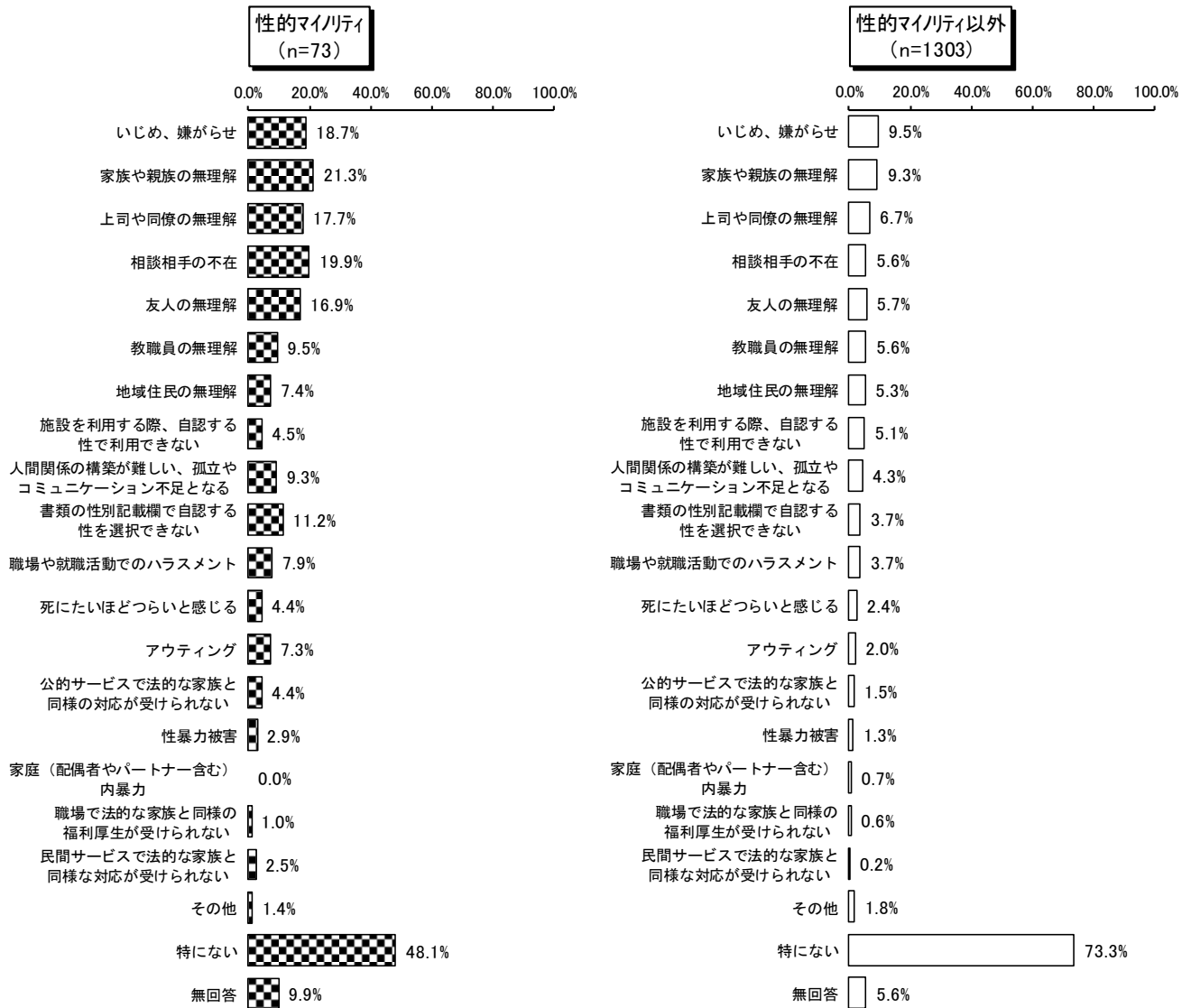
ア 自身の経験や身近で見聞きしたこと（年齢別） 3/4



ア 自身の経験や身近で見聞きしたこと（年齢別） 4/4



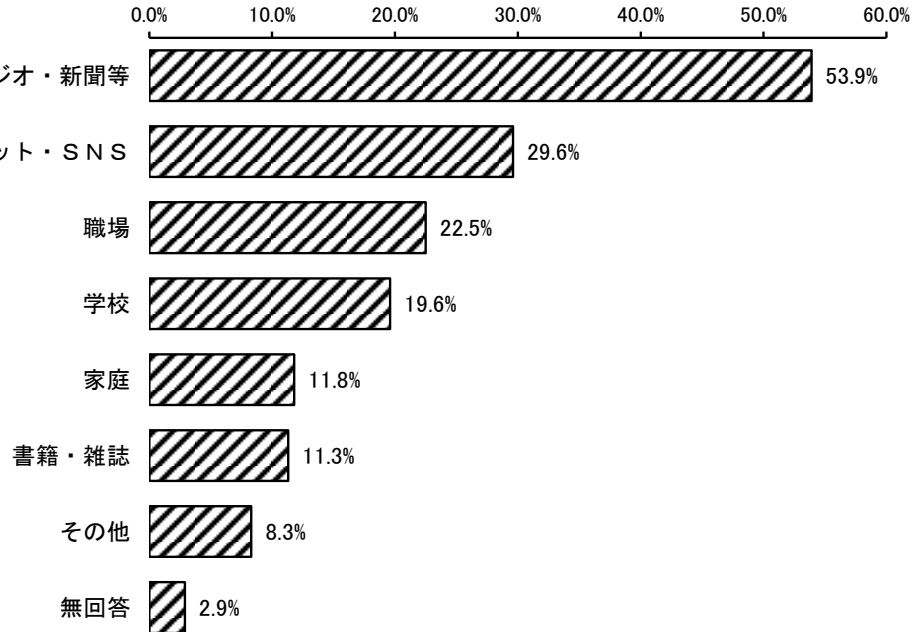
ア 自身の経験や身近で見聞きしたこと（認識している性別・性的指向に関する区分別）



イ 自身の経験や身近で見聞きした場面

問8-2 問8-1で1~19に○をつけた方にお聞きします。
問8-1で○をつけた内容について、ご自身で体験した又は身近で見聞きした場面は次のうちどれですか。(○はいくつでも)

該当者
(n=306)



【全体結果】

自身の経験や身近で見聞きした場面については、「テレビ・ラジオ・新聞等」が 53.9%で最も高く、次いで「インターネット・SNS」が 29.6%、「職場」が 22.5%、「学校」が 19.6%と続いている。

【性別】

男性も女性も「テレビ・ラジオ・新聞等」が最も高く、割合は男性（48.4%）より女性（58.2%）で高くなっている。

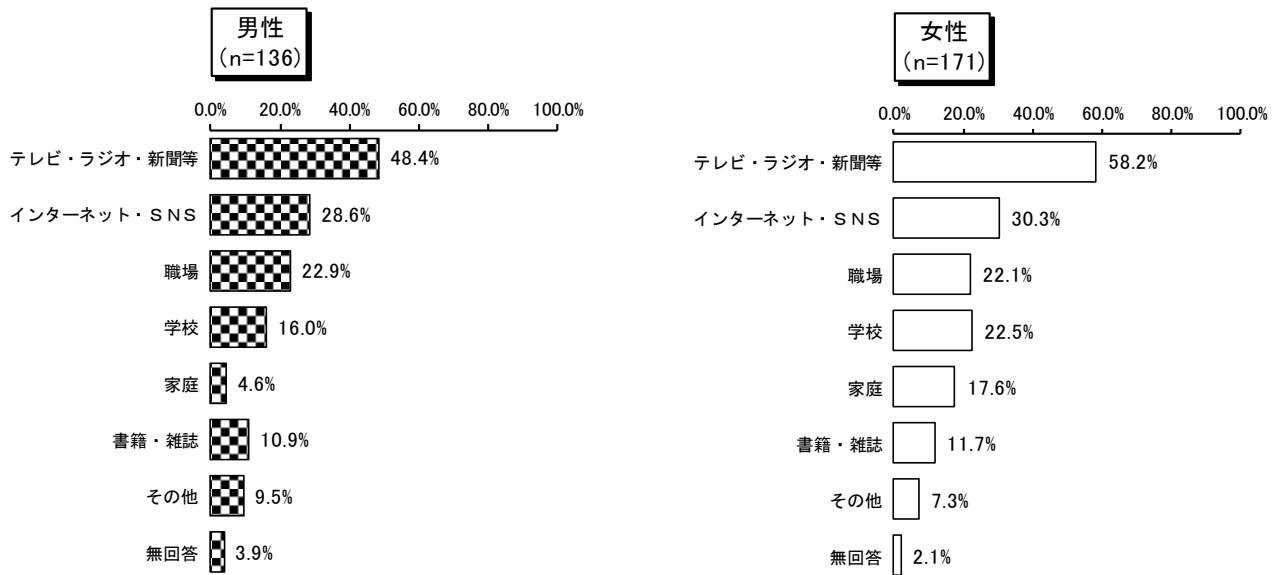
【年齢別】

該当者数が少ないため、分析結果は掲載していない。

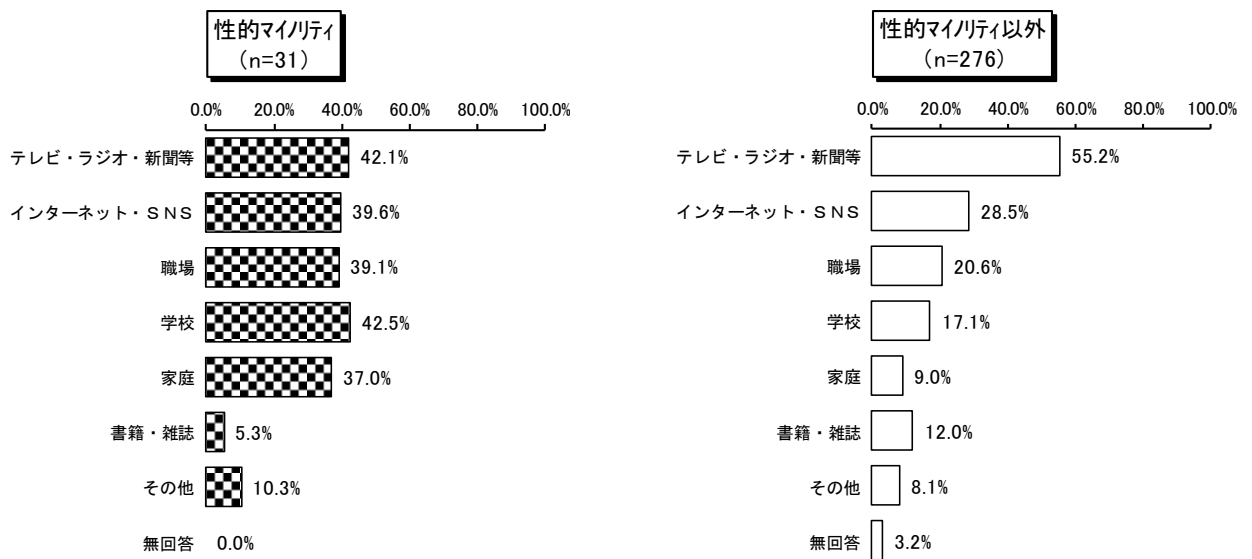
【認識している性別・性的指向に関する区分別】

性的マイノリティの方では、「インターネット・SNS」「職場」「学校」「家庭」の割合が高くなっている。

イ 自身の経験や身近で見聞きした場面（性別）



イ 自身の経験や身近で見聞きした場面（認識している性別・性的指向に関する区分別）

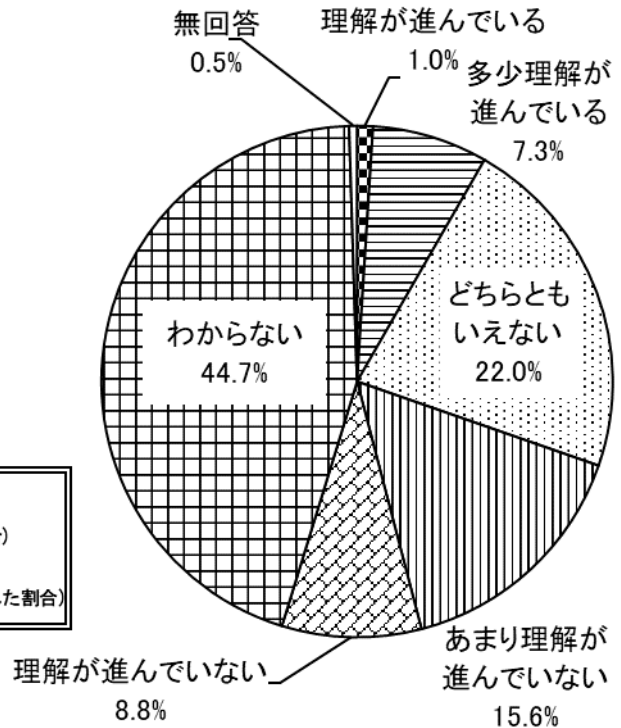


ウ 県内での性の多様性の理解度について

問9 本県では、性のあり方にかかわらず誰もが活躍できる社会を実現するため、性の多様性の理解促進を図る啓発等に取り組んでいますが、あなたは、本県において性の多様性への理解が進んでいると思いますか。
(○は1つだけ)

全体
(n=1376)

「理解が進んでいる」計 ……8.3%
(「理解が進んでいる」と「多少理解が進んでいる」を合計した割合)
「理解が進んでいない」計 ……24.4%
(「理解が進んでいない」と「あまり理解が進んでいない」を合計した割合)



【全体結果】

県において性の多様性への理解が進んでいると思うかについては、「理解が進んでいる」計は8.3%となり、1割未満となっている。「わからない」が最も多く、4割以上を占めている。

【性別】

「理解が進んでいる」計は、女性（7.2%）より男性（9.4%）で高くなっている。

【年齢別】

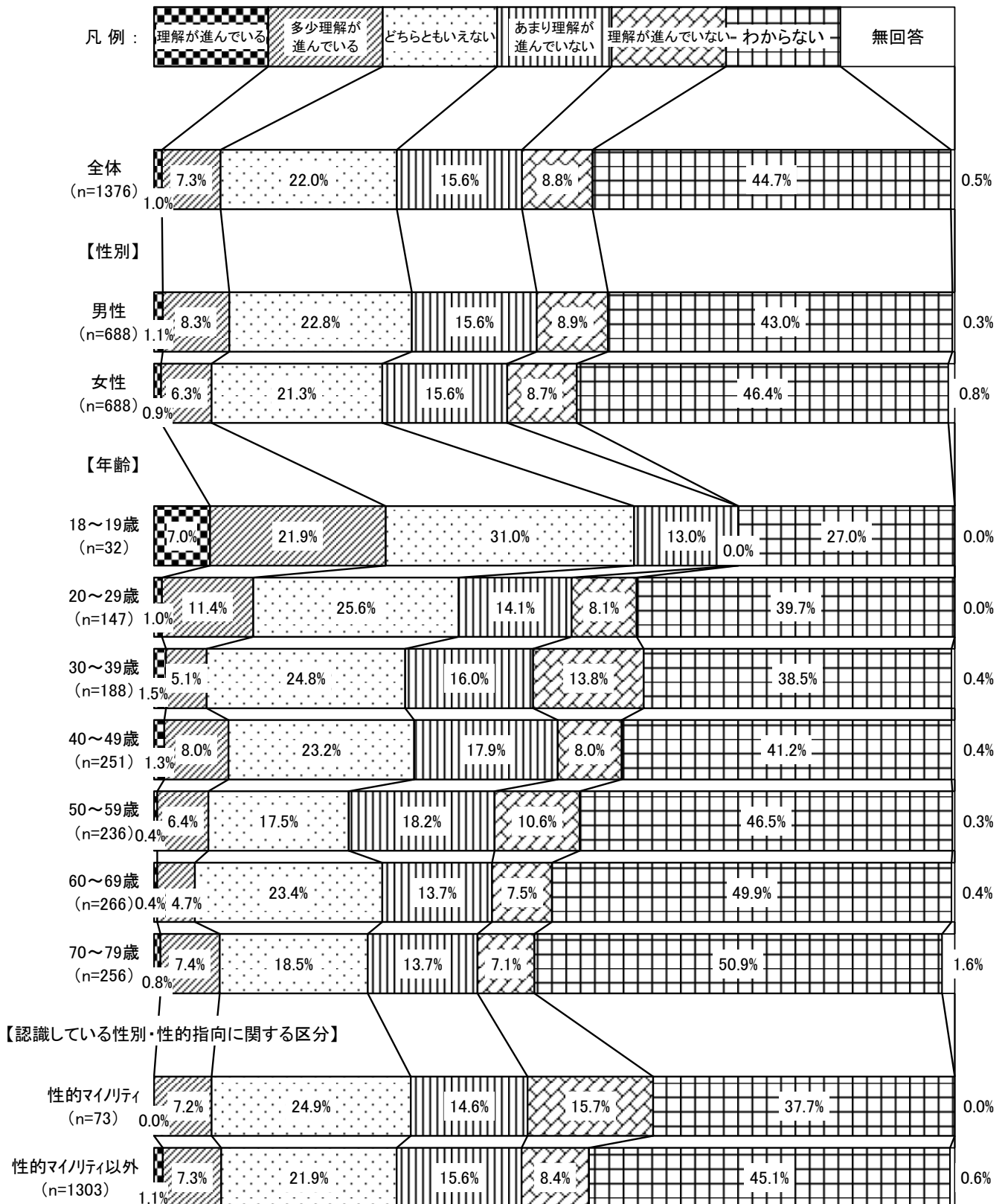
「理解が進んでいる」計は、他の年代と比べて10代（28.9%）、20代（12.4%）で高くなっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「理解が進んでいる」計は、性的マイノリティの方で低く、約3割が理解が進んでいないと回答している。

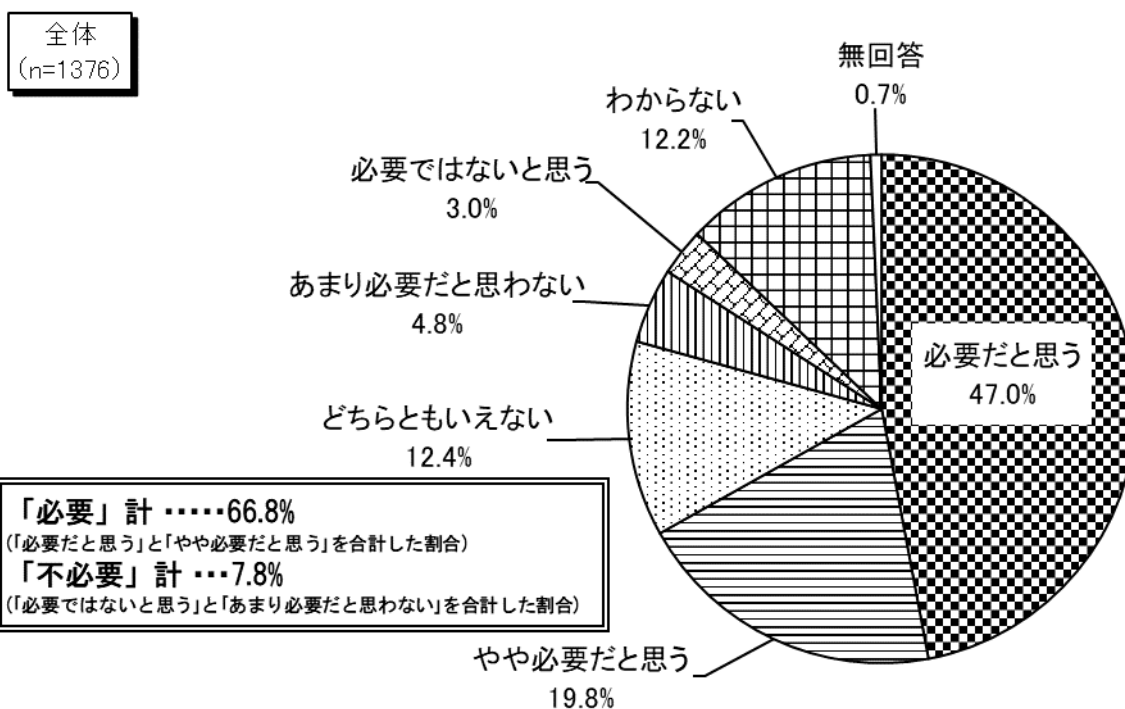
		「理解が進んでいる」計	「理解が進んでいない」計
	全体(n=1376)	8.3%	24.4%
【性別】	男性(n=688)	9.4%	24.5%
	女性(n=688)	7.2%	24.3%
【年齢別】	18～19歳(n=32)	28.9%	13.0%
	20～29歳(n=147)	12.4%	22.2%
	30～39歳(n=188)	6.6%	29.8%
	40～49歳(n=251)	9.3%	25.9%
	50～59歳(n=236)	6.8%	28.8%
	60～69歳(n=266)	5.1%	21.2%
	70～79歳(n=256)	8.2%	20.8%
【認識している性別・性的指向に関する区分】	性的マイノリティ(n=73)	7.2%	30.3%
	性的マイノリティ以外(n=1303)	8.4%	24.0%

ウ 県内での性の多様性の理解度について（全体/属性別）



エ 県や市町村が取組を進めることの必要性について

問 10-1 あなたは、多様な性のあり方への無理解や偏見をなくし、性的マイノリティの方がより暮らしやすい環境を整えるため、県や市町村が取組を進めることは必要だと思いますか。(〇は1つだけ)



【全体結果】

県や市町村が取組を進めることは必要だと思うかについては、「必要」計は 66.8%となっている。

【性別】

「必要」計は、男性 (59.6%) より女性 (73.9%) で高くなっている。

【年齢別】

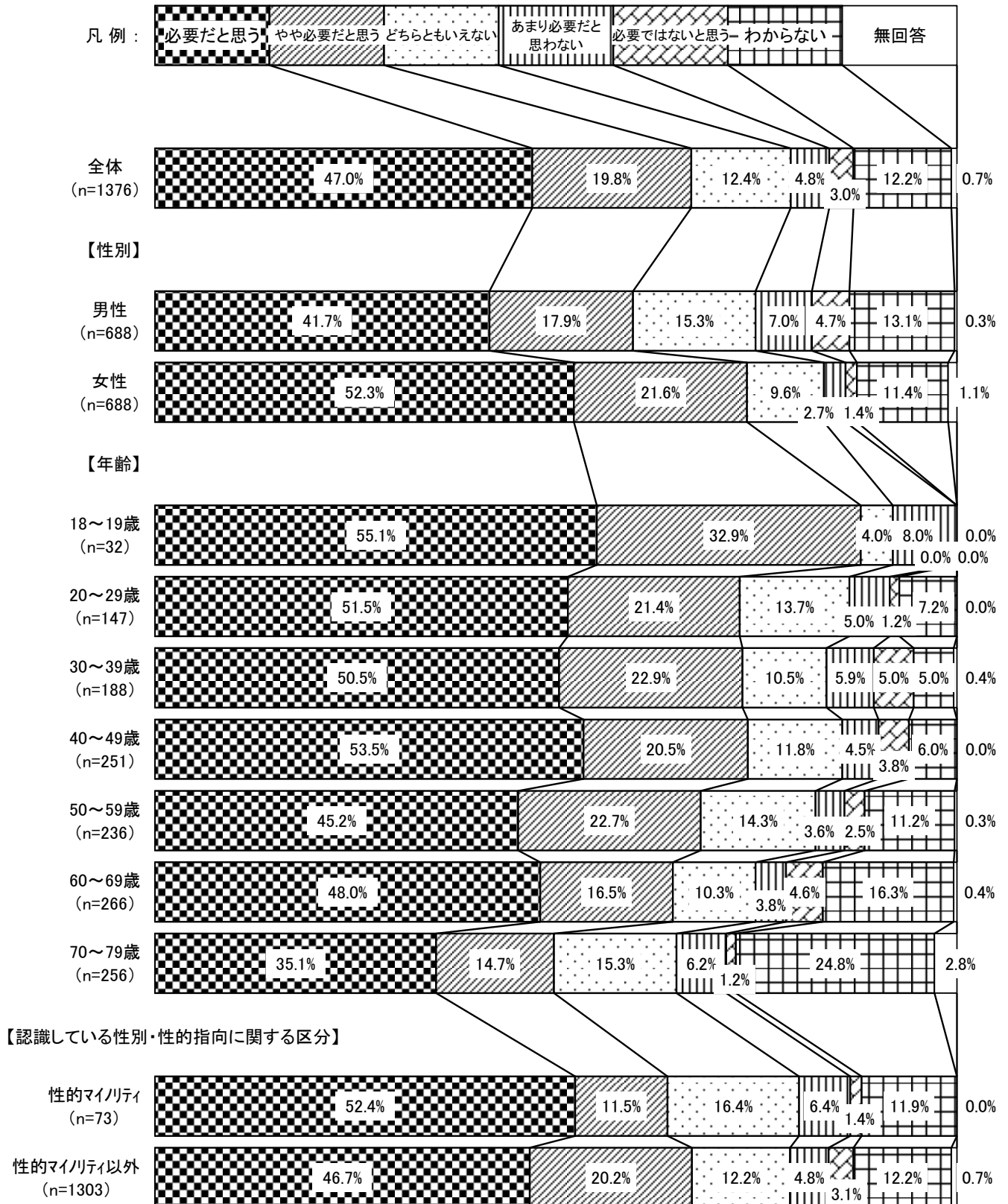
「必要」計は、10代 (88.0%) で最も高く、70代 (49.8%) で最も低くなっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「必要」計は、性的マイノリティの方でやや低く、63.9%となっている。

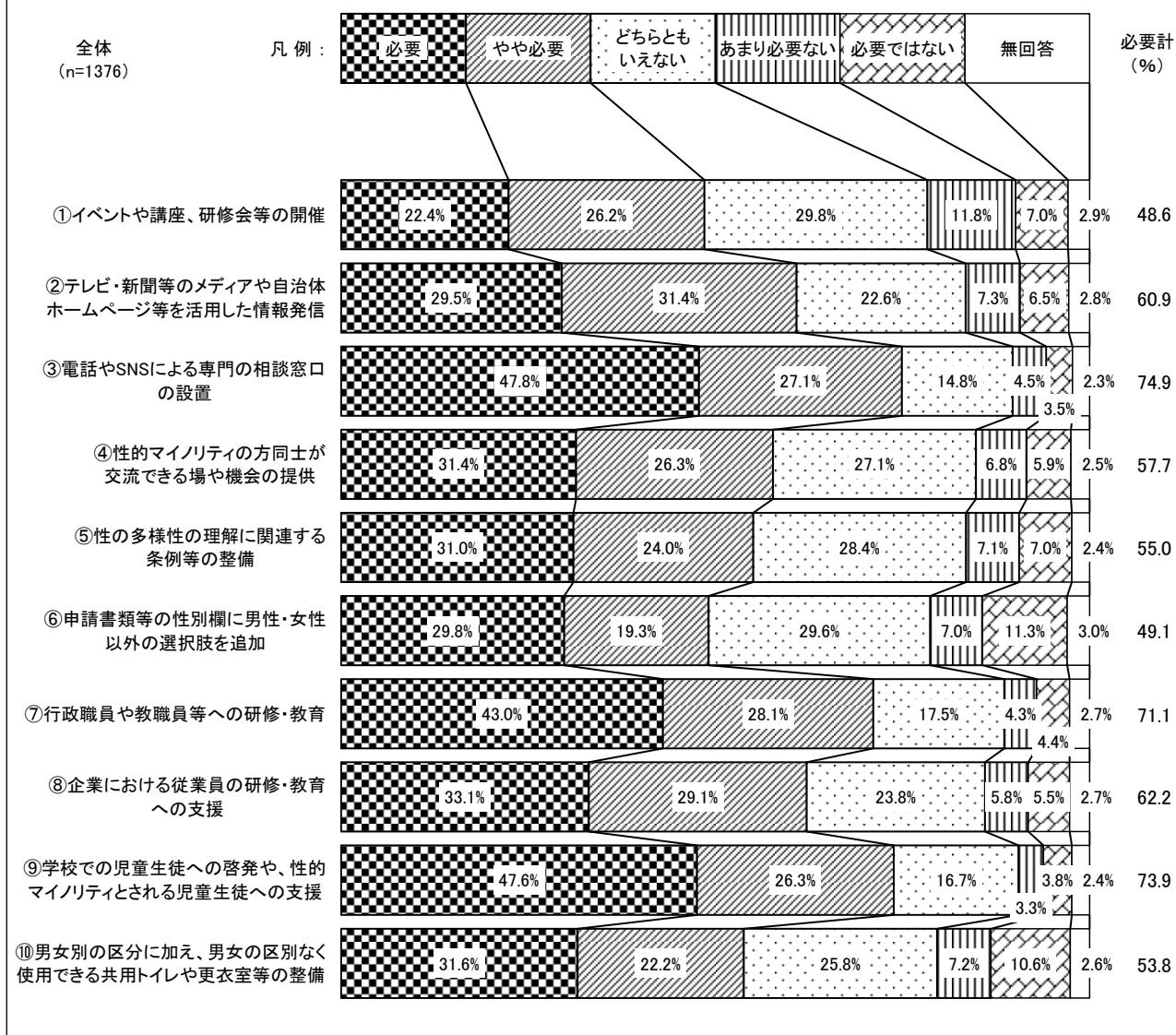
		「必要」計	「不必要」計
	全体(n=1376)	66.8%	7.8%
【性別】	男性(n=688)	59.6%	11.7%
	女性(n=688)	73.9%	4.1%
【年齢別】	18～19歳(n=32)	88.0%	8.0%
	20～29歳(n=147)	72.9%	6.2%
	30～39歳(n=188)	73.4%	10.9%
	40～49歳(n=251)	74.0%	8.3%
	50～59歳(n=236)	67.9%	6.1%
	60～69歳(n=266)	64.5%	8.4%
	70～79歳(n=256)	49.8%	7.4%
【認識している性別・性的指向に関する区分】	性的マイリティ(n=73)	63.9%	7.8%
	性的マイリティ以外(n=1303)	66.9%	7.9%

エ 県や市町村が取組を進めることの必要性について（全体/属性別）



オ 施策等の必要性

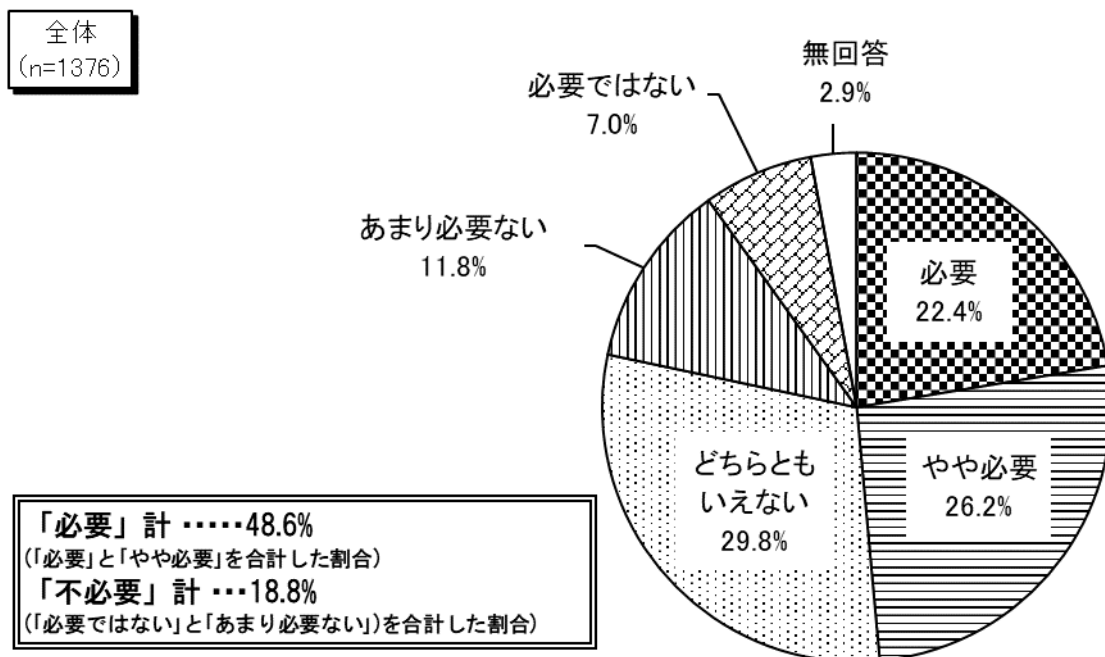
問 10 - 2 県や市町村による以下の取組や施策について、どの程度必要だと思いますか。（それぞれに○は1つだけ）



「必要」と「やや必要」を合計した割合が最も多かった取組や施策は、「③電話やSNSによる専門の相談窓口の設置」で74.9%となっている。次いで、「⑨学校での児童生徒への啓発や、性的マイノリティとされる児童生徒への支援」（73.9%）、「⑦行政職員や教職員等への研修・教育」（71.1%）が7割以上、「⑧企業における従業員の研修・教育への支援」（62.2%）、「②テレビ・新聞等のメディアや自治体ホームページ等を活用した情報発信」（60.9%）が約6割などとなっている。

問 10 - 2 県や市町村による以下の取組や施策について、どの程度必要だと思いますか。(それぞれに○は1つだけ)

① イベントや講座、研修会等の開催



【全体結果】

イベントや講座、研修会等の開催の必要性については、「必要」計は48.6%となっている。

【性別】

性別による大きな差は見られない。

【年齢別】

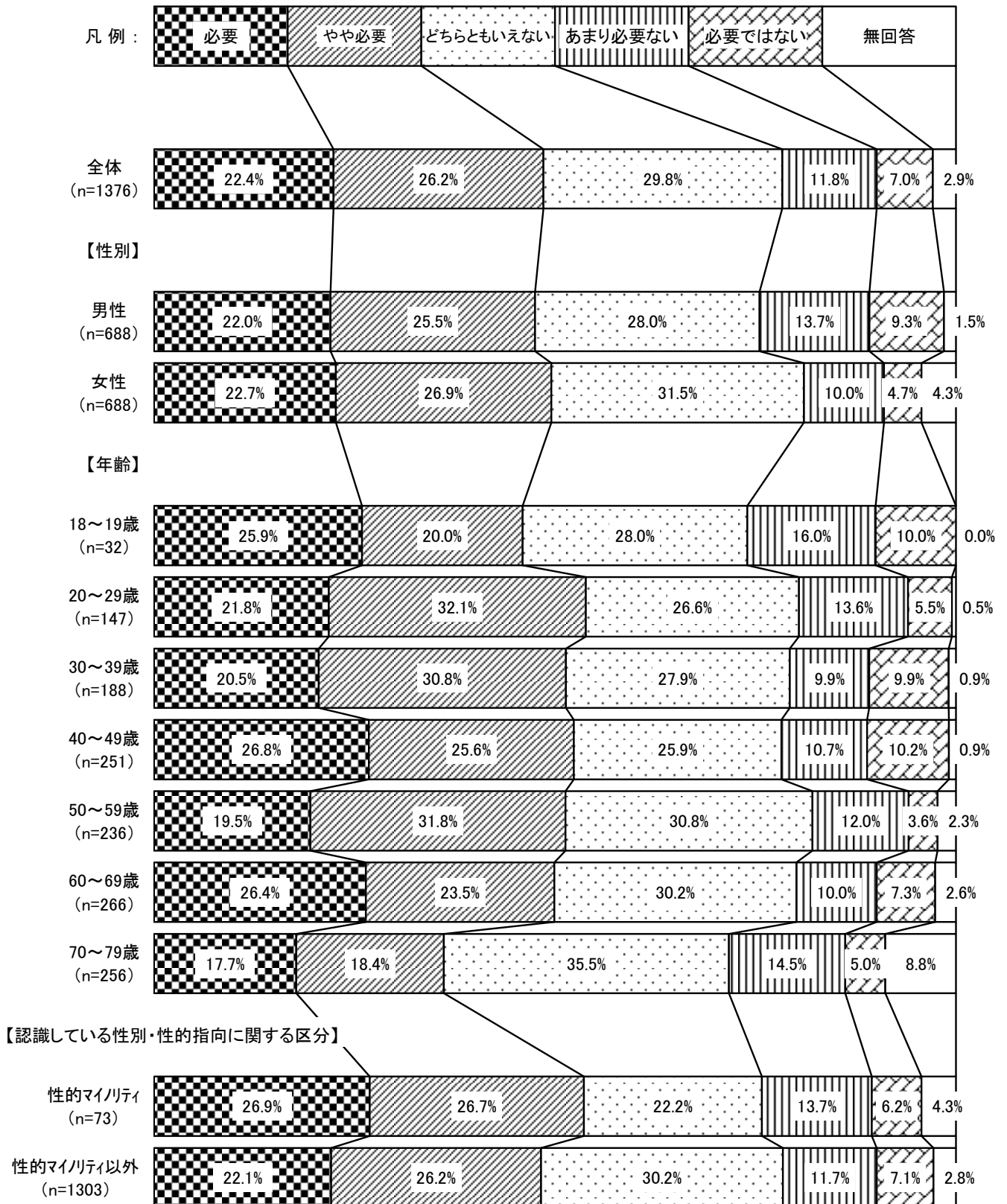
「必要」計は、20代(53.9%)で最も高く、70代(36.1%)で最も低くなっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「必要」計は、性的マイノリティの方で高く、53.6%となっている。

		「必要」計	「不必要」計
	全体 (n=1376)	48.6%	18.8%
【性別】	男性 (n=688)	47.5%	23.0%
	女性 (n=688)	49.6%	14.7%
【年齢別】	18～19歳 (n=32)	45.9%	26.0%
	20～29歳 (n=147)	53.9%	19.1%
	30～39歳 (n=188)	51.3%	19.8%
	40～49歳 (n=251)	52.4%	20.9%
	50～59歳 (n=236)	51.3%	15.6%
	60～69歳 (n=266)	49.9%	17.3%
	70～79歳 (n=256)	36.1%	19.5%
【認識している性別・性的指向に関する区分】	性的マイリテイ (n=73)	53.6%	19.9%
	性的マイリテイ以外 (n=1303)	48.3%	18.8%

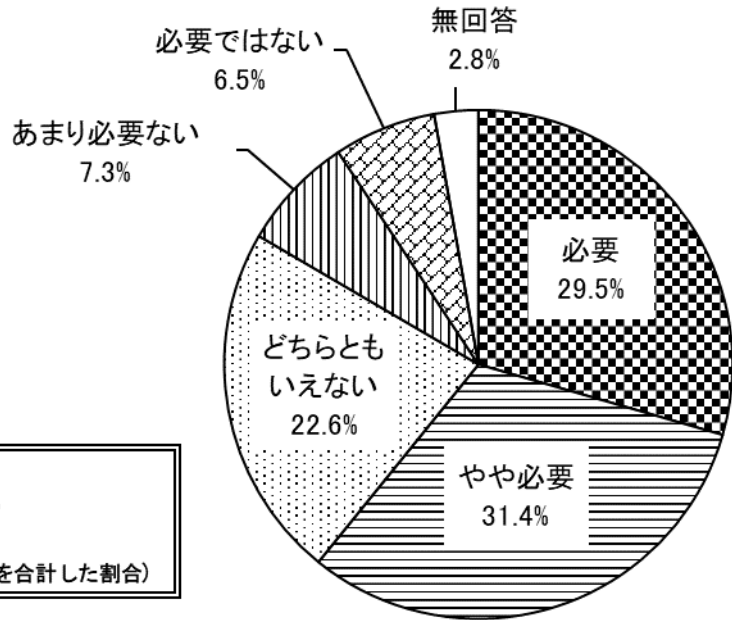
① イベントや講座、研修会等の開催（全体/属性別）



問 10 - 2 県や市町村による以下の取組や施策について、どの程度必要だと思いますか。(それぞれに○は1つだけ)

② テレビ・新聞等のメディアや自治体ホームページ等を活用した情報発信

全体
(n=1376)



「必要」計60.9%
(「必要」と「やや必要」を合計した割合)
「不必要」計 ...13.8%
(「必要ではない」と「あまり必要ない」を合計した割合)

【全体結果】

テレビ・新聞等のメディアや自治体ホームページ等を活用した情報発信の必要性については、「必要」計は60.9%となっている。

【性別】

「必要」計は、男性（58.6%）より女性（63.2%）で高くなっている。

【年齢別】

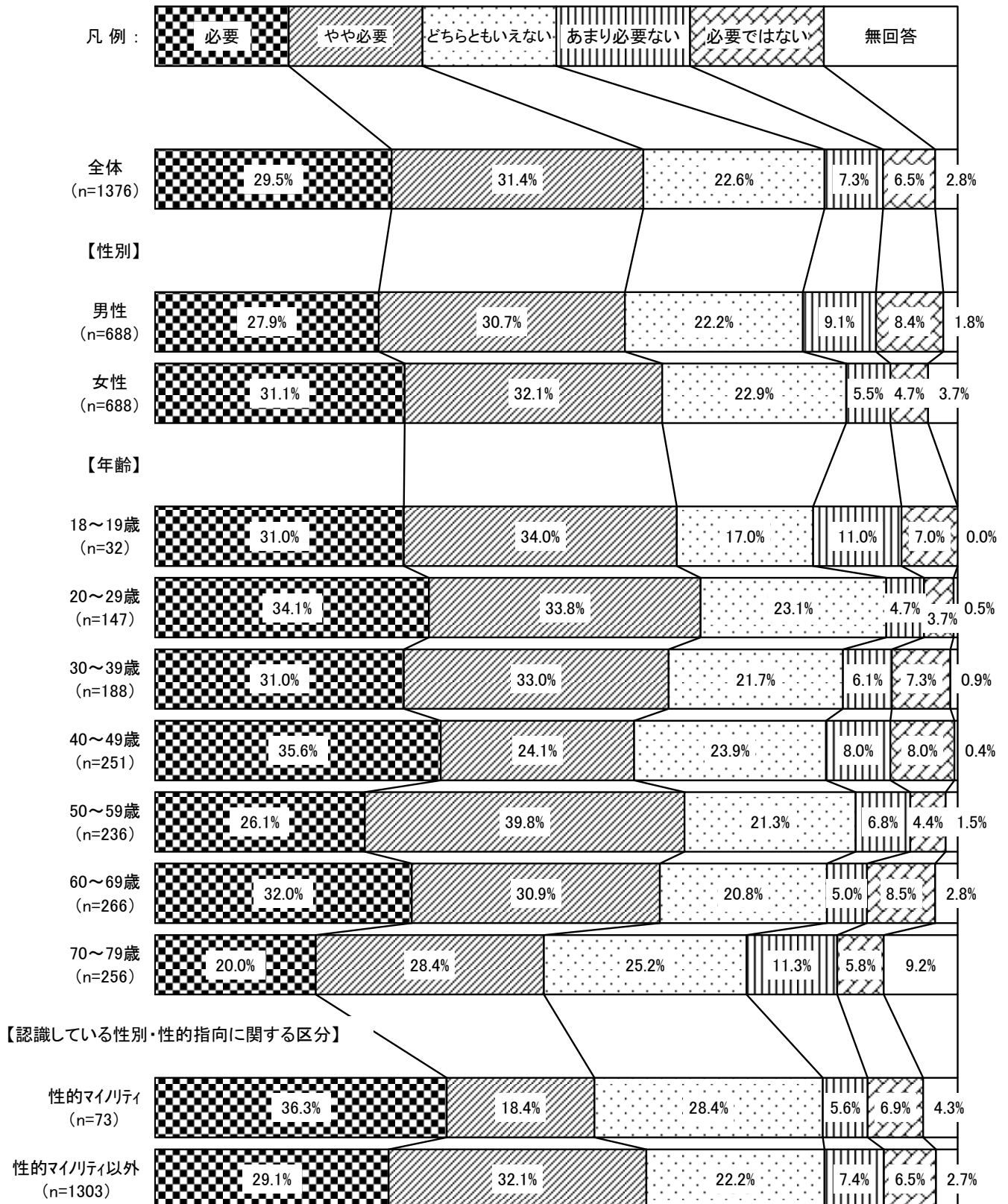
「必要」計は、20代（67.9%）で最も高く、70代（48.4%）で最も低くなっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「必要」計は、性的マイノリティの方で低く、54.7%となっている。

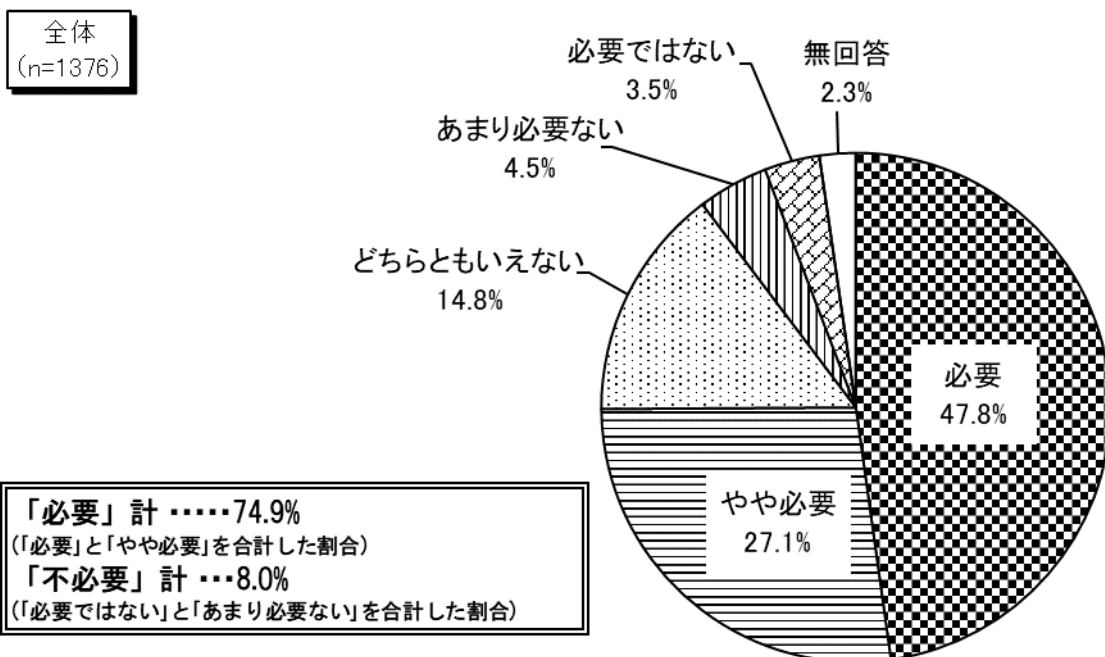
		「必要」計	「不必要」計
	全体(n=1376)	60.9%	13.8%
【性別】	男性(n=688)	58.6%	17.5%
	女性(n=688)	63.2%	10.2%
【年齢別】	18～19歳(n=32)	65.0%	18.0%
	20～29歳(n=147)	67.9%	8.4%
	30～39歳(n=188)	64.0%	13.4%
	40～49歳(n=251)	59.7%	16.0%
	50～59歳(n=236)	65.9%	11.2%
	60～69歳(n=266)	62.9%	13.5%
	70～79歳(n=256)	48.4%	17.1%
【認識している性別・性的指向に関する区分】	性的マイリティ(n=73)	54.7%	12.5%
	性的マイリティ以外(n=1303)	61.2%	13.9%

② メディアや自治体ホームページ等を活用した情報発信



問 10 - 2 県や市町村による以下の取組や施策について、どの程度必要だと思いますか。(それぞれに○は1つだけ)

③ 電話や SNS による専門の相談窓口の設置



【全体結果】

電話や SNS による専門の相談窓口の設置の必要性については、「必要」計は 74.9%となっている。

【性別】

「必要」計は、男性 (70.1%) より女性 (79.7%) で高くなっている。

【年齢別】

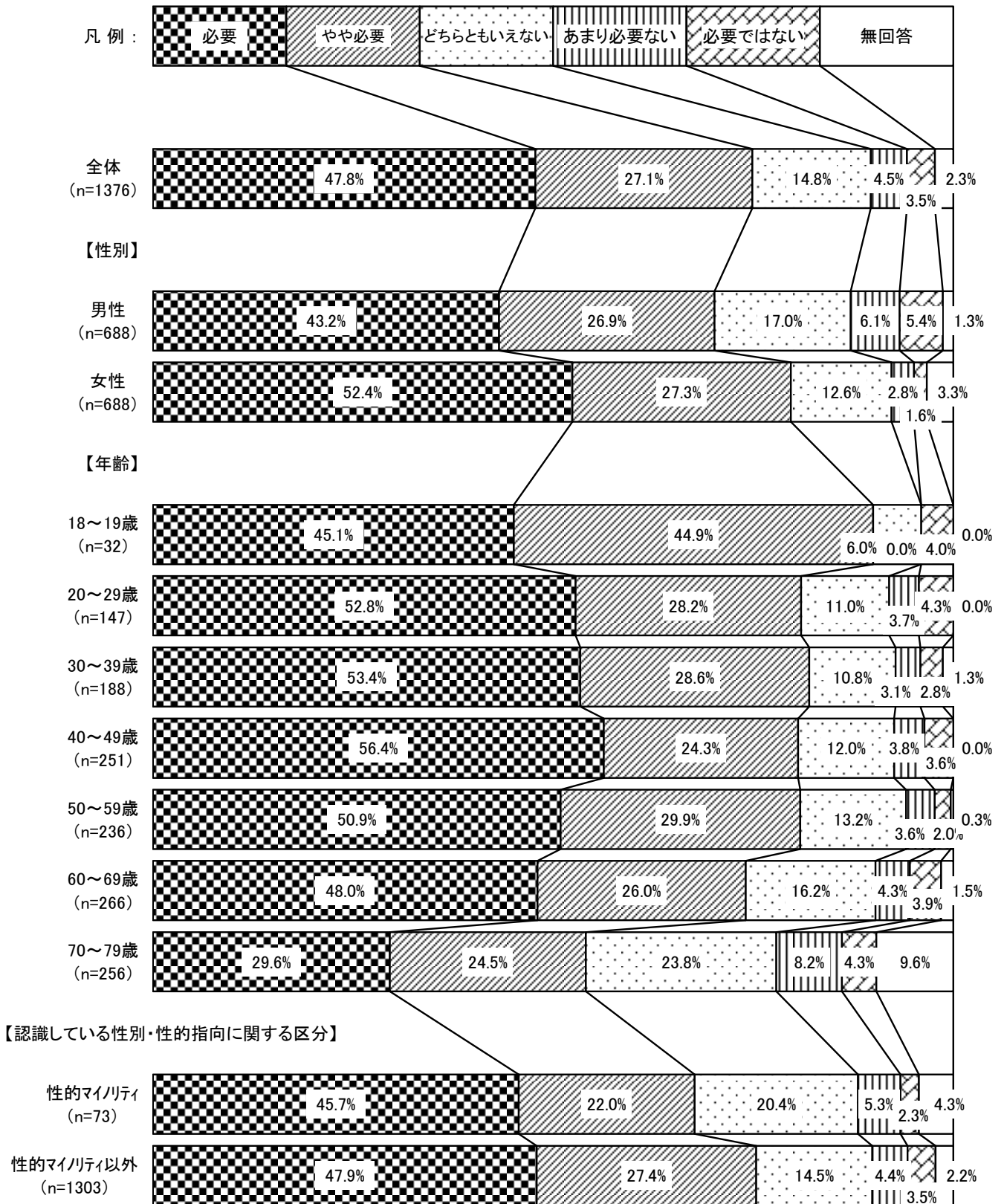
「必要」計は、20代 (90.0%) で最も高く、70代 (54.1%) で最も低くなっている。若い年代ほど必要と思っている傾向にある。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「必要」計は、性的マイノリティの方で低く、67.7%となっている。

		「必要」計	「不必要」計
	全体 (n=1376)	74.9%	8.0%
【性別】	男性 (n=688)	70.1%	11.5%
	女性 (n=688)	79.7%	4.4%
【年齢別】	18～19歳 (n=32)	90.0%	4.0%
	20～29歳 (n=147)	81.0%	8.0%
	30～39歳 (n=188)	82.0%	5.9%
	40～49歳 (n=251)	80.7%	7.4%
	50～59歳 (n=236)	80.8%	5.6%
	60～69歳 (n=266)	74.0%	8.2%
	70～79歳 (n=256)	54.1%	12.5%
【認識している性別・性的指向に関する区分】	性的マイノリティ (n=73)	67.7%	7.6%
	性的マイノリティ以外 (n=1303)	75.3%	7.9%

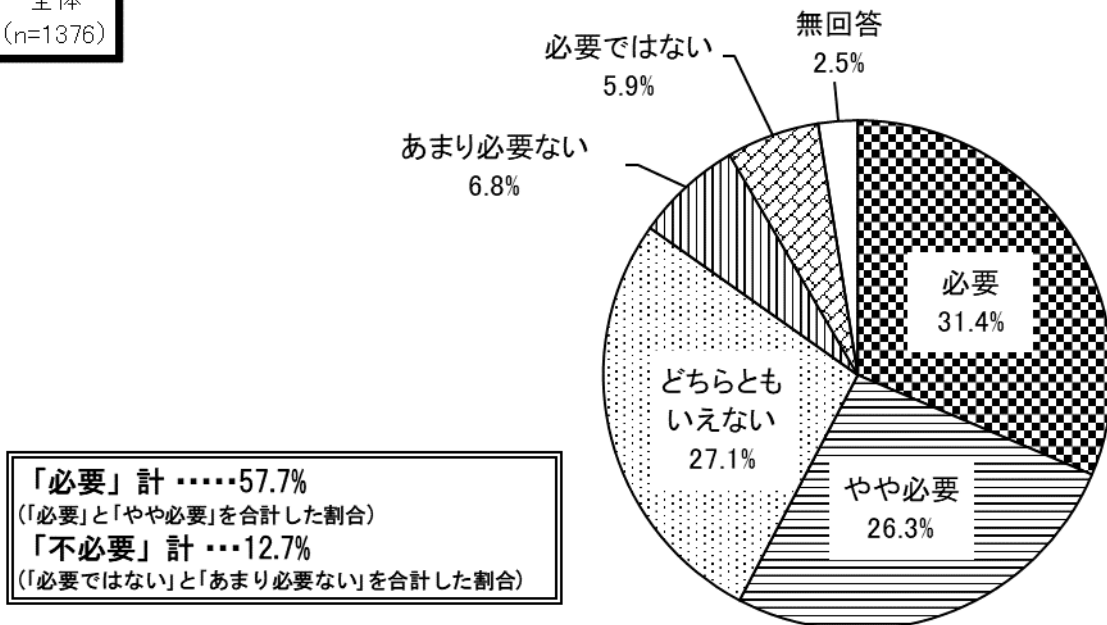
③ 電話やSNSによる専門の相談窓口の設置（全体/属性別）



問 10 - 2 県や市町村による以下の取組や施策について、どの程度必要だと思いますか。(それぞれに○は1つだけ)

④ 性的マイノリティの方同士が交流できる場や機会の提供

全体
(n=1376)



【全体結果】

性的マイノリティの方同士が交流できる場や機会の提供の必要性については、「必要」計は57.7%となっている。

【性別】

「必要」計は、男性（52.6%）より女性（62.7%）で高くなっている。

【年齢別】

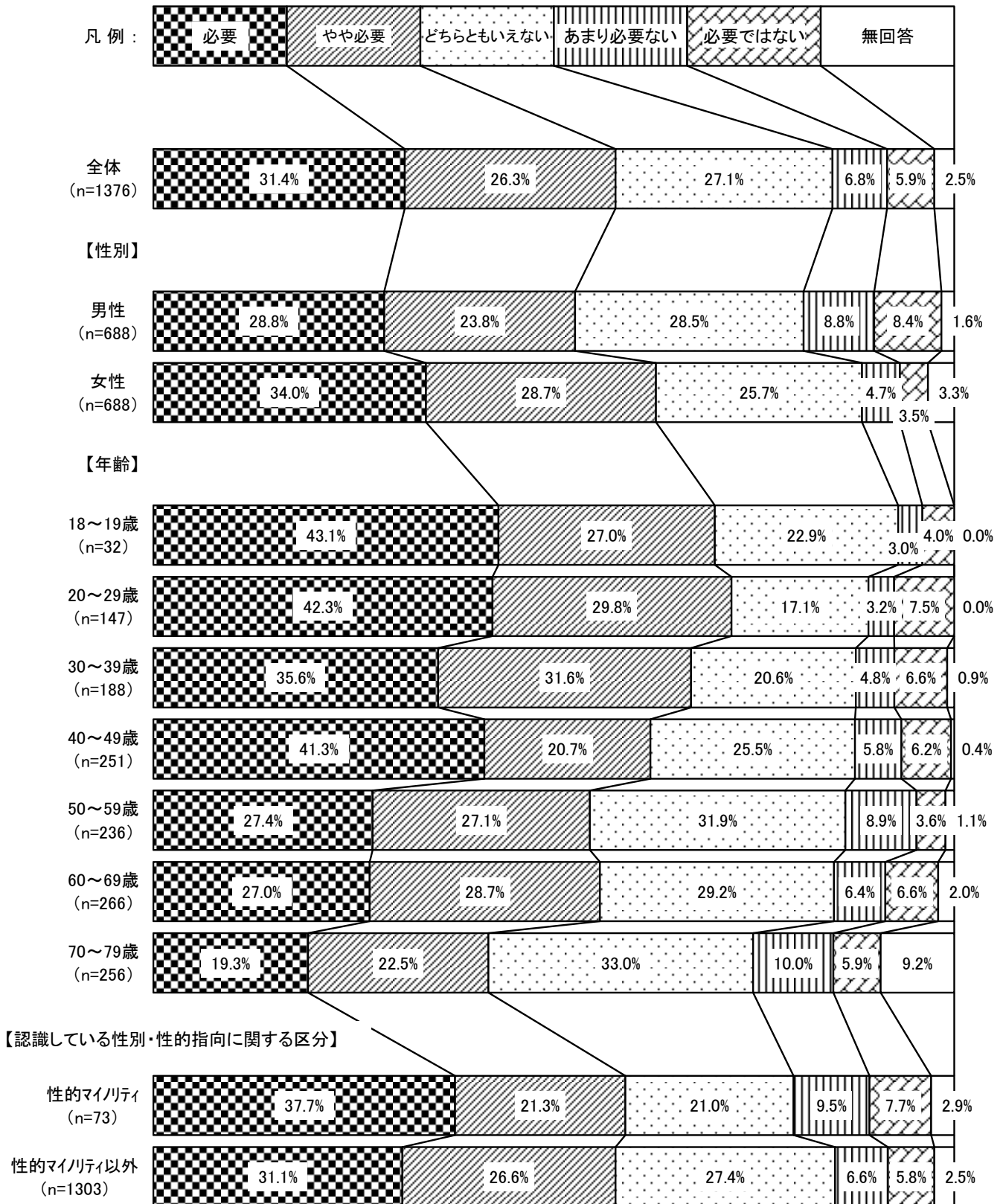
「必要」計は、20代（72.1%）で最も高く、70代（41.8%）で最も低くなっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「必要」計は、性的マイノリティの方でやや高く、59.0%となっている。

		「必要」計	「不必要」計
	全体 (n=1376)	57.7%	12.7%
【性別】	男性 (n=688)	52.6%	17.2%
	女性 (n=688)	62.7%	8.2%
【年齢別】	18～19歳 (n=32)	70.1%	7.0%
	20～29歳 (n=147)	72.1%	10.7%
	30～39歳 (n=188)	67.2%	11.4%
	40～49歳 (n=251)	62.0%	12.0%
	50～59歳 (n=236)	54.5%	12.5%
	60～69歳 (n=266)	55.7%	13.0%
	70～79歳 (n=256)	41.8%	15.9%
【認識している性別・性的指向に関する区分】	性的マイリティ (n=73)	59.0%	17.2%
	性的マイリティ以外 (n=1303)	57.7%	12.4%

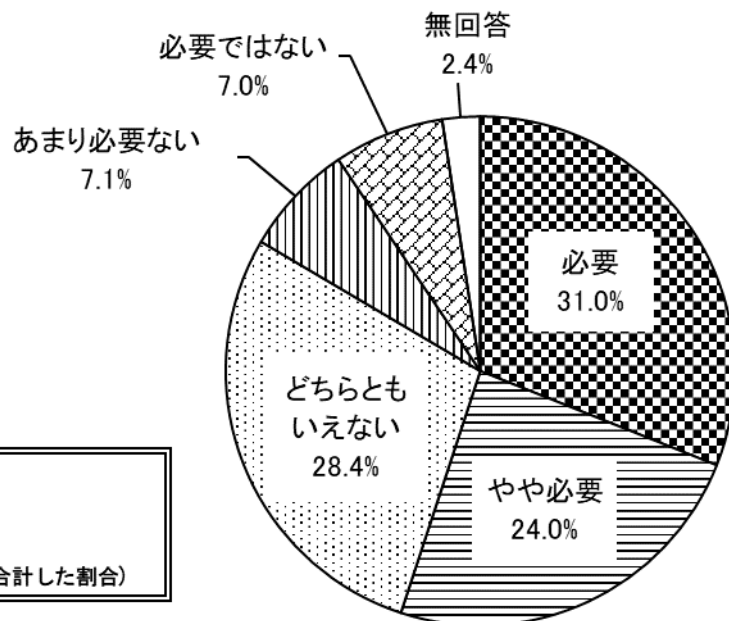
④ 性的マイノリティの方同士が交流できる場や機会の提供（全体/属性別）



問 10 - 2 県や市町村による以下の取組や施策について、どの程度必要だと思いますか。(それぞれに○は1つだけ)

⑤ 性の多様性の理解に関連する条例等の整備

全体
(n=1376)



「必要」計 ……55.0%
(「必要」と「やや必要」を合計した割合)
「不必要」計 ……14.1%
(「必要ではない」と「あまり必要ない」を合計した割合)

【全体結果】

性の多様性の理解に関連する条例等の整備の必要性については、「必要」計は 55.0%となっている。

【性別】

「必要」計は、男性 (48.9%) より女性 (61.1%) で高くなっている。

【年齢別】

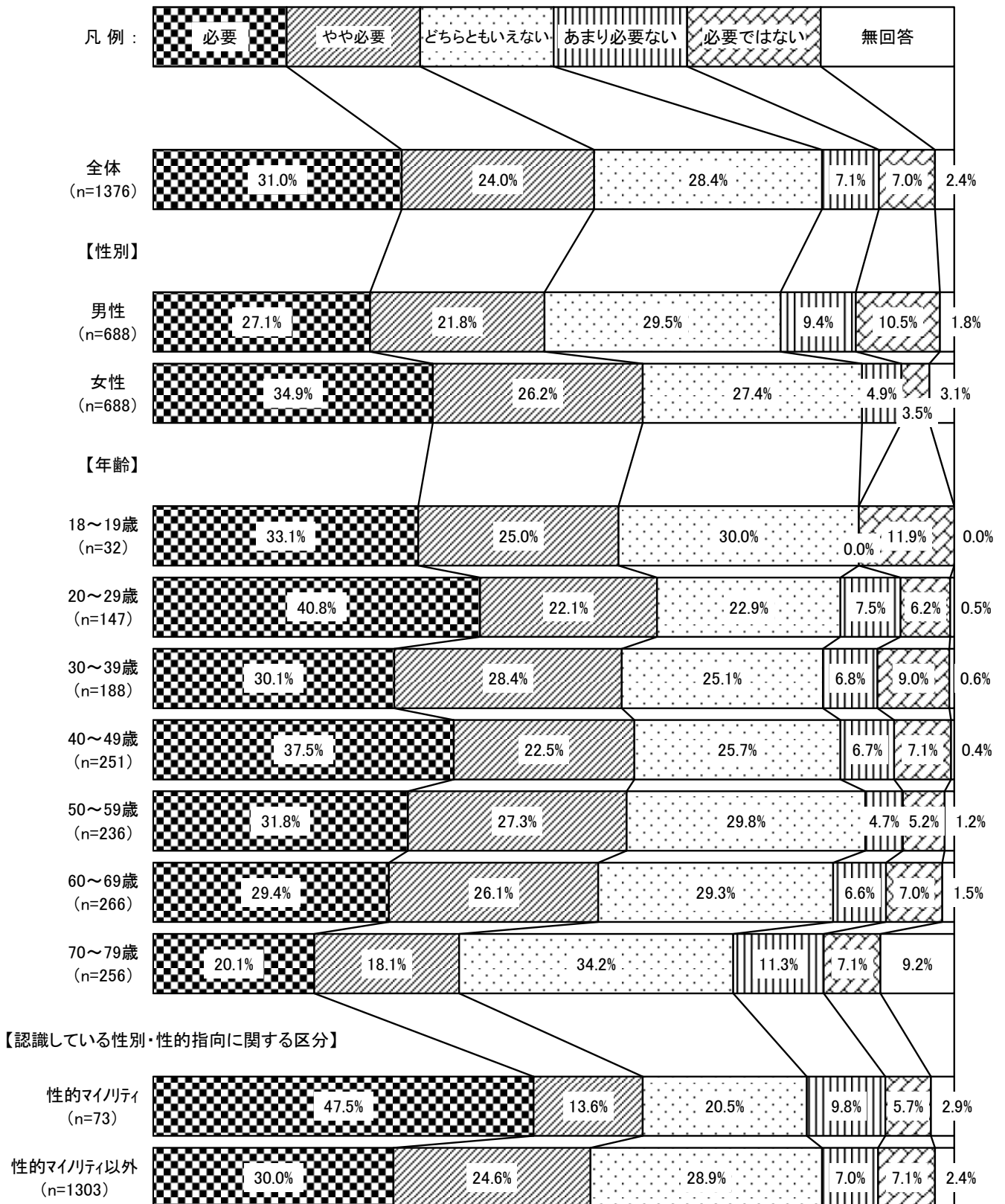
「必要」計は、20代 (62.9%) で最も高く、70代 (38.2%) で最も低くなっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「必要」計は、性的マイノリティの方で高く、61.1%となっている。

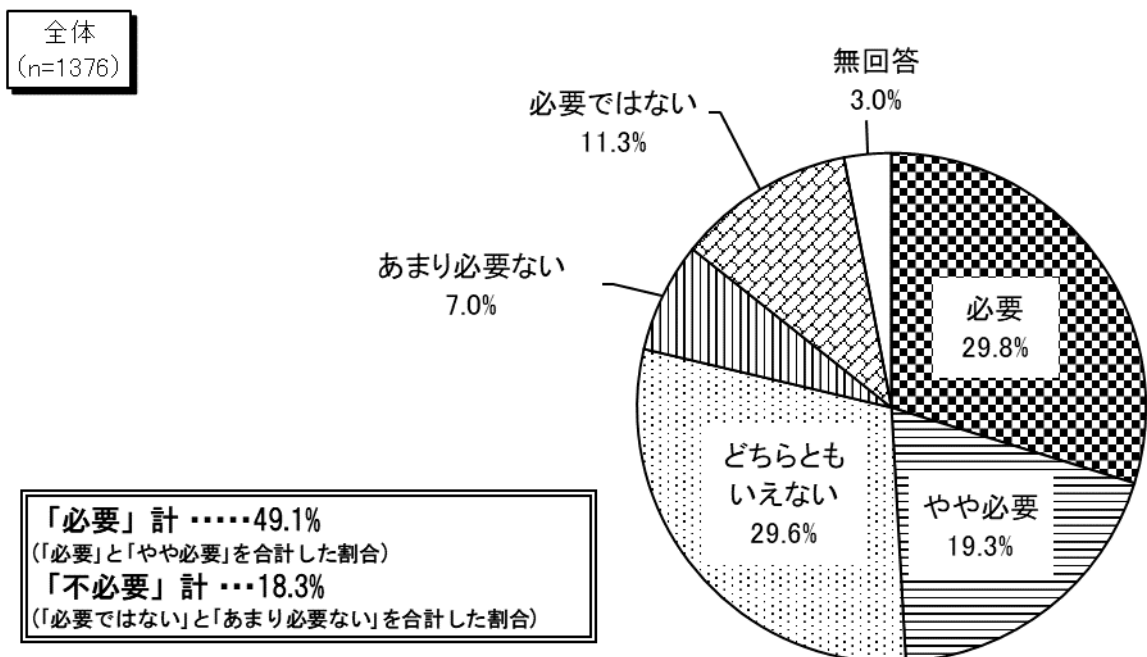
		「必要」計	「不必要」計
	全体(n=1376)	55.0%	14.1%
【性別】	男性(n=688)	48.9%	19.9%
	女性(n=688)	61.1%	8.4%
【年齢別】	18～19歳(n=32)	58.1%	11.9%
	20～29歳(n=147)	62.9%	13.7%
	30～39歳(n=188)	58.5%	15.8%
	40～49歳(n=251)	60.0%	13.8%
	50～59歳(n=236)	59.1%	9.9%
	60～69歳(n=266)	55.5%	13.6%
	70～79歳(n=256)	38.2%	18.4%
【認識している性別・性的指向に関する区分】	性的マイリテイ(n=73)	61.1%	15.5%
	性的マイリテイ以外(n=1303)	54.6%	14.1%

⑤ 性の多様性の理解に関連する条例等の整備（全体/属性別）



問 10 - 2 県や市町村による以下の取組や施策について、どの程度必要だと思いますか。(それぞれに○は1つだけ)

⑥ 申請書類等の性別欄に男性・女性以外の選択肢を追加



【全体結果】

申請書類等の性別欄に男性・女性以外の選択肢を追加することの必要性については、「必要」計は49.1%となっている。

【性別】

「必要」計は、男性（44.0%）より女性（54.2%）で高くなっている。

【年齢別】

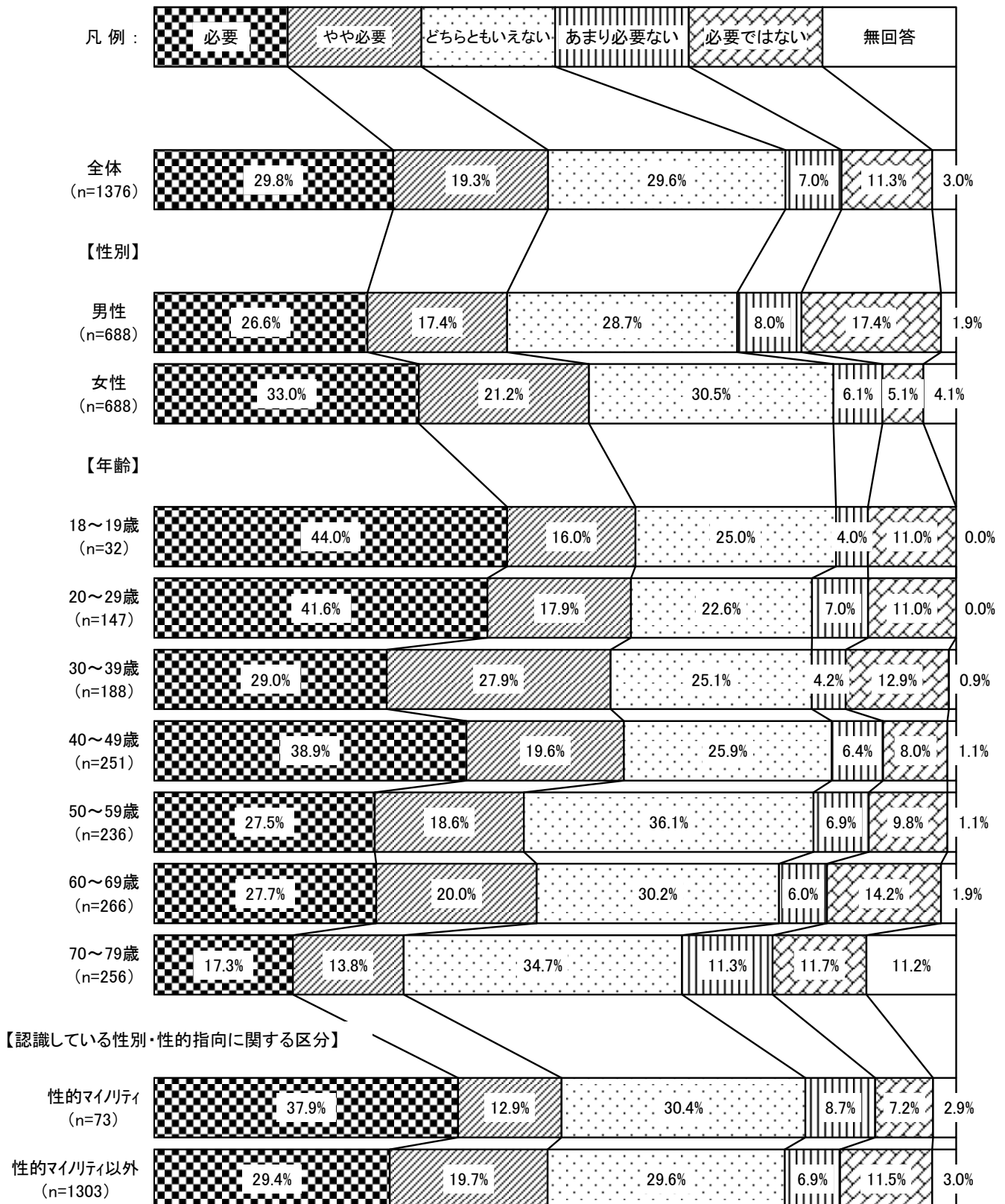
「必要」計は、50代以上で5割未満と低く、特に70代では31.1%と最も低くなっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

いずれの区分でも、約半数が必要としている。

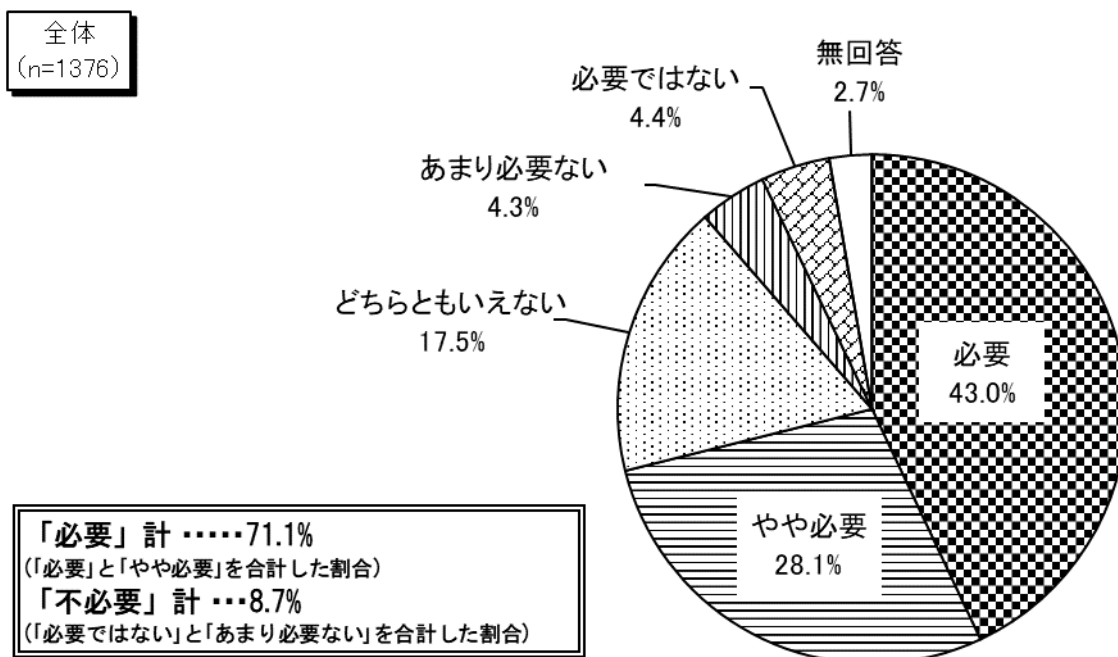
		「必要」計	「不必要」計
	全体(n=1376)	49.1%	18.3%
【性別】	男性(n=688)	44.0%	25.4%
	女性(n=688)	54.2%	11.2%
【年齢別】	18～19歳(n=32)	60.0%	15.0%
	20～29歳(n=147)	59.5%	18.0%
	30～39歳(n=188)	56.9%	17.1%
	40～49歳(n=251)	58.5%	14.4%
	50～59歳(n=236)	46.1%	16.7%
	60～69歳(n=266)	47.7%	20.2%
	70～79歳(n=256)	31.1%	23.0%
【認識している性別・性的指向に関する区分】	性的マイリティ(n=73)	50.8%	15.9%
	性的マイリティ以外(n=1303)	49.1%	18.4%

⑥ 申請書類等の性別欄に男性・女性以外の選択肢を追加（全体/属性別）



問 10 - 2 県や市町村による以下の取組や施策について、どの程度必要だと思いますか。(それぞれに○は1つだけ)

⑦ 行政職員や教職員等への研修・教育



【全体結果】

行政職員や教職員等への研修・教育の必要性については、「必要」計は 71.1%となっている。

【性別】

「必要」計は、男性 (67.8%) より女性 (74.2%) で高くなっている。

【年齢別】

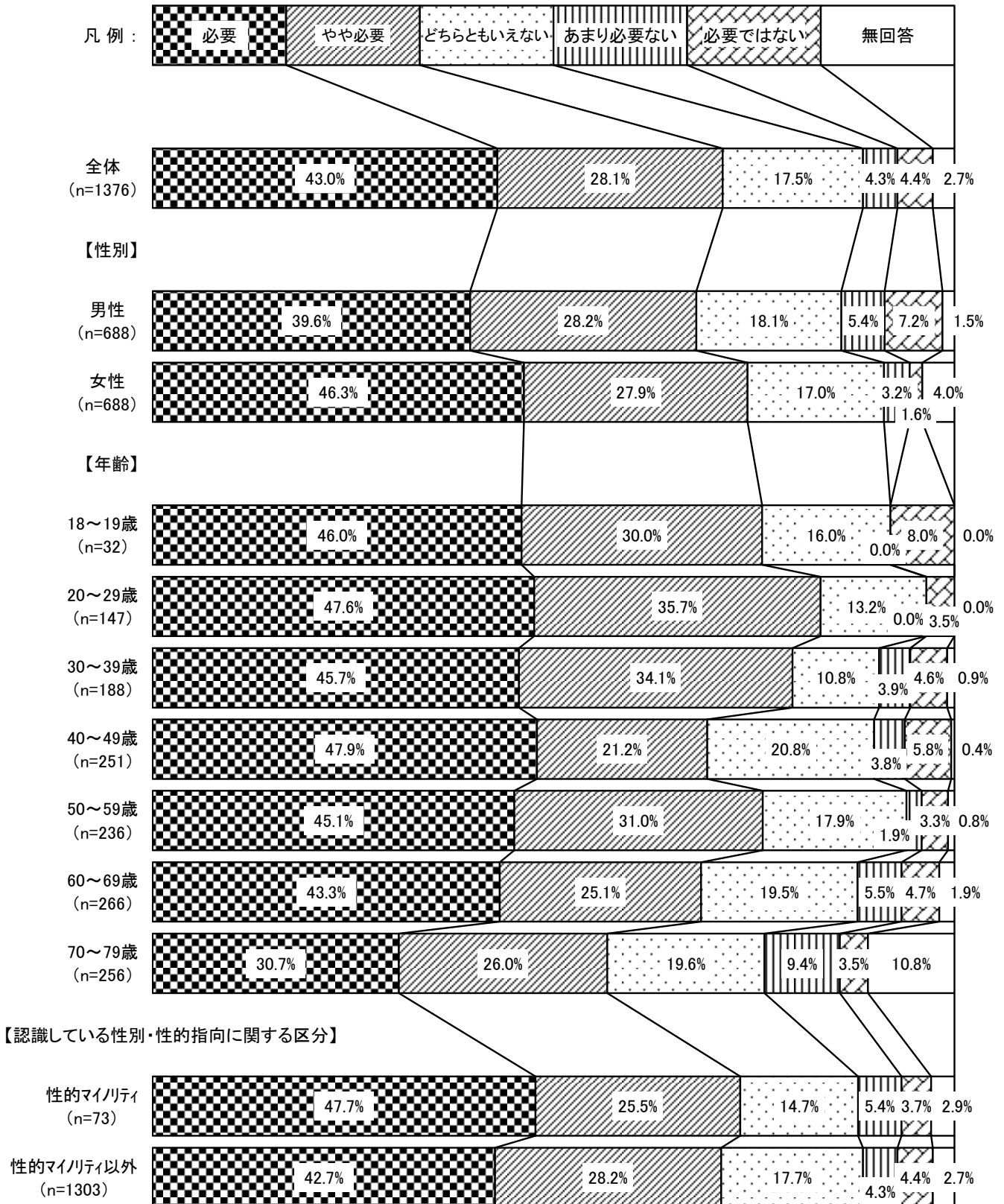
「必要」計は、20代 (83.3%) で最も高く、70代 (56.7%) で最も低くなっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「必要」計は、性的マイノリティの方でやや高く、73.2%となっている。

		「必要」計	「不必要」計
	全体(n=1376)	71.1%	8.7%
【性別】	男性(n=688)	67.8%	12.6%
	女性(n=688)	74.2%	4.8%
【年齢別】	18～19歳(n=32)	76.0%	8.0%
	20～29歳(n=147)	83.3%	3.5%
	30～39歳(n=188)	79.8%	8.5%
	40～49歳(n=251)	69.1%	9.6%
	50～59歳(n=236)	76.1%	5.2%
	60～69歳(n=266)	68.4%	10.2%
	70～79歳(n=256)	56.7%	12.9%
【認識している性別・性的指向に関する区分】	性的マイリティ(n=73)	73.2%	9.1%
	性的マイリティ以外(n=1303)	70.9%	8.7%

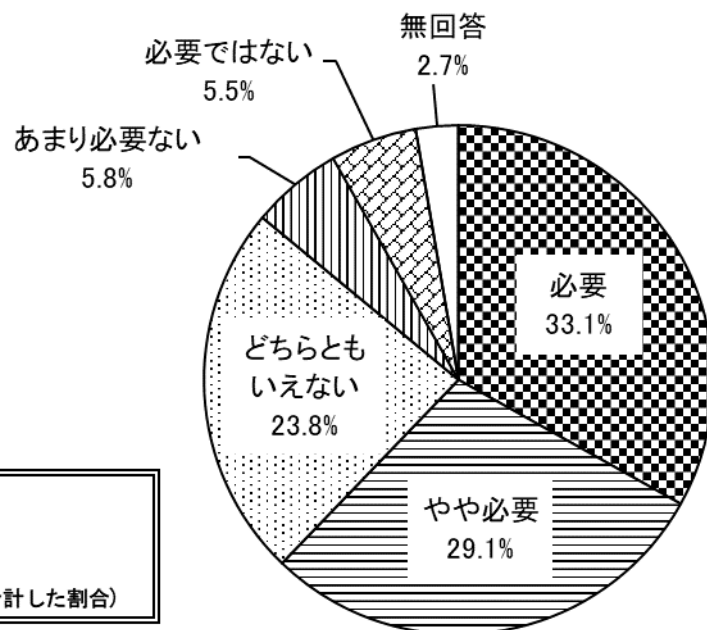
⑦ 行政職員や教職員等への研修・教育（全体/属性別）



問 10 - 2 県や市町村による以下の取組や施策について、どの程度必要だと思いますか。(それぞれに○は1つだけ)

⑧ 企業における従業員の研修・教育への支援

全体
(n=1376)



「必要」計62.2%
(「必要」と「やや必要」を合計した割合)
「不必要」計 ...11.3%
(「必要ではない」と「あまり必要ない」を合計した割合)

【全体結果】

企業における従業員の研修・教育への支援の必要性については、「必要」計は 62.2%となっている。

【性別】

「必要」計は、男性 (57.6%) より女性 (66.7%) で高くなっている。

【年齢別】

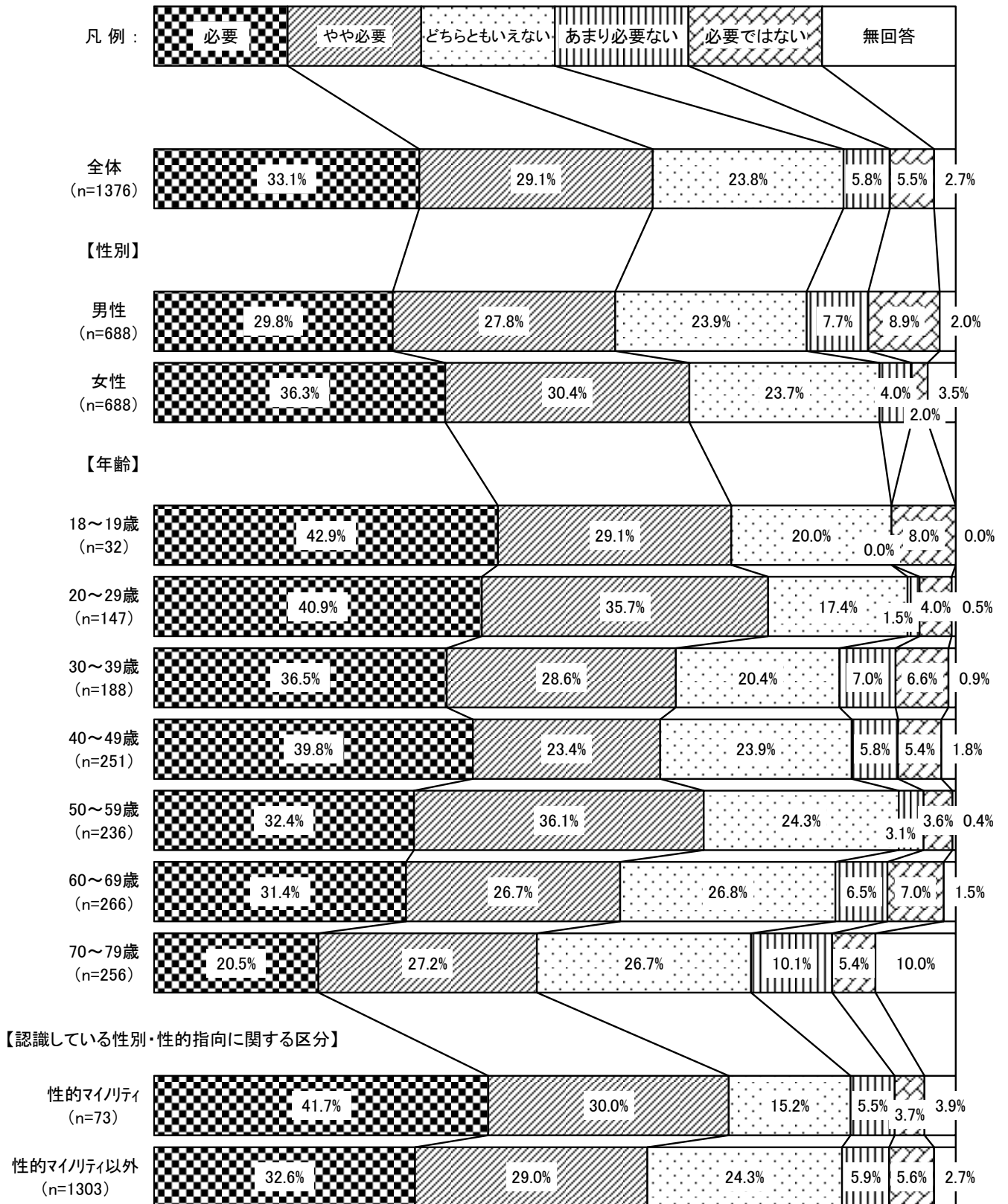
「必要」計は、20代 (76.6%) で最も高く、70代 (47.7%) で最も低くなっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「必要」計は、性的マイノリティの方で高く、71.7%となっている。

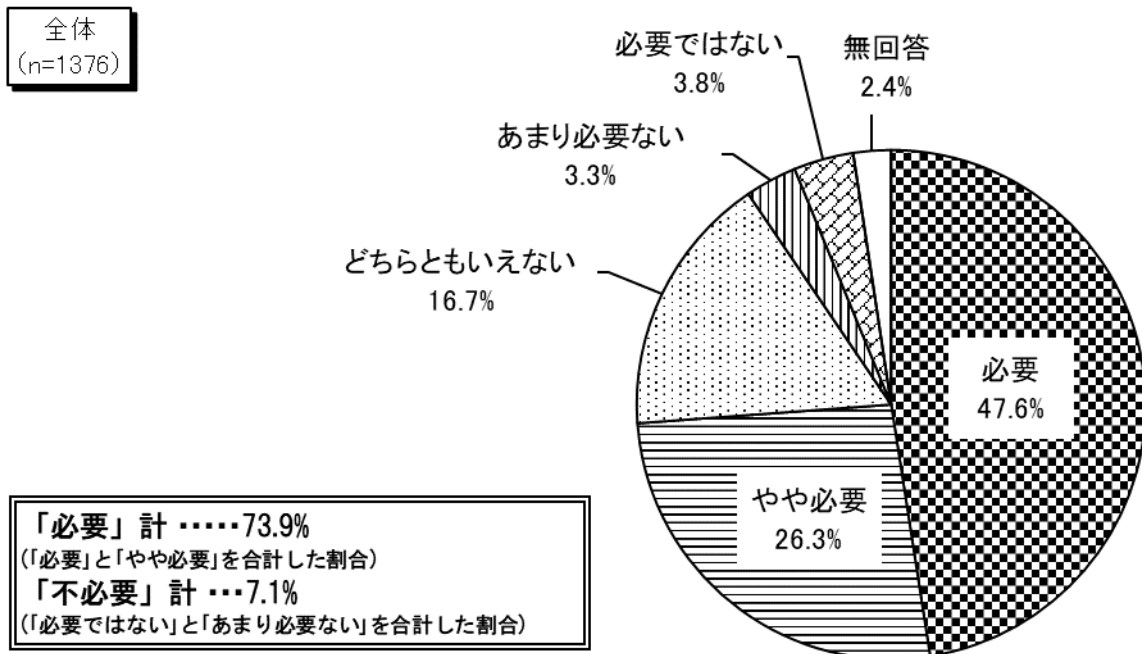
		「必要」計	「不必要」計
	全体(n=1376)	62.2%	11.3%
【性別】	男性(n=688)	57.6%	16.6%
	女性(n=688)	66.7%	6.0%
【年齢別】	18～19歳(n=32)	72.0%	8.0%
	20～29歳(n=147)	76.6%	5.5%
	30～39歳(n=188)	65.1%	13.6%
	40～49歳(n=251)	63.2%	11.2%
	50～59歳(n=236)	68.5%	6.7%
	60～69歳(n=266)	58.1%	13.5%
	70～79歳(n=256)	47.7%	15.5%
【認識している性別・性的指向に関する区分】	性的マイリテイ(n=73)	71.7%	9.2%
	性的マイリテイ以外(n=1303)	61.6%	11.5%

⑧ 企業における従業員の研修・教育への支援（全体/属性別）



問 10 - 2 県や市町村による以下の取組や施策について、どの程度必要だと思いますか。(それぞれに○は1つだけ)

⑨ 学校での児童生徒への啓発や、性的マイノリティとされる児童生徒への支援



【全体結果】

学校での児童生徒への啓発、支援の必要性については、「必要」計は73.9%となっている。

【性別】

「必要」計は、男性（70.3%）より女性（77.4%）で高くなっている。

【年齢別】

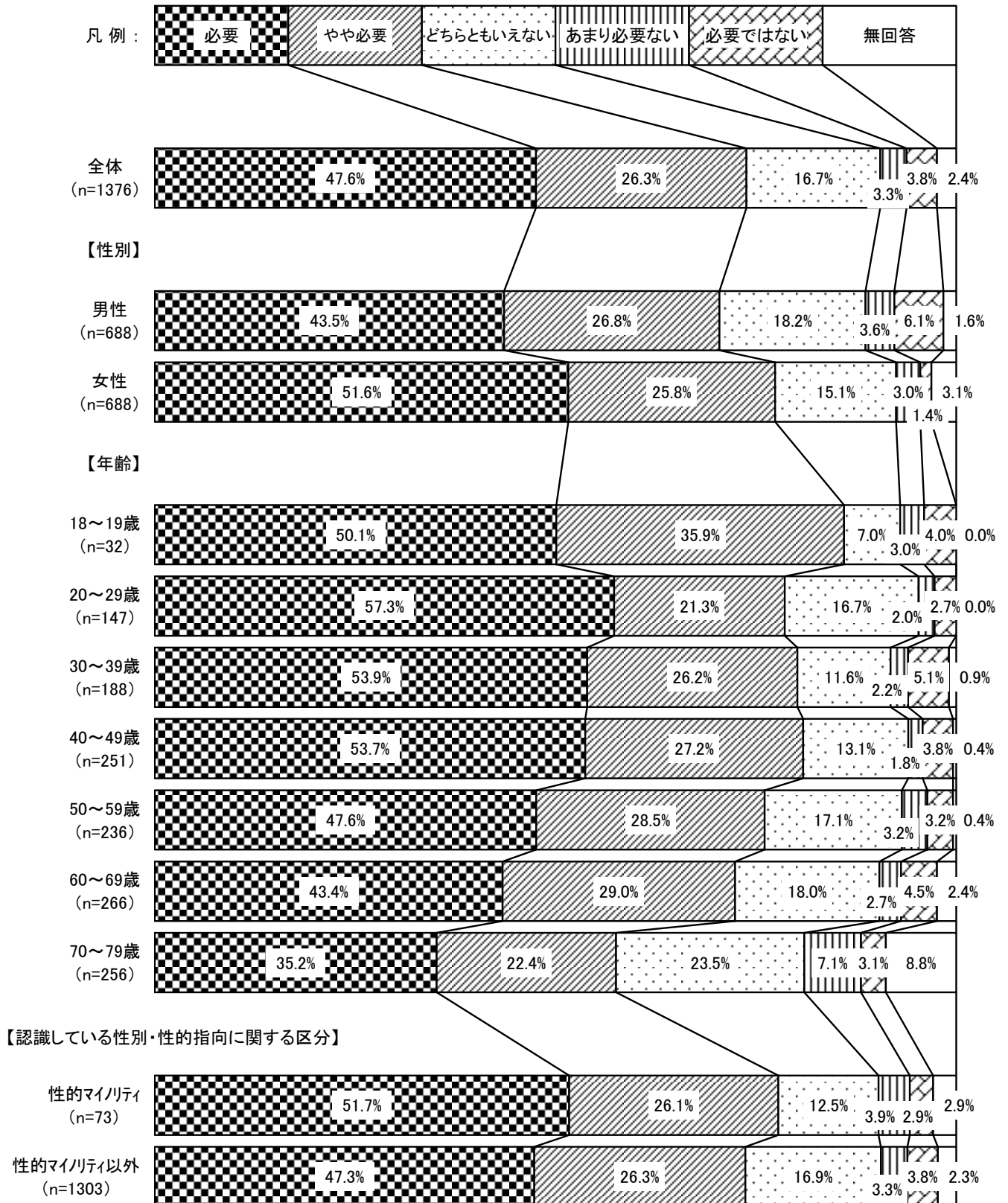
「必要」計は、10代（86.0%）で最も高く、70代（57.6%）で最も低くなっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「必要」計は、性的マイノリティの方でやや高く、77.8%となっている。

		「必要」計	「不必要」計
	全体 (n=1376)	73.9%	7.1%
【性別】	男性 (n=688)	70.3%	9.7%
	女性 (n=688)	77.4%	4.4%
【年齢別】	18～19歳 (n=32)	86.0%	7.0%
	20～29歳 (n=147)	78.6%	4.7%
	30～39歳 (n=188)	80.1%	7.3%
	40～49歳 (n=251)	80.9%	5.6%
	50～59歳 (n=236)	76.1%	6.4%
	60～69歳 (n=266)	72.4%	7.2%
	70～79歳 (n=256)	57.6%	10.2%
【認識している性別・性的指向に関する区分】	性的マイノリティ (n=73)	77.8%	6.8%
	性的マイノリティ以外 (n=1303)	73.6%	7.1%

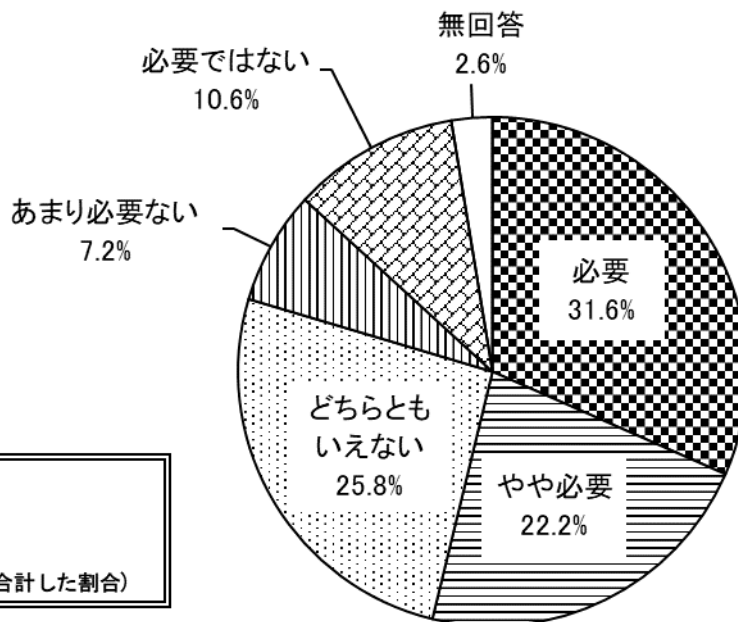
⑨ 学校での児童生徒への啓発、支援（全体/属性別）



問 10 - 2 県や市町村による以下の取組や施策について、どの程度必要だと思いますか。(それぞれに○は1つだけ)

⑩ 男女別の区分に加え、男女の区別なく使用できる共用トイレや更衣室等の整備

全体
(n=1376)



「必要」計53.8%
(「必要」と「やや必要」を合計した割合)
「不必要」計 ...17.8%
(「必要ではない」と「あまり必要ない」を合計した割合)

【全体結果】

男女の区別なく使用できる共用トイレや更衣室等の整備の必要性については、「必要」計は53.8%となっている。

【性別】

「必要」計は、男性（49.0%）より女性（58.7%）で高くなっている。

【年齢別】

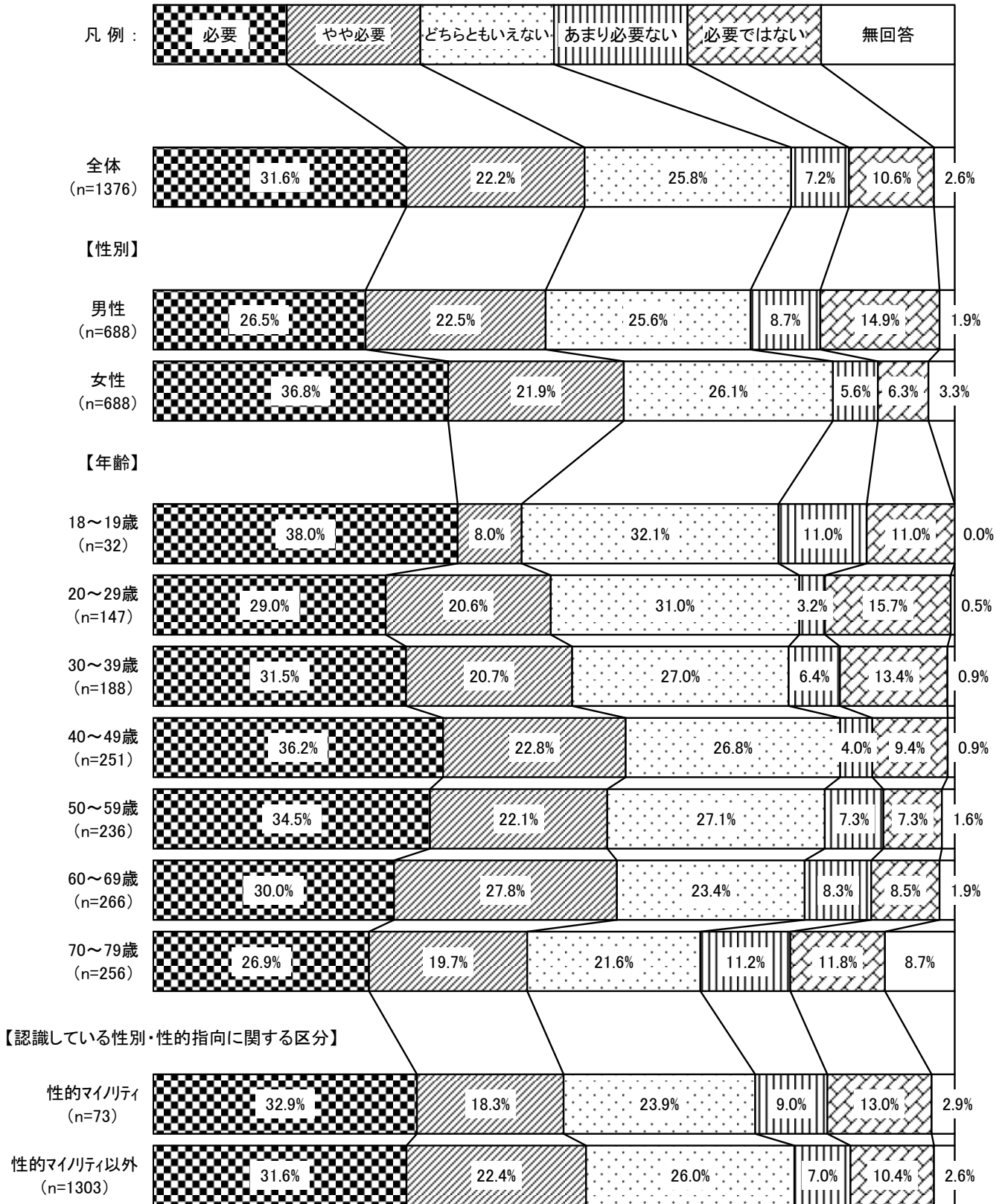
「必要」計は、40代で59.0%と最も高くなっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「必要」計は、性的マイノリティの方でやや低く、51.2%となっている。

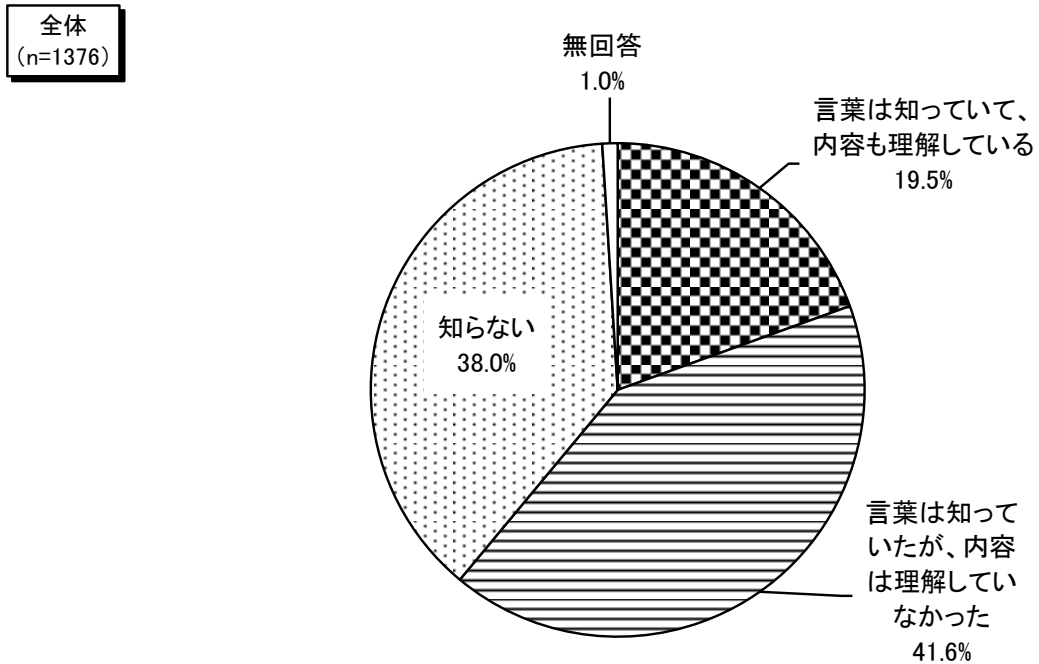
		「必要」計	「不必要」計
	全体 (n=1376)	53.8%	17.8%
【性別】	男性 (n=688)	49.0%	23.6%
	女性 (n=688)	58.7%	11.9%
【年齢別】	18～19歳 (n=32)	46.0%	22.0%
	20～29歳 (n=147)	49.6%	18.9%
	30～39歳 (n=188)	52.2%	19.8%
	40～49歳 (n=251)	59.0%	13.4%
	50～59歳 (n=236)	56.6%	14.6%
	60～69歳 (n=266)	57.8%	16.8%
	70～79歳 (n=256)	46.6%	23.0%
【認識している性別・性的指向に関する区分】	性的マイリテイ (n=73)	51.2%	22.0%
	性的マイリテイ以外 (n=1303)	54.0%	17.4%

⑩ 男女の区別なく使用できる共用トイレや更衣室等の整備（全体/属性別）



(4) パートナーシップ宣誓制度等について
ア パートナーシップ宣誓制度の認知度

問 11 - 1 あなたは、パートナーシップ宣誓制度を知っていましたか。
(○は1つだけ)



【全体結果】

パートナーシップ宣誓制度の認知度については、「言葉は知っていて、内容も理解している」が 19.5%、「言葉は知っているが、内容は理解していない」が 41.6%、「言葉を知らない」が 38.0%となっている。

【性別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と「言葉は知っているが、内容は理解していない」を合わせた言葉を知っている人の割合は、男性（54.9%）より女性（67.2%）で高くなっている。

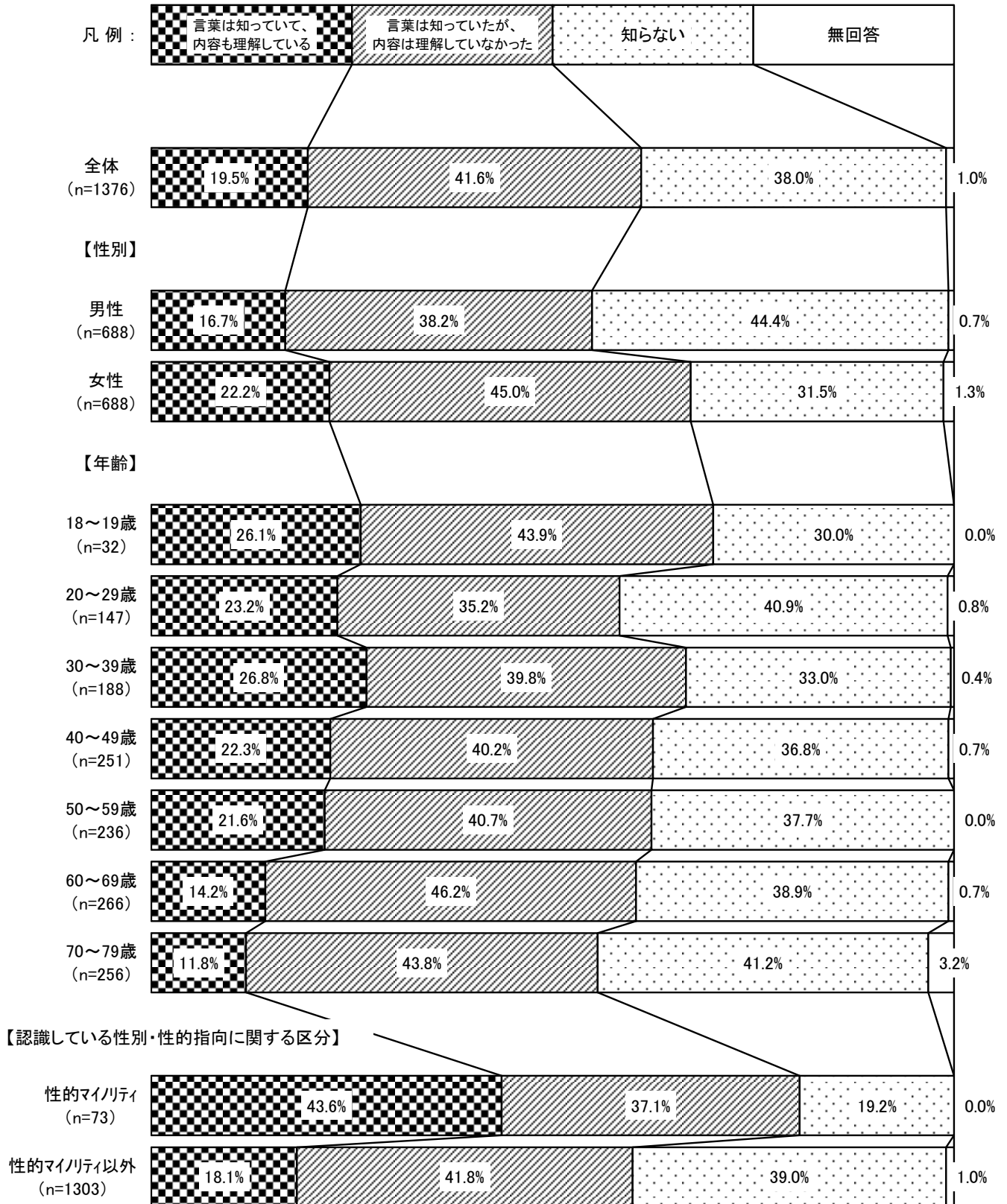
【年齢別】

「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、60歳未満で2割台となっている。60代以上では1割台と低い。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

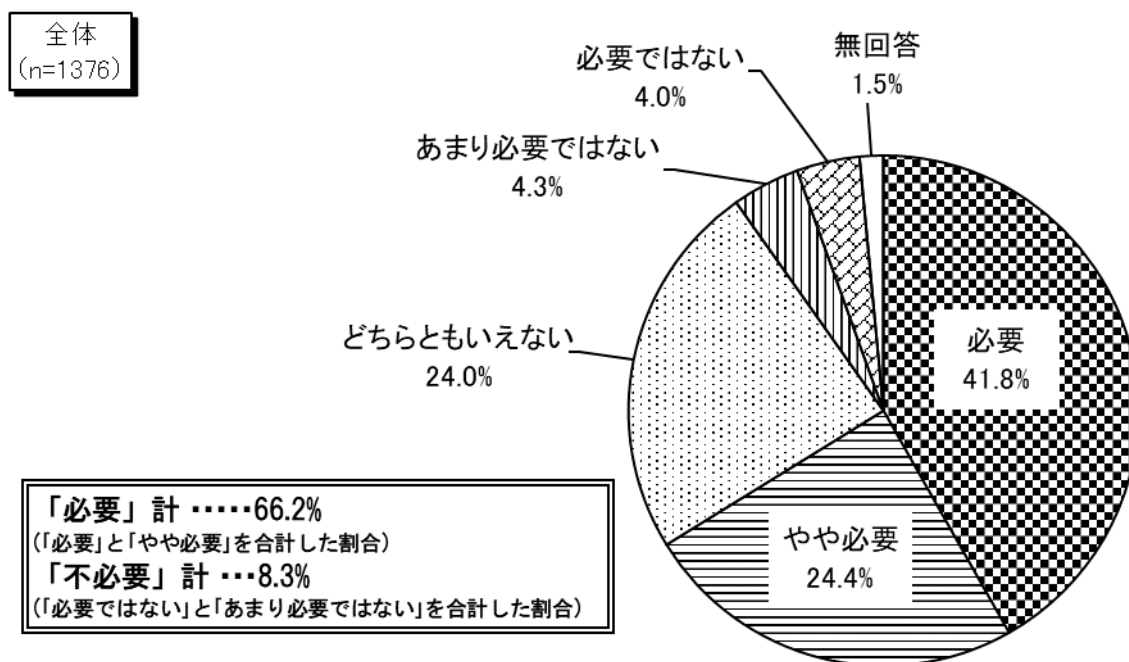
「言葉は知っていて、内容も理解している」と答えた割合は、性的マイノリティの方で高く、4割以上となっている。

ア パートナーシップ宣誓制度の認知度（全体/属性別）



イ パートナーシップ宣誓制度導入に対する考え方

問 11 - 2 県や市町村がパートナーシップ宣誓制度を導入することについて、あなたの考えを教えてください。
(○は1つだけ)



【全体結果】

県や市町村がパートナーシップ宣誓制度を導入することについては、「必要」計は 66.2%となっている。

【性別】

「必要」計は、男性 (61.0%) より女性 (71.3%) で高くなっている。

【年齢別】

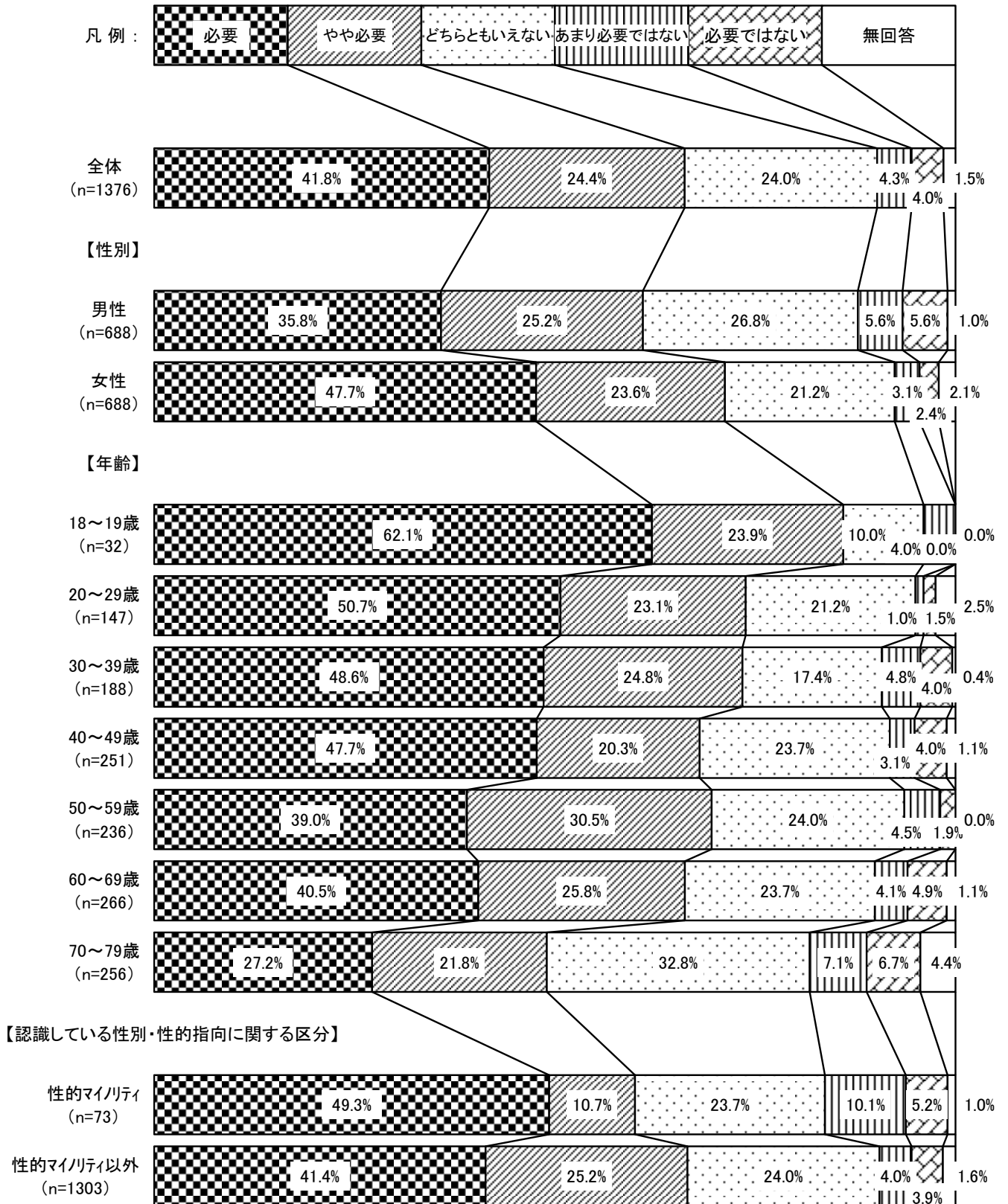
「必要」計は、10代 (86.0%) で最も高く、70代 (49.0%) で最も低くなっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「必要」計は、性的マイノリティの方で低く、60.0%となっている。

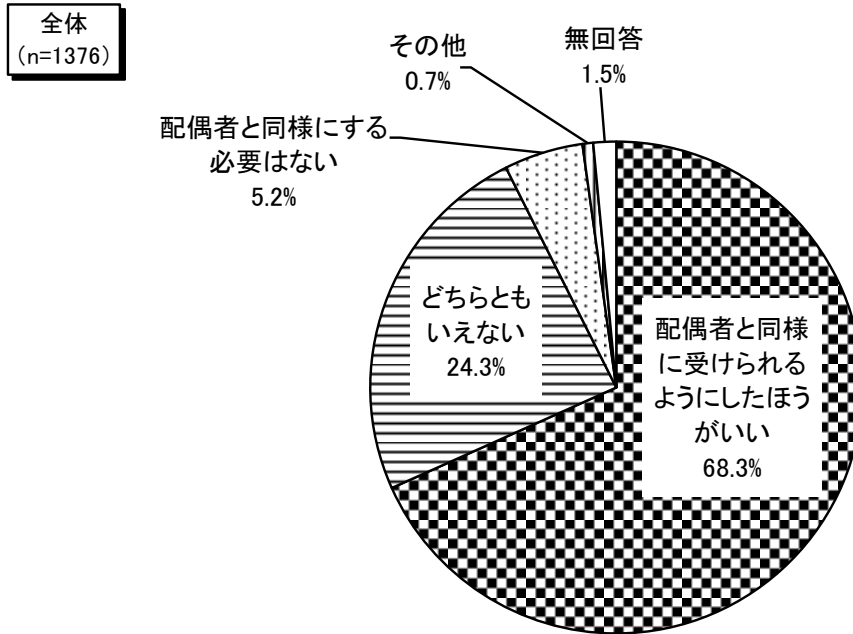
		「必要」計	「不必要」計
	全体 (n=1376)	66.2%	8.3%
【性別】	男性 (n=688)	61.0%	11.2%
	女性 (n=688)	71.3%	5.5%
【年齢別】	18～19歳 (n=32)	86.0%	4.0%
	20～29歳 (n=147)	73.8%	2.5%
	30～39歳 (n=188)	73.4%	8.8%
	40～49歳 (n=251)	68.0%	7.1%
	50～59歳 (n=236)	69.5%	6.4%
	60～69歳 (n=266)	66.3%	9.0%
	70～79歳 (n=256)	49.0%	13.8%
【認識している性別・性的指向に関する区分】	性的マイリテイ (n=73)	60.0%	15.3%
	性的マイリテイ以外 (n=1303)	66.6%	7.9%

イ パートナーシップ宣誓制度導入に対する考え方（全体/属性別）



ウ パートナーシップ宣誓制度における公的サービスの利用についての考え方

問 11 - 3 公営住宅の入居要件や公立病院での手術同意等、公的サービスの利用にあたり、パートナーシップ宣誓制度の証明を受けた方を「配偶者と同様」にサービスを受けられるようにすることについて、あなたの考えを教えてください。(〇は1つだけ)



【全体結果】

公的サービスの利用にあたり、パートナーシップ宣誓制度の証明を受けた方を「配偶者と同様」にサービスを受けられるようにすることについては、「配偶者と同様に受けられるようにしたほうがいい」が68.3%、「どちらともいえない」が24.3%、「配偶者と同様にする必要はない」が5.2%となっている。

【性別】

「配偶者と同様に受けられるようにしたほうがいい」の割合は、男性（61.1%）より女性（75.4%）で高くなっている。

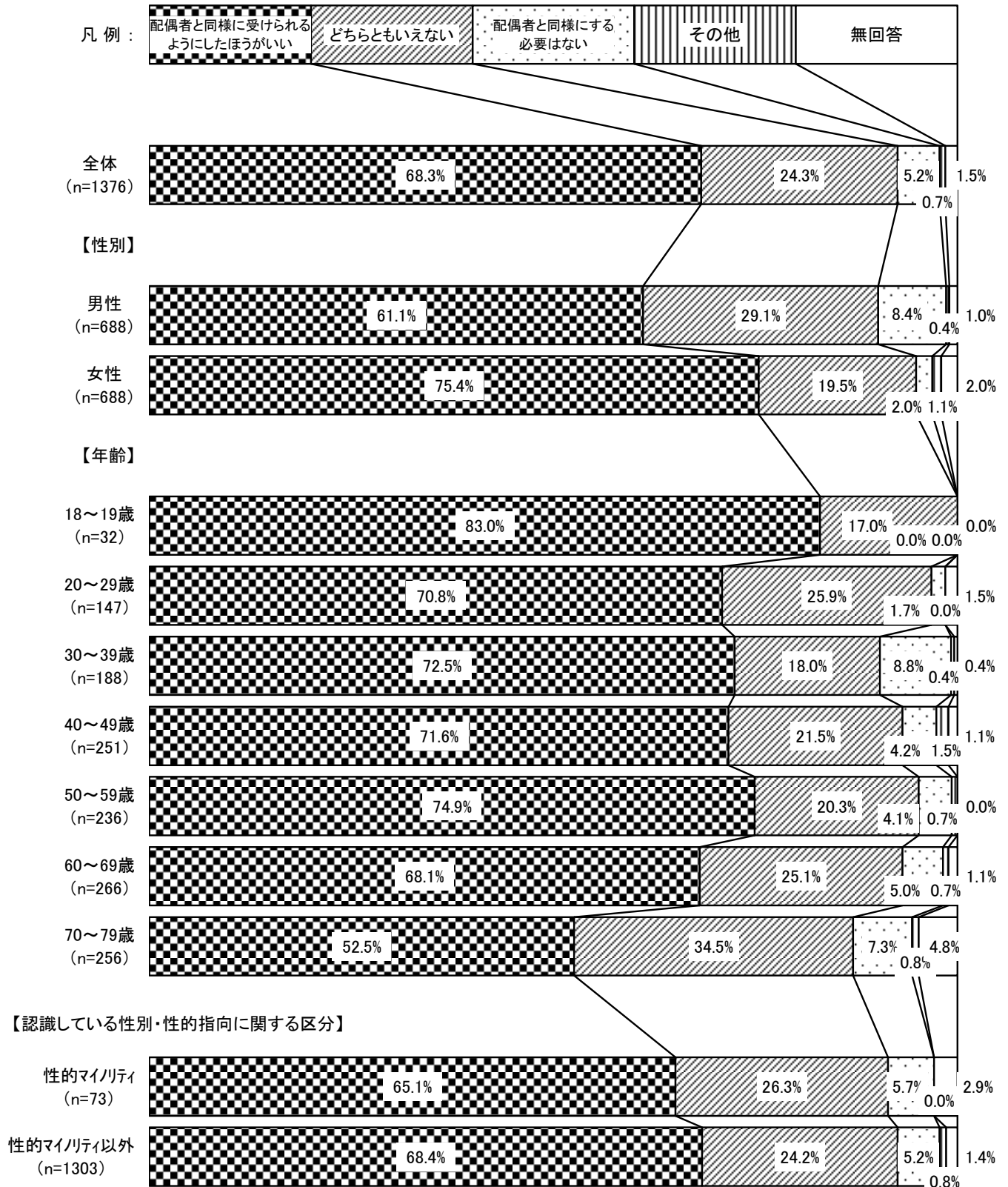
【年齢別】

「配偶者と同様に受けられるようにしたほうがいい」の割合は、10代（83.0%）で最も高く、70代（52.5%）で最も低くなっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

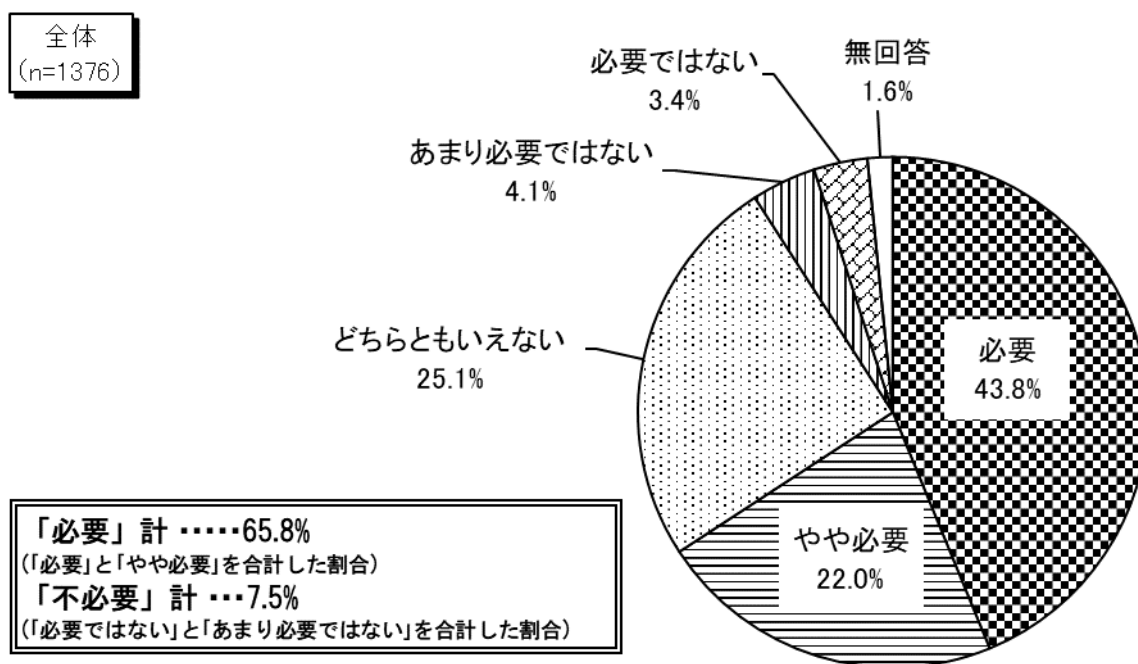
いずれの区分でも、大きな差は見られない。

ウ パートナーシップ宣誓制度における公的サービスの利用についての考え方（全体/属性別）



エ ファミリーシップ制度導入に対する考え方

問 11 - 4 県や市町村が、パートナーシップ制度に加えて「ファミリーシップ制度」を導入することについて、あなたの考えを教えてください。
(○は1つだけ)



【全体結果】

「ファミリーシップ制度」を導入することについては、「必要」計は 65.8%となっている。

【性別】

「必要」計は、男性 (60.4%) より女性 (71.1%) で高くなっている。

【年齢別】

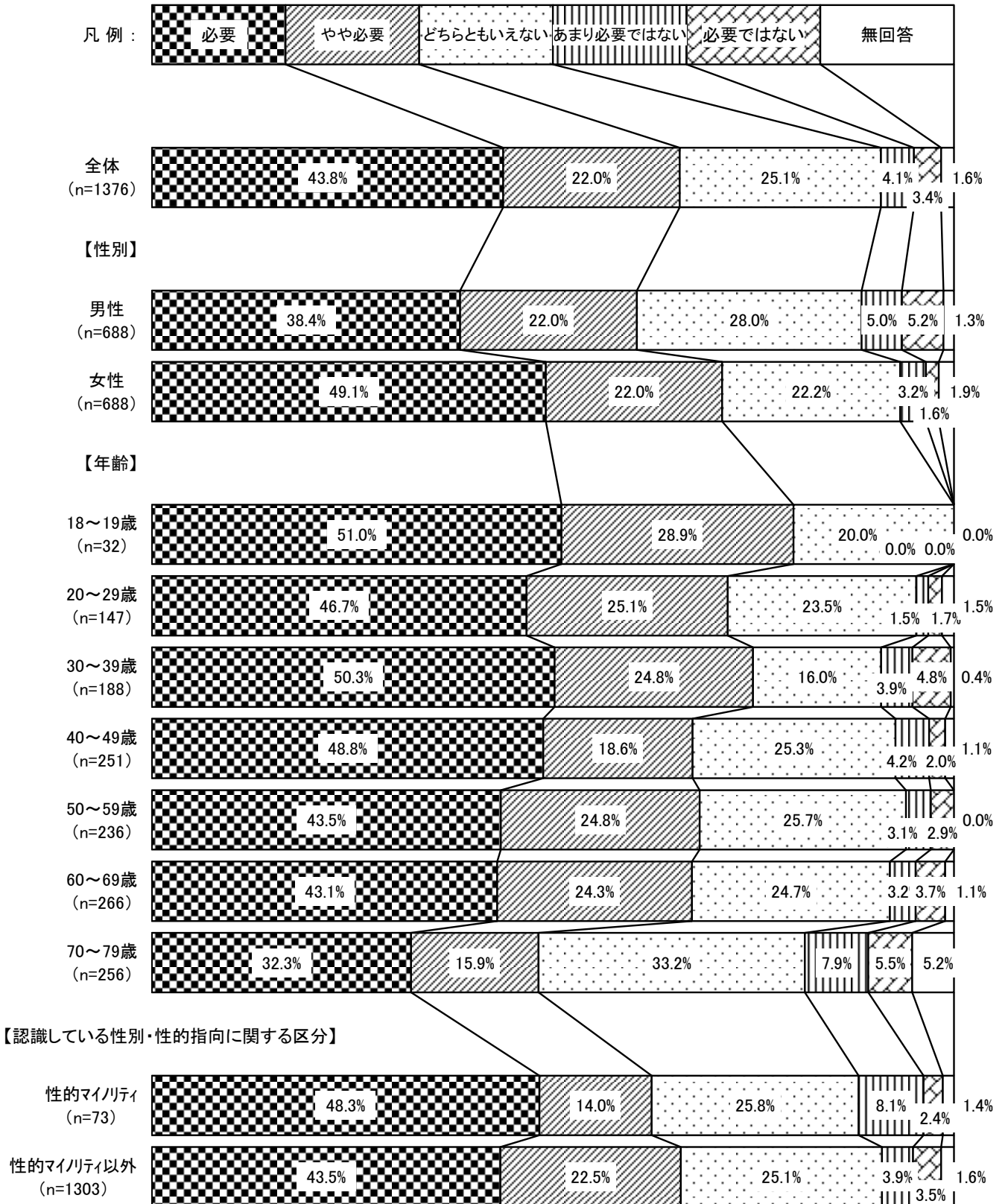
「必要」計は、10代 (79.9%) で最も高く、70代 (48.2%) で最も低くなっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「必要」計は、性的マイノリティの方でやや低く、62.3%となっている。

		「必要」計	「不必要」計
	全体 (n=1376)	65.8%	7.5%
【性別】	男性 (n=688)	60.4%	10.2%
	女性 (n=688)	71.1%	4.8%
【年齢別】	18～19歳 (n=32)	79.9%	0.0%
	20～29歳 (n=147)	71.8%	3.2%
	30～39歳 (n=188)	75.1%	8.7%
	40～49歳 (n=251)	67.4%	6.2%
	50～59歳 (n=236)	68.3%	6.0%
	60～69歳 (n=266)	67.4%	6.9%
	70～79歳 (n=256)	48.2%	13.4%
【認識している性別・性的指向に関する区分】	性的マイリティ (n=73)	62.3%	10.5%
	性的マイリティ以外 (n=1303)	66.0%	7.4%

エ ファミリーシップ制度導入に対する考え方（全体/属性別）



オ 婚姻に関する制度についての考え方

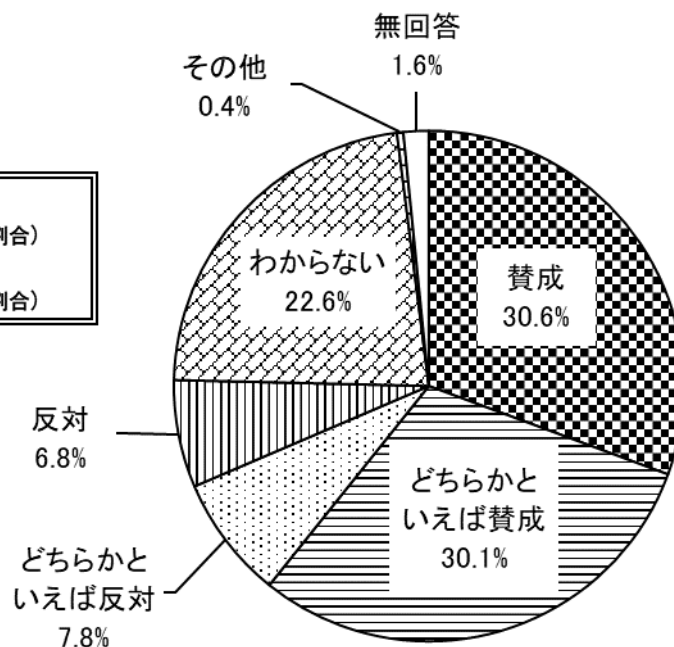
問 12 - 1 婚姻に関する制度について、あなたの考えに近いものはどれですか。

(○は1つだけ)

① 同性婚 (の法制化)

全体
(n=1376)

「賛成」計60.7%
(「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合計した割合)
「反対」計14.6%
(「反対」と「どちらかといえば反対」を合計した割合)



【全体結果】

同性婚に対する考え方については、「賛成」計は 60.7% となっている。

【性別】

「賛成」計は、男性 (54.6%) より女性 (66.7%) で高くなっている。

【年齢別】

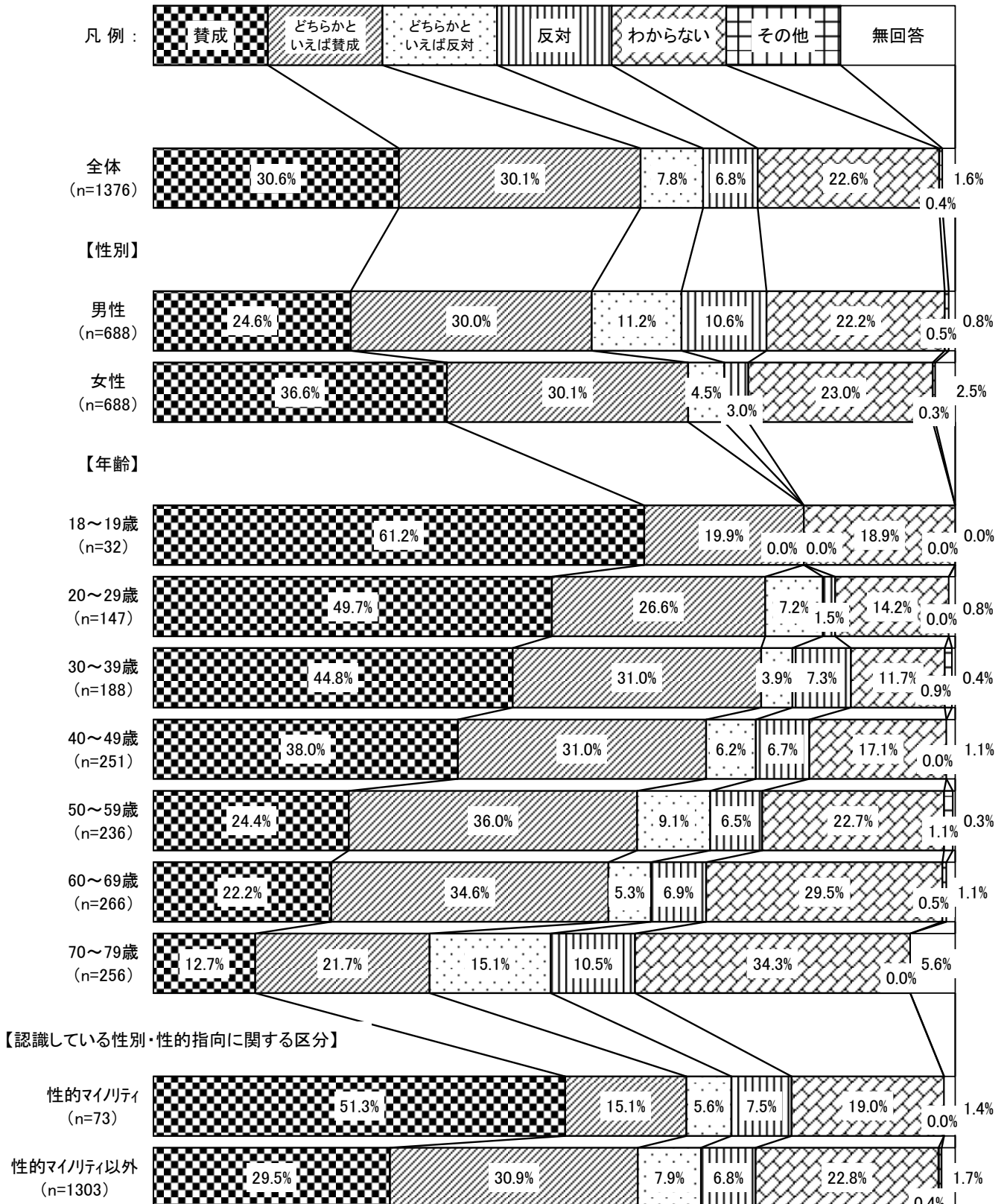
「賛成」計は、10代 (81.1%) で最も高く、70代 (34.4%) で最も低くなっている。年齢が高くなるほど賛成の割合が低くなる傾向にある。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「賛成」計は、性的マイノリティの方で高く、66.4% となっている。

		「賛成」計	「反対」計
	全体 (n=1376)	60.7%	14.6%
【性別】	男性 (n=688)	54.6%	21.8%
	女性 (n=688)	66.7%	7.5%
【年齢別】	18～19歳 (n=32)	81.1%	0.0%
	20～29歳 (n=147)	76.3%	8.7%
	30～39歳 (n=188)	75.8%	11.2%
	40～49歳 (n=251)	69.0%	12.9%
	50～59歳 (n=236)	60.4%	15.6%
	60～69歳 (n=266)	56.8%	12.2%
	70～79歳 (n=256)	34.4%	25.6%
【認識している性別・性的指向に関する区分】	性的マイリテイ (n=73)	66.4%	13.1%
	性的マイリテイ以外 (n=1303)	60.4%	14.7%

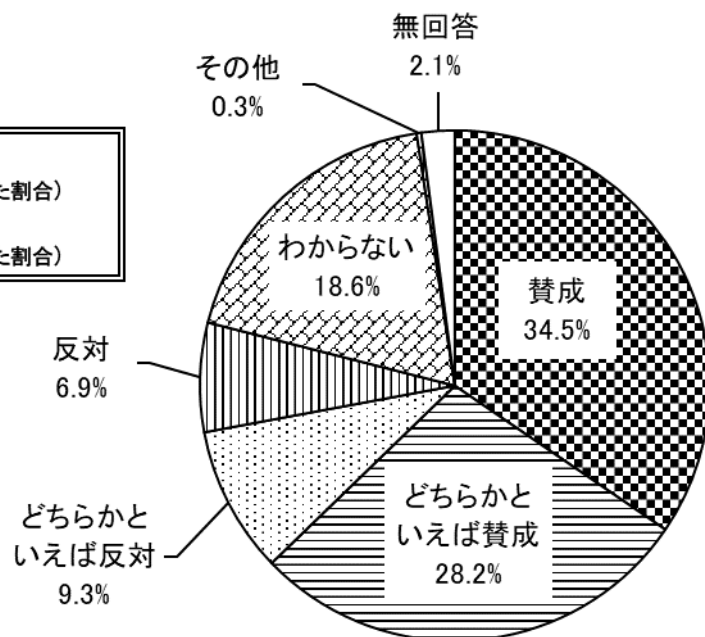
① 同性婚（の法制化）（全体/属性別）



問 12 - 1 婚姻に関する制度について、あなたの考えに近いものはどれですか。
 (○は1つだけ)
 ② 選択的夫婦別姓制度 (の法制化)

全体
 (n=1376)

「賛成」計62.7%
 (「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合計した割合)
 「反対」計16.2%
 (「反対」と「どちらかといえば反対」を合計した割合)



【全体結果】

選択的夫婦別姓制度に対する考え方については、「賛成」計は62.7%となっている。

【性別】

「賛成」計は、男性（58.4%）より女性（67.2%）で高くなっている。

【年齢別】

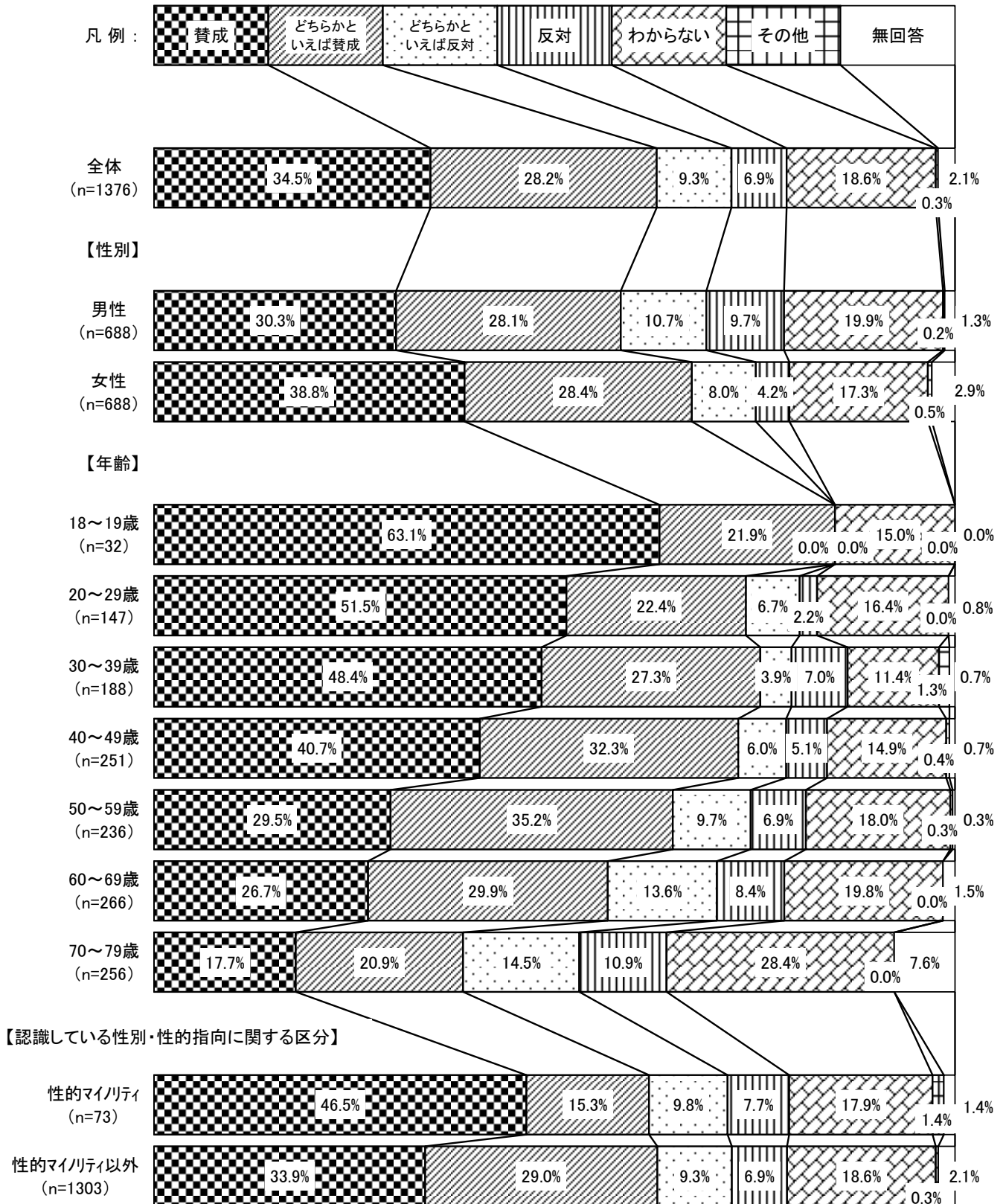
「賛成」計は、10代（85.0%）で最も高く、70代（38.6%）で最も低くなっている。年齢が高くなるほど賛成の割合が低くなる傾向にある。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「賛成」計は、いずれの区分でも大きな差は見られない。

		「賛成」計	「反対」計
	全体 (n=1376)	62.7%	16.2%
【性別】	男性 (n=688)	58.4%	20.4%
	女性 (n=688)	67.2%	12.2%
【年齢別】	18～19歳 (n=32)	85.0%	0.0%
	20～29歳 (n=147)	73.9%	8.9%
	30～39歳 (n=188)	75.7%	10.9%
	40～49歳 (n=251)	73.0%	11.1%
	50～59歳 (n=236)	64.7%	16.6%
	60～69歳 (n=266)	56.6%	22.0%
	70～79歳 (n=256)	38.6%	25.4%
【認識している性別・性的指向に関する区分】	性的マイノリティ (n=73)	61.8%	17.5%
	性的マイノリティ以外 (n=1303)	62.9%	16.2%

② 選択的夫婦別姓制度（の法制化）（全体/属性別）

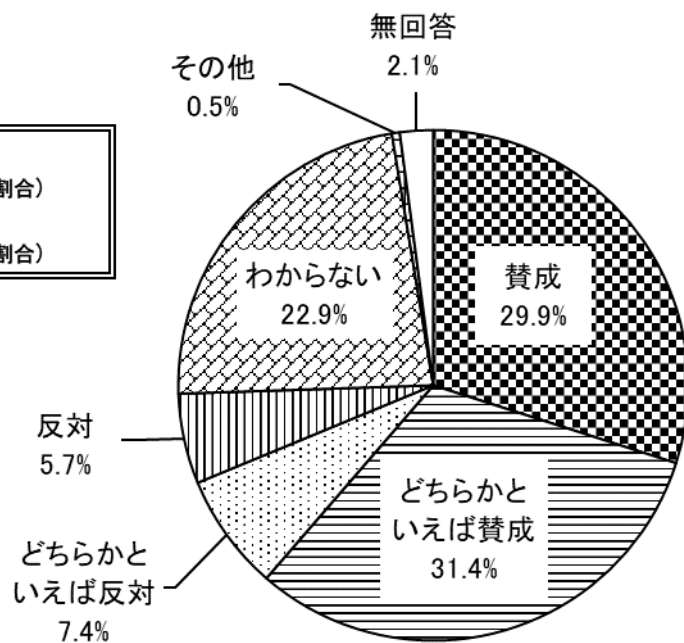


問 12 - 1 婚姻に関する制度について、あなたの考えに近いものはどれですか。
 (○は1つだけ)

③事実婚に関する権利や制度等の充実

全体
 (n=1376)

「賛成」計61.3%
 (「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合計した割合)
 「反対」計13.1%
 (「反対」と「どちらかといえば反対」を合計した割合)



【全体結果】

事実婚に関する権利や制度等の充実に対する考え方については、「賛成」計は 61.3%となっている。

【性別】

「賛成」計は、男性 (56.7%) より女性 (65.9%) で高くなっている。

【年齢別】

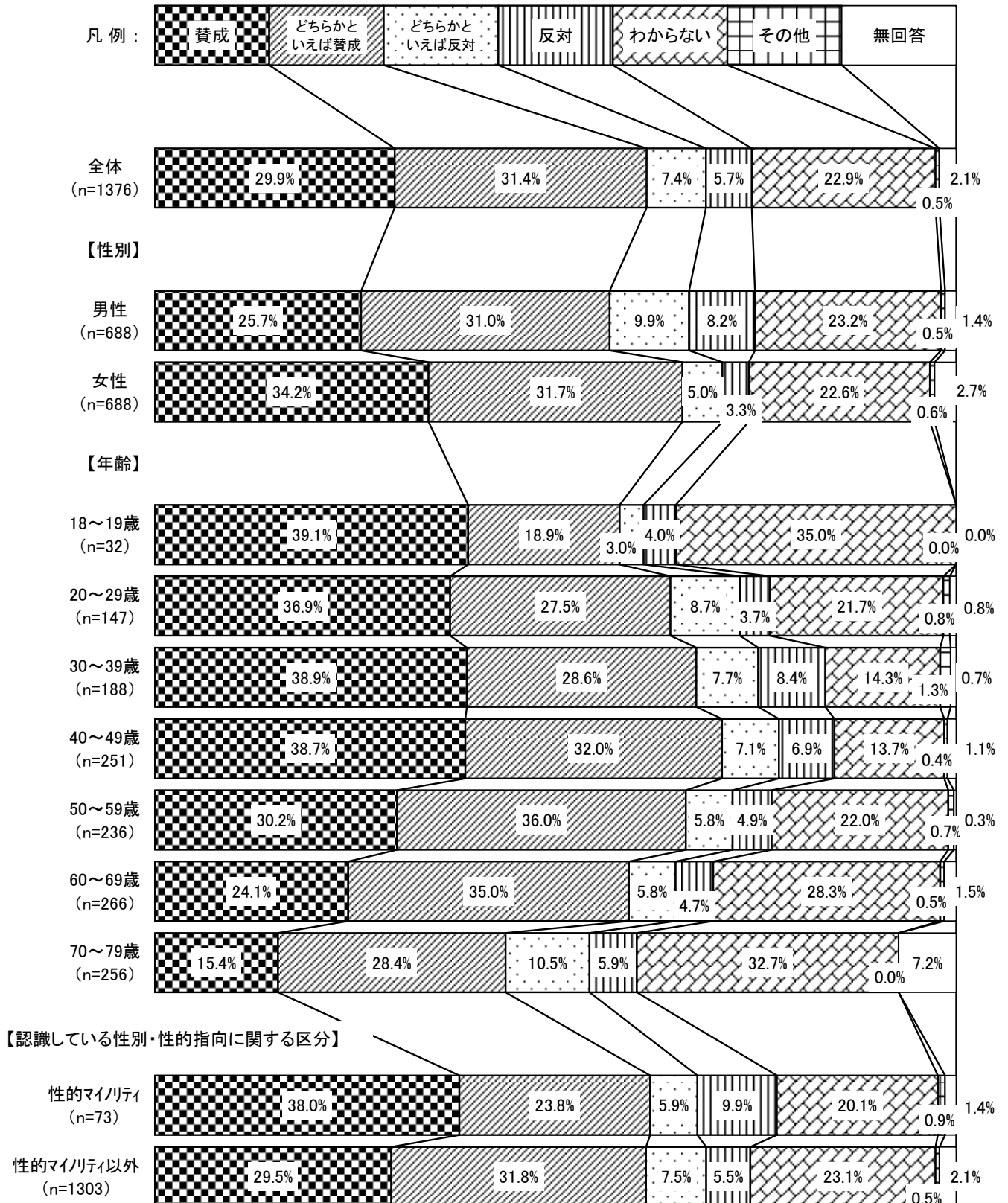
「賛成」計は、40代 (70.7%) で最も高く、70代 (43.8%) で最も低くなっている。

【認識している性別・性的指向に関する区分別】

「賛成」計は、いずれの区分でも大きな差は見られない。

		「賛成」計	「反対」計
	全体 (n=1376)	61.3%	13.1%
【性別】	男性 (n=688)	56.7%	18.1%
	女性 (n=688)	65.9%	8.3%
【年齢別】	18～19歳 (n=32)	58.0%	7.0%
	20～29歳 (n=147)	64.4%	12.4%
	30～39歳 (n=188)	67.5%	16.1%
	40～49歳 (n=251)	70.7%	14.0%
	50～59歳 (n=236)	66.2%	10.7%
	60～69歳 (n=266)	59.1%	10.5%
	70～79歳 (n=256)	43.8%	16.4%
【認識している性別・性的指向に関する区分】	性的マイリティ (n=73)	61.8%	15.8%
	性的マイリティ以外 (n=1303)	61.3%	13.0%

③事実婚に関する権利や制度等の充実（全体/属性別）



3. 調査票様式



令和5年6月

「性の多様性等に係る県民意識調査」調査票

～ ご協力のお願い ～

本県では、多様な性のあり方への無理解や偏見等により困難な立場に置かれている方がいます。このため、性のあり方にかかわらず誰もが活躍できる社会を実現するため、性の多様性の理解促進を図る啓発等に取り組んでいます。

今後の取組の参考にするため、調査に御協力をお願いします。

ご多用のところ大変恐れ入りますが、今後の県政推進の基礎となる重要な調査でありますので、**7月14日(金)まで**に、本調査票にご回答いただき同封の返信用封筒によりご投函いただくか、以下の専用 WEB ページからご回答くださいますよう、お願いします。

なお、この調査は選挙人名簿抄本から無作為に抽出した県民の皆さま3千人にお願いするものです。(調査項目は令和5年5月末現在の情報で作成しています。)

ご記入にあたってのお願い

- (1) この調査は無記名式であり、調査で得られた結果は、すべて統計的に処理し、個人が特定されることはありません。また、調査目的以外には使用いたしませんので、ご協力いただいた方にご迷惑のかかることは一切ございません。日頃のお考えを率直にお答えください。
- (2) 調査への回答は、封筒のあて名の方**ご本人がお答えください。ただし、ご本人の記入が困難な場合は、代筆でも構いません。**
- (3) お答えは原則として、問1から順に、質問ごとに用意した答えの中から、あなた(あなたのお考え)にあてはまる番号を○印で囲んでください。
質問文に「1つだけ」、「いくつでも」などの指定がある場合は、その指定に従ってお答えください。
- (4) 質問によっては回答していただく方が限られる場合があります。案内に沿ってお答えください。
- (5) 答えが「その他」となる場合等は、() 内に具体的な内容を記入してください。

本アンケート調査は、WEB からもお答えいただけます

次の URL 又は右の QR コードからアンケート画面へお入りください。

URL : <https://>

QR コード

ログイン画面が表示されますので、以下の ID とパスワードを入力してご回答ください。

※この ID とパスワードは、重複回答を防ぐための
ものでランダムに設定されています。個人を特定
するものではありません。

※WEB からご回答いただく場合は、調査票への記入・返信は不要です。

【お問い合わせ先】 新潟県知事政策局政策企画課男女平等・共同参画推進室
(〒950-8570 新潟市中央区新光町4番地1)
電話：025-280-5787 (平日 8時30分から 17時15分まで)

《あなたのことについてお聞きします》

問1 あなたが出生時に指定された性別（戸籍上の性別）について、あてはまるものをお答えください。（○は1つだけ）

- | | |
|---------------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
| 3 その他（回答しない等） | |

問2 あなたが出生時に指定された性別（戸籍上の性別）に関わらず、あなたが現在、自分自身で認識している性別について、あてはまるものをお答えください。

（○は1つだけ）

- | | |
|---------------------|------------|
| 1 男性 | 2 女性 |
| 3 男性・女性の間 | 4 男性・女性の両方 |
| 5 男性・女性のどちらでもない | |
| 6 時により変化する | |
| 7 その他（わからない・回答しない等） | |

問3 あなたの恋愛の対象となる性別について、あてはまるものをお答えください。（○は1つだけ）

- | | |
|---------------------|-------------|
| 1 異性が好き | 2 同性が好き |
| 3 両性（男性・女性ともに）が好き | 4 好きになる性はない |
| 5 決めていない、決めたくない | |
| 6 その他（わからない・回答しない等） | |

《用語への理解等についてお聞きします》

問4 あなたは次の言葉についてどの程度知っていますか。（それぞれに○は1つだけ）

	言葉は知っていて、 内容も理解している	言葉は知っているが、 内容は理解していない	言葉を知らない
① <small>エルジービーティ</small> LGBT	1	2	3
② 性的マイノリティ・ 性的少数者	1	2	3
③ 性的指向	1	2	3
④ 性自認	1	2	3
⑤ 性同一性	1	2	3
⑥ ジェンダーアイデン ティティ	1	2	3
⑦ <small>ソジ(ソギ)</small> SOGI	1	2	3
⑧ アウティング	1	2	3
⑨ アライ	1	2	3

- ① 「LGBT」…レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（出生時に割り当てられた性別（戸籍上の性別）と性自認等が一致しない人）の言葉の頭文字を組み合わせた、性的マイノリティを総称する言葉です。
LGBTのいずれにも当てはまらない人々もあり、「LGBTQ」などと表現されることがあります。エルジービーティと読みます。
- ② 「性的マイノリティ・性的少数者」…LGBTなど多様な性のあり方の中で少数派とされる人々のことをいいます。
- ③ 「性的指向」…恋愛感情又は性的感情の対象となる性別についての指向をいいます。
- ④⑤⑥ 「性自認」、「性同一性」、「ジェンダーアイデンティティ」
…英語の Gender Identity の日本語訳として使われ、自己の属する性別についての認識に関するその同一性の有無又は程度に係る意識をいいます。
- ⑦ 「SOGI」…性的指向（Sexual Orientation）と性自認（Gender Identity）の英語の頭文字を取った言葉で、あらゆる人の性のあり方を尊重する考え方。ソジ又はソギと読みます。
- ⑧ 「アウティング」…性的指向又は性自認に関して本人の意に反して本人の秘密にしていることを明かすことをいいます。
- ⑨ 「アライ」…自らは性的マイノリティでは無いが、性的マイノリティの方の活動を支持し支援している人たちのことをいいます。

問5-1 あなたの身近（回答者を除く）に性的マイノリティの方はいますか。
(○は1つだけ)

1 いる	2 いない	3 わからない
4 その他 ()

問5-2 問5-1で「1 いる」に○をつけた方だけにお聞きします。

あなたと性的マイノリティの方の関係性は次のうちどれですか。
(○はいくつでも)

1 子	2 配偶者	3 その他親族（親・兄弟姉妹等）
4 パートナーシップ宣誓制度のパートナー又はパートナーと同様の事情にある方(※)		
5 友人	6 同じ会社や学校の知人	
7 その他 ()

(※) 8ページの「パートナーシップ宣誓制度」の説明をご覧ください。

問6 性的マイノリティについてどのような考えをお持ちですか。 (○は3つまで)

1 理解に努めようと思う	
2 性の多様性として認める必要がある	
3 人それぞれであり、自分とは関係ない	
4 意識したことがない	
5 特に注目されている一部の人のことで、身近なことではない	
6 そっとしておくほうがいいと思う	
7 理解ができない	
8 その他 ()

問7 身近な人（家族等）から性的マイノリティであることを打ち明けられたらどうしますか。
(○はいくつでも)

1 今まで通り付き合い	
2 本人が生きたいように手助けする	
3 疎遠になるかもしれない	
4 隠すようすすめる	
5 付き合いをやめる	
6 受け入れられないが、反対もしない	
7 わからない	
8 その他 ()

《これまでの経験や必要と考える制度についてお聞きします》

問8-1 これまでに性的マイノリティを理由にした以下のことについて、ご自身が経験したことや身近で見聞きしたことはありますか。

(○はいくつでも)

- | | | |
|----|-------------------------------|---|
| 1 | 家族や親族の無理解 | |
| 2 | 友人の無理解 | |
| 3 | 教職員の無理解 | |
| 4 | 上司や同僚の無理解 | |
| 5 | 地域住民の無理解 | |
| 6 | 相談相手の不在 | |
| 7 | 家庭（配偶者やパートナー含む）内暴力 | |
| 8 | 性暴力被害 | |
| 9 | 死にたいほどつらいと感じる | |
| 10 | アウティング | |
| 11 | いじめ、嫌がらせ | |
| 12 | 施設を利用する際、自認する性で利用できない | |
| 13 | 書類の性別記載欄で自認する性を選択できない | |
| 14 | 職場や就職活動でのハラスメント | |
| 15 | 人間関係の構築が難しい、孤立やコミュニケーション不足となる | |
| 16 | 職場で法的な家族と同様の福利厚生が受けられない | |
| | （内容： | ） |
| 17 | 公的サービスで法的な家族と同様の対応が受けられない | |
| | （内容： | ） |
| 18 | 民間サービスで法的な家族と同様な対応が受けられない | |
| | （内容： | ） |
| 19 | その他（ | ） |
| 20 | 特にない | |

問 8-2 問 8-1 で 1～19 に○をつけた方にお聞きします。

問 8-1 で○をつけた内容について、ご自身で体験した又は身近で見聞きした場面は次のうちどれですか。

(○はいくつでも)

1 家庭
2 学校
3 職場
4 テレビ・ラジオ・新聞等
5 インターネット・SNS
6 書籍・雑誌
7 その他 ()

問 8-3 問 8-1 で 1～19 に○をつけた方にお聞きします。

問 8-1 で○をつけた内容について、特につらい又はひどいと感じた出来事を具体的に3つまでご記入ください。

選択肢番号	具体的な内容

問9 本県では、性のあり方にかかわらず誰もが活躍できる社会を実現するため、性の多様性の理解促進を図る啓発等に取り組んでいます。あなたは、本県において性の多様性への理解が進んでいると思いますか。

(○は1つだけ)

- 1 理解が進んでいる
- 2 多少理解が進んでいる
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり理解が進んでいない
- 5 理解が進んでいない
- 6 わからない

問10-1 あなたは、多様な性のあり方への無理解や偏見をなくし、性的マイノリティの方がより暮らしやすい環境を整えるため、県や市町村が取組を進めることは必要だと思いますか。

(○は1つだけ)

- 1 必要だと思う
- 2 やや必要だと思う
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり必要だと思わない
- 5 必要ではないと思う
- 6 わからない

問 10 - 2 県や市町村による以下の取組や施策について、どの程度必要だと思いますか。
(それぞれに○は1つだけ)

	必要	やや必要	どちらとも いえない	あまり 必要ない	必要では ない
① イベントや講座、研修会等の開催	1	2	3	4	5
② テレビ・新聞等のメディアや自治体ホームページ等を活用した情報発信	1	2	3	4	5
③ 電話や SNS による専門の相談窓口の設置	1	2	3	4	5
④ 性的マイノリティの方同士が交流できる場や機会の提供	1	2	3	4	5
⑤ 性の多様性の理解に関連する条例等の整備	1	2	3	4	5
⑥ 申請書類等の性別欄に男性・女性以外の選択肢を追加	1	2	3	4	5
⑦ 行政職員や教職員等への研修・教育	1	2	3	4	5
⑧ 企業における従業員の研修・教育への支援	1	2	3	4	5
⑨ 学校での児童生徒への啓発や、性的マイノリティとされる児童生徒への支援	1	2	3	4	5
⑩ 男女別の区分に加え、男女の区別なく使用できる共用トイレや更衣室等の整備	1	2	3	4	5

《パートナーシップ宣誓制度等についてお聞きします》

問 10 - 2 の選択肢にあるような取組のほか、一部の自治体において、パートナーシップ宣誓制度（※下表のとおり）が導入されています。

※ 「パートナーシップ宣誓制度」とは

法的に婚姻が認められていない同性カップルなど性的マイノリティのカップルが、日常生活において相互に責任をもって協力し合うパートナーシップ関係であることを宣誓し、宣誓したことについて自治体が証明する制度です。

パートナーシップ宣誓制度は、制度の利用を強制するものではなく、当事者の希望により利用していただくものです。

婚姻制度との違い

法律で定める婚姻では、相続権や扶養義務等の法律上の権利や義務が生じますが、自治体が行うパートナーシップ宣誓制度では、このような法律上の効果は生じません。

自治体の証明による効果

証明書の提示により、パートナー関係にあることの確認や説明が容易になり、様々なサービスを受けやすくなります。

受けられるサービス

（公的サービス）

自治体ごとにとり組状況が異なりますが、以下のようなサービスを受けられる場合があります。

- ・ 公営住宅への入居の際、パートナー関係にある者も入居対象となる
- ・ 公立病院での手術同意などの際、法律上の家族と同様の対応を受けられる など

（民間サービス）

証明書の提示により、家族と同様のサービスを受けられる場合があります。

- ・ 料金の家族割引の対象とする
- ・ 保険の受取人等に指定することができる など

パートナーシップ宣誓制度の導入状況

現在、県内では、新潟市、長岡市、三条市が導入しています。都道府県単位では、茨城県、大阪府など12都府県が導入しています。

また、パートナーのお二人に加え、近親者（子や親など）を含めて証明する「ファミリーシップ制度」を導入する自治体もあります。

「ファミリーシップ宣誓制度」とは

ファミリーシップ制度は、パートナー関係にある方の子や親など近親者等について、日常生活において協力しあうことを約した関係を宣誓し、自治体が証明するものです。

ファミリーシップ制度については法律上の効果は生じませんが、保育所等の入所申込を行う場面などで活用されています。

※県内では長岡市、三条市が導入済です。

問 11 - 1 あなたは、パートナーシップ宣誓制度を知っていましたか。(○は1つだけ)

- 1 言葉は知っていて、内容も理解している
- 2 言葉は知っていたが、内容は理解していなかった
- 3 知らない

問 11 - 2 県や市町村がパートナーシップ宣誓制度を導入することについて、あなたの考えを教えてください。(○は1つだけ)

- 1 必要
- 2 やや必要
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり必要ではない
- 5 必要ではない

問 11 - 3 公営住宅の入居要件や公立病院での手術同意等、公的サービスの利用にあたり、パートナーシップ宣誓制度の証明を受けた方を「配偶者と同様」にサービスを受けられるようにすることについて、あなたの考えを教えてください。

(○は1つだけ)

- 1 配偶者と同様に受けられるようにしたほうがいい
- 2 どちらともいえない
- 3 配偶者と同様にする必要はない
- 4 その他 ()

問 11 - 4 県や市町村が、パートナーシップ制度に加えて「ファミリーシップ制度」を導入することについて、あなたの考えを教えてください。

(○は1つだけ)

- 1 必要
- 2 やや必要
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり必要ではない
- 5 必要ではない

問 12-1 婚姻に関する制度について、あなたの考えに近いものはどれですか。

(○は1つだけ)

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	その他
① 同性婚 (の法制化)	1	2	3	4	5	6
② 選択的夫婦別姓制度 (の法制化)	1	2	3	4	5	6
③ 事実婚に関する権利や制度等の充実	1	2	3	4	5	6

問 12-2 問 12-1 で「その他 (6)」に○をつけた方にだけお聞きします。

「その他」の内容をご記入ください。

	その他 (6) の内容
① 同性婚 (の法制化)	
② 選択的夫婦別姓制度 (の法制化)	
③ 事実婚に関する権利や制度等の充実	

- ①「同性婚」…当事者双方の性別が同一である婚姻のことをいいます。
 ②「選択的夫婦別姓制度」…夫婦が望む場合には、結婚後も夫婦がそれぞれ結婚前の姓を称することを認める制度をいいます。
 ③「事実婚」…婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻と同様の状態にあることをいいます。

問 13 性の多様性の理解促進に関してご意見がありましたらご自由にご記入ください。

お答えいただきました内容を統計的に分析するため、あなたご自身のことをもう少しお聞かせください。

なお、この情報も含め、調査で得られた結果は、すべて統計的に処理し、個人が特定されることはありません。また、調査目的以外には使用いたしませんので、ご協力いただいた方にご迷惑のかかることは一切ございません。

問 14-1 あなたの年代をお答えください。 (○は1つだけ)

1 18～19歳 (10代)	5 50～59歳 (50代)
2 20～29歳 (20代)	6 60～69歳 (60代)
3 30～39歳 (30代)	7 70～79歳 (70代)
4 40～49歳 (40代)	

問 14-2 あなたのご職業をお答えください。 (○は1つだけ)

1 農林水産業 (家族従事者を含む)	5 専業主婦・主夫
2 自営業・自由業 (家族従事者を含む)	6 学生
3 企業、役所、団体などの正規職員	7 無職 (定年退職者を含む)
4 パート・アルバイト、契約社員、派遣社員など	8 その他 ()

問 14-3 あなたのお住まいはどちらですか。該当する番号に○をつけてください。 (○は1つだけ)

1 新潟市	2 長岡市	3 三条市	4 柏崎市	5 新発田市
6 小千谷市	7 加茂市	8 十日町市	9 見附市	10 村上市
11 燕市	12 糸魚川市	13 妙高市	14 五泉市	15 上越市
16 阿賀野市	17 佐渡市	18 魚沼市	19 南魚沼市	20 胎内市
21 聖籠町	22 弥彦村	23 田上町	24 阿賀町	25 出雲崎町
26 湯沢町	27 津南町	28 刈羽村	29 関川村	30 粟島浦村



回答へのご協力ありがとうございました。
ご記入いただいた調査票は7月14日(金)までに
同封の返信用封筒に入れ、ポストへ投函ください。
(切手は不要です)